

Probbox

VAN AND WAGON

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。



このたびは Probox をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書はプロボックスの取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。

安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。



- ・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
- ・メーカーオプションのDVDナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の「DVDナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。
- ・トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。
- ・装備については、販売店でカタログをご請求ください。
- ・ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

- 保証および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
- トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
- 取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートとともにお車に大切に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書およびメンテナンスノートをお車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。

とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですでの、必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただくかたのために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

ドアの開閉、シート、シートベルト、エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、ラジオ、室内装備品（時計、カップホルダーなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

SRSエアバッグ、ABSなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境にやさしい経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者やほかの人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。



警告

記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること。



注意

記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること。

他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。



知識

知っておくと便利なこと。
知っておいていただきたいこと。

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。



してはならない行為。

操作説明（3～8章）の見方

操作説明（3～8章）の基本的な読み方について説明しています。

タイトル

階層により区別してあります。



グレード等により装着の有無が異なることをお知らせします。

ヘッダー

ページの内容を案内しています。

ツメタイトル

各章のタイトルを案内しています。

ハンドル・ミラーの調整

ドアミラーの調整

ミラーヒーターの使い方★

熱線入りフロントウインドウシールドガラス付き車

熱線入りフロントウインドウシールドガラスを除く

作動表示灯

作動表示灯

スイッチ

スイッチ

取り扱いの

取り扱いの

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。

警告 作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手を触れないでください。
やけどをするおそれがあり危険です。

注意 連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知識

ミラーヒーターについて

ドアミラーの鏡面を暖めて、霜、露、雨滴などを取り除きます。

●熱線入りフロントウインドウシールドガラス付き車は、ミラーヒーターと一緒に熱線入りフロントウインドウシールドガラス（P.188）も作動します。

作動条件について

エンジンスイッチがONの位置のとき使用できます。

001

002

操作要領

操作要領が記載されています。 前ページ参照。

知識

注意

前ページ参照。 前ページ参照。

警告

■本書では新計量法の施行に伴い、国際単位系（略称SI単位）を基本に記載し、従来単位を{ }内に記載してあります。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。



タイトルからさがす

6

- 「目次」
- 「ツメタイトル」
- 「各章のはじめの目次」



取りつけ位置からさがす

8

- 「イラスト目次」



名称からさがす

366

- 「五十音さくいん」



警告灯からさがす

374

- 「警告灯さくいん」



症状からさがす

366

- 「五十音さくいん」
(色つき文字の項目)

目次

CONTENTS

イラスト目次 8

1	安全ドライブのために 必ず守っていただき たいこと	13
2	基本操作早わかり (はじめてこの車にお乗りになるかたへ)	89
3	運転装置の取り扱い	106
4	室内装備の取り扱い	217
5	安全・快適装備の 解説と注意	245
6	車との上手な 付き合い方	267
7	メンテナンス	283
8	万一のとき	333
	さくいん	366



警告

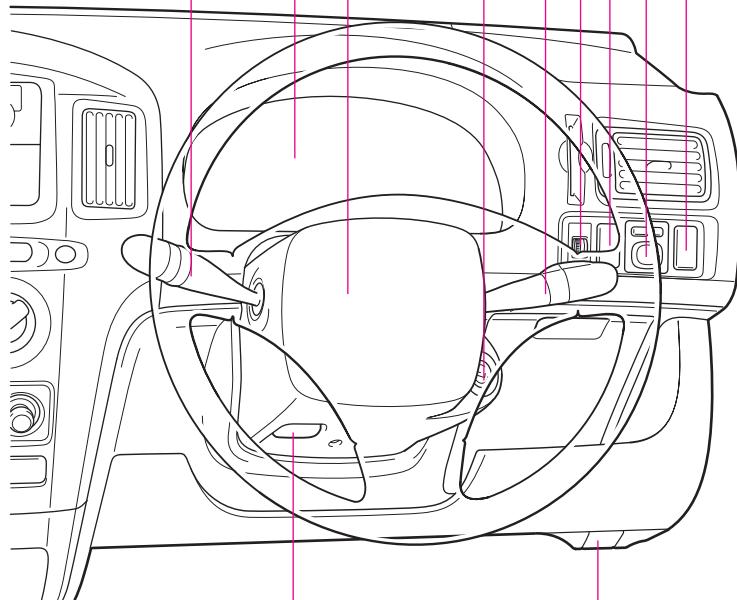
・安全・快適ドライブのために	14	・オーバーヒート・万一の事故	80
・安全装備について	43	・その他の注意	83
・運転装置について	62	・CNG車について	87
・メンテナンスについて	69		
・各部の開閉	90	・警告灯	100
・シートの調整	92	・スイッチ類の取り扱い	102
・シートベルトの着用	94	・エアコン・ラジオ	104
・運転するときは	96		
・ドア・ドアガラスなどの開閉	108	・オートマチック車の運転のしかた	174
・シートの調整	134	・パーキングブレーキの使い方	180
・シートベルトの着用	148	・メーター・表示灯・警告灯の見方	182
・ハンドル・ミラーの調整	156	・スイッチの使い方	
・エンジンのかけ方	161	(ライト・ワイパーなど)	204
・シフトレバーの使い方	168		
・エアコン・ヒーターの取り扱い	218	・室内装備品の使い方	
・ラジオの取り扱い	226	(サンバイザー・時計など)	233
・SRSエアバッグ	246	・Vフレックスフルタイム4WD	262
・シートベルト関係	256	・Super ECT	264
・EBD付ABS &ブレーキアシスト	258	・クラッチスタートシステム	266
・雨の日の運転について	268	・経済的な運転	278
・寒冷時の取り扱い	269	・環境保護のために	280
・車の手入れ	284	・メンテナンスデータ	324
・日常点検	308		
・工具・スペアタイヤ・発炎筒	334	・けん引について	358
・故障したときは	342	・ガスもれに気づいたときは	362
・パンクしたときは	344	・事故が起きたときは	363
・バッテリーがあがったときは	351	・車両を緊急停止するには	365
・オーバーヒートしたときは	354		
・五十音さくいん	366	・警告灯さくいん	374

早
基
本
わ
か
り
操作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
い安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
と
き

イラスト目次

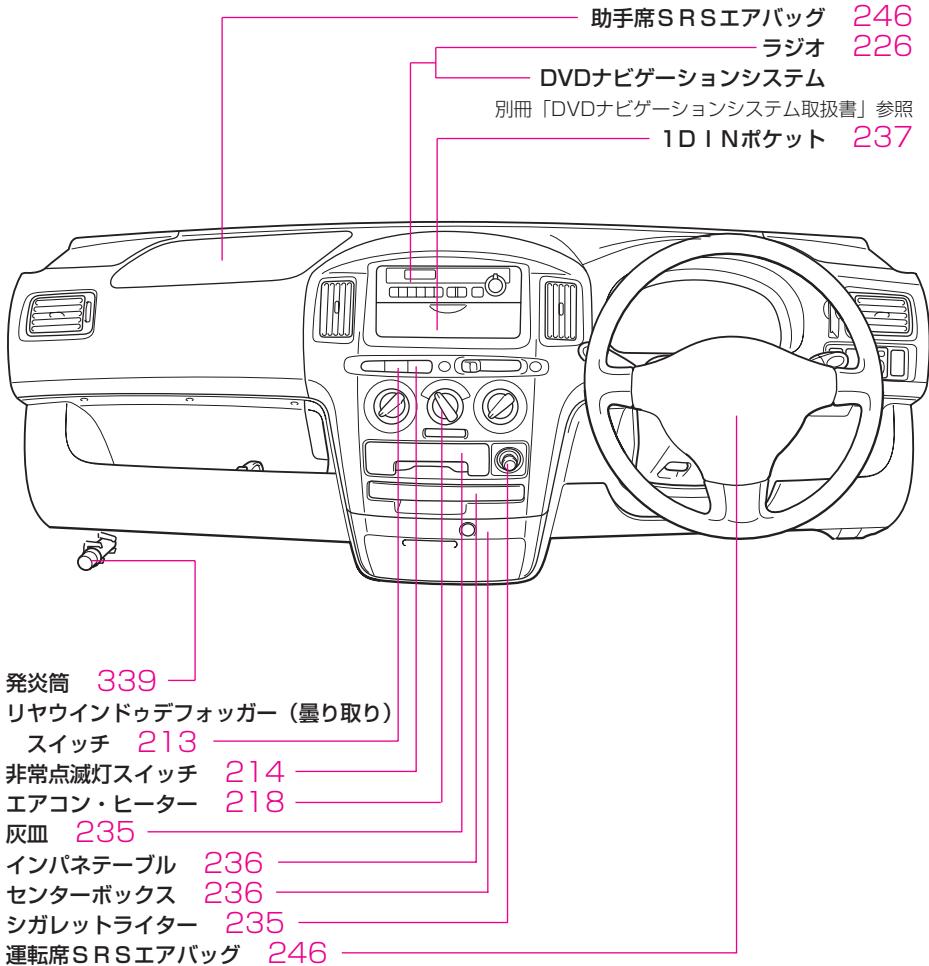
インストルメントパネル

- リヤフォグランプスイッチ 208
ドアミラー調整／格納スイッチ 158
バックドアロックスイッチ 115
光軸上下調整ダイヤル 207
ライトスイッチ 204、205
方向指示レバー 206
エンジン（イグニッション）スイッチ 161
ホーン 215
メーター・表示灯・警告灯 182
ワイパー＆ウォッシャー
スイッチ 209



- ハンドル調整レバー 156
ポンネットオープナー 132

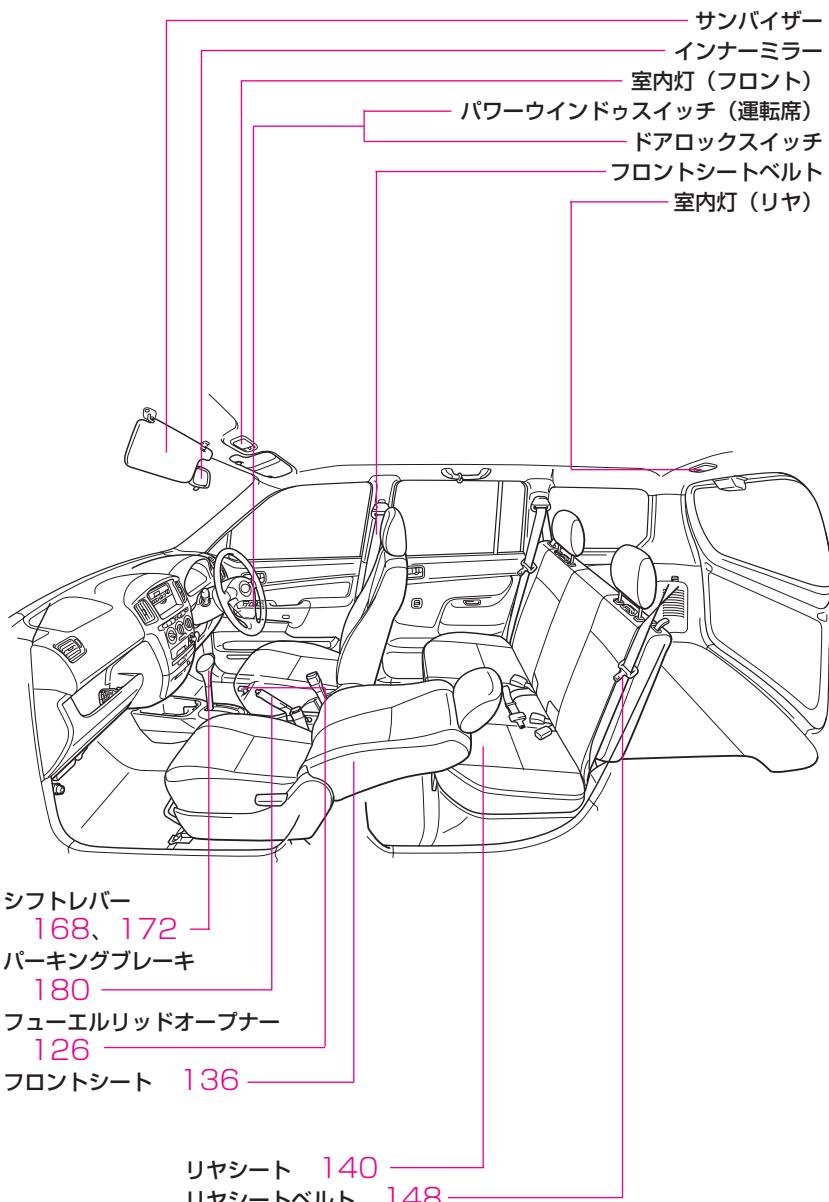
※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。



※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

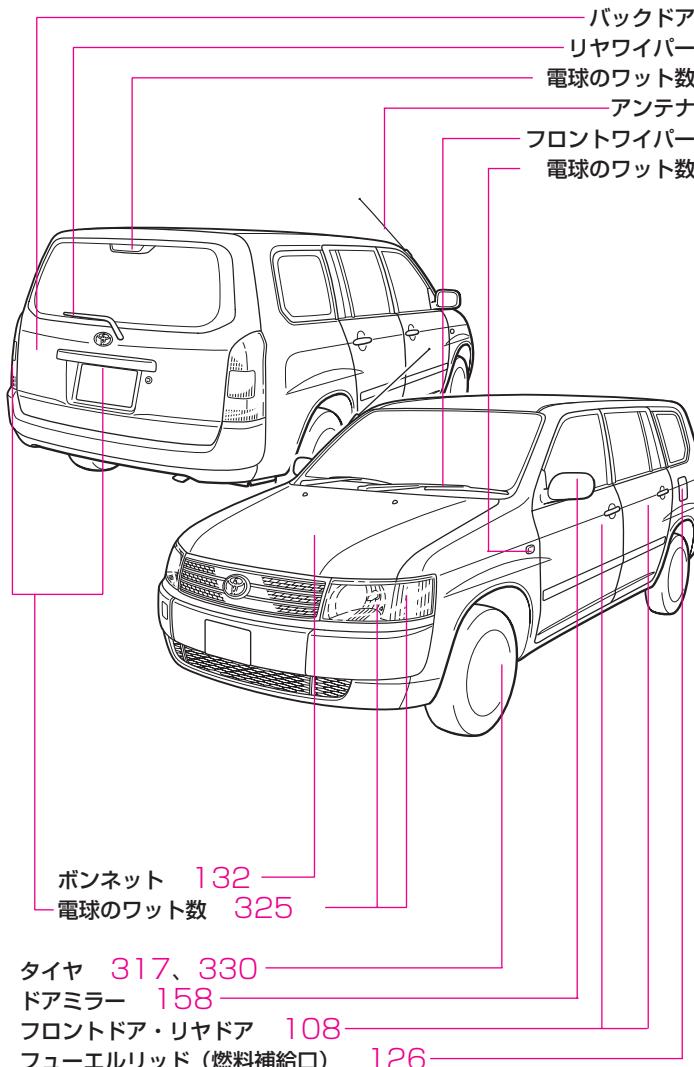
室内



※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

車両外観



※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

MEMO

安全ドライブのために 必ず守っていただき たいこと



警告

1

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および
「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されて
います。重要ですので必ずお読みください。

安全・快適ドライブの ために 14

1. 点検整備実施のお願い 14
2. お出かけ前の注意 15
3. 燃料補給時の注意 20
4. 走行するときの注意 23
5. 走行中、異常に
 気づいたら 32
6. 駐停車するときの注意 35
7. 排気ガスに対する注意 37
8. お子さまを
 乗せるときの注意 40

安全装備について 43

1. シートについての注意 43
2. 子供専用シートについての
 注意 46
3. シートベルトについての
 注意 49
4. SRSエアバッグについての
 注意 56
5. EBD付ABS&ブレーキ
 アシストについての注意 61

運転装置について 62

1. オートマチック車についての
 注意 62
2. 4WD車についての注意 66

メンテナンスについて 69

1. 点検・手入れ時の注意 69
2. タイヤについての注意 71
3. バッテリーについての
 注意 76
4. ジャッキアップについての
 注意 78

オーバーヒート・ 万一の事故 80

1. オーバーヒートについての
 注意 80
2. 万一の事故のときの注意 81

！ その他の注意 83

CNGについて 87



警告

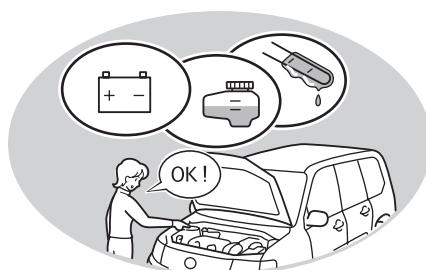
1. 点検整備実施のお願い



1. 点検整備実施のお願い

点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。

① 点検整備を必ず実施してください。



- 日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。
日常点検（P.308参照）や定期点検など、点検整備の詳細については、「メンテナンスノート」をお読みください。
 - 定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。
定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。
- 点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、未永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。
- 点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼きつきなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を越えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。
- 日常点検で異常があつたり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。



お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②低水温表示灯（青色）が消灯するまでは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。



●暖機不足の状態では触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります（ガソリン車）。

●暖機は低水温表示灯（青色）が消灯する程度で十分です。

③走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

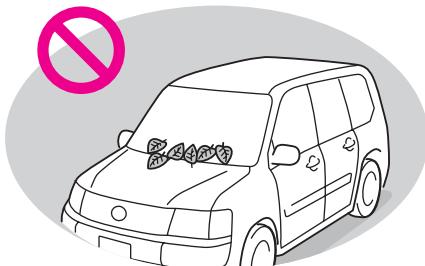
●ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯（P.201）が点灯します。



警告

2. お出かけ前の注意

- ④フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついているときは取り除いてください。



- 外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

- ⑤停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。



- ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ⑥運転席足元、運転席下にものを置かないでください。



- 空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

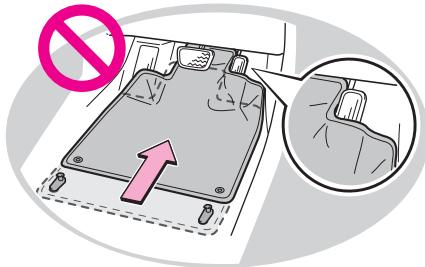
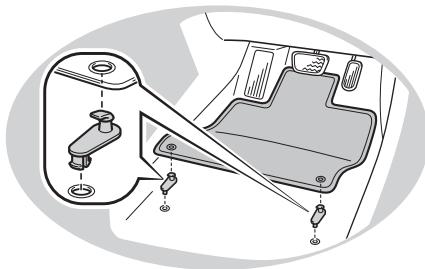
⑦ フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

● 運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないとい、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

● 運転する前に、以下のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがP（オートマチック車）またはN（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。





警告

2. お出かけ前の注意

⑧助手席や後席に荷物を積み重ねないでください。



- 急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。

⑨燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。



- 万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

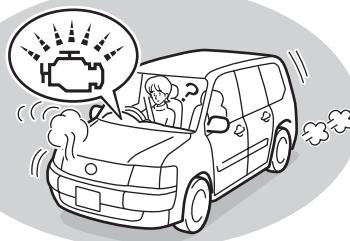
⑩ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

- ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑪次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音や臭いや振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じたとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 地面に油のもれたあとが残っているとき。
- メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき。



⑫お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

- 飲酒運転は法律で禁止されています。
- 飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



⑬エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

- エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。



警告

3. 燃料補給時の注意



3. 燃料補給時の注意

燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、燃料に引火して、やけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ① 指定以外の燃料を使用しないでください。



- ガソリン車の指定燃料は無鉛レギュラーガソリン、CNG車の指定燃料は13A（ガス事業法適合圧縮天然ガス）です。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪ガソリン・灯油・アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノックングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。



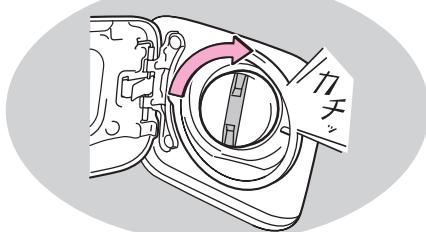
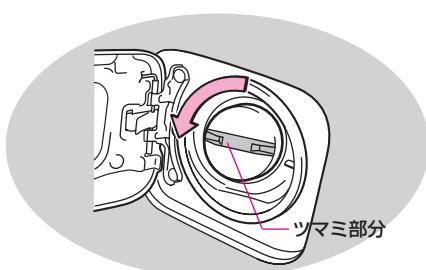
②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。



- エンジンは必ず停止してください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるときなど補給操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
- 補給中、再び車内のシートに戻ったり、帯電している人や物に触れないでください（再帯電のおそれがあります）。
- フューエルリッドには静電気除去を行ったかた以外の人を近づけないでください。
- その他、スタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■ガソリン車の燃料補給時は、次のことをお守りください。

- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
その音が止まってからゆっくり開けてください。
- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。





安全・快適ドライブのために



警告

3. 燃料補給時の注意

■CNG車の燃料補給時は、次のことをお守りください。

- キャップは確実に閉めてください。閉まっていないと、ほこりなどの付着による充てん口のガス密封不良により、燃料がもれ、火災につながるおそれがあり危険です。
- CNG専用のスタンドでガスの補給をするときは、スタンドの係員におまかせください。

③補給時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

- 燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、注意してください。



4. 走行するときの注意

① 走行中はエンジンを停止しないでください。

- エンジンがかからっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- マニュアル車は、キーを“LOCK”にするとキーが抜け、ハンドルがロックされハンドル操作できなくなるおそれがあります。

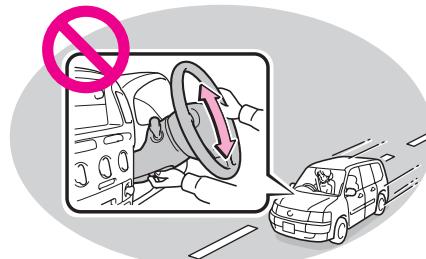
走行するときは、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



② 走行中はハンドル位置やミラー・運転席シートの調整はしないでください。

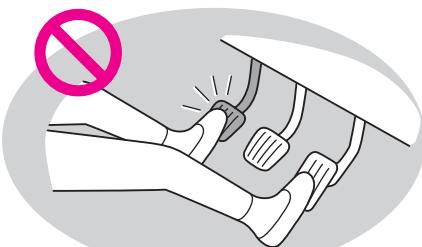
- 調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。





③ ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

- ドアミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



④ マニュアル車は、クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。

- クラッチが早く磨耗したり、過熱し、クラッチが破損することで、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑤ ブレーキペダルに足をのせたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

- ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



警告

4. 走行するときの注意

⑥下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

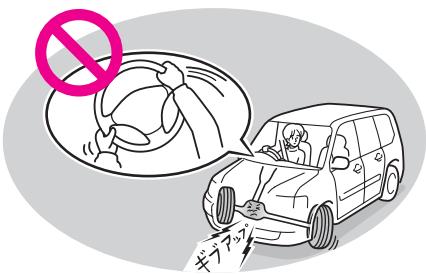


- ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑦車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

- エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが動かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。



- オイルの温度が上がりすぎたり潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。



警告

⑨ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。



- ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
- 電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

⑩ぬれた路面や積雪路・凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。



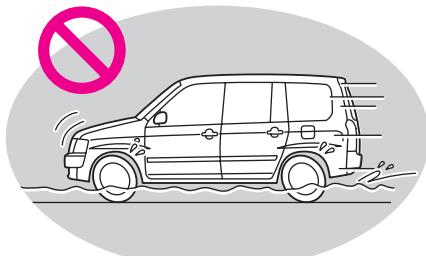
- すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。



警告

4. 走行するときの注意

⑪冠水した道路は走行しないでください。



- 冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
 - ブレーキの効き具合。
 - エンジン・トランスマッision・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
 - プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

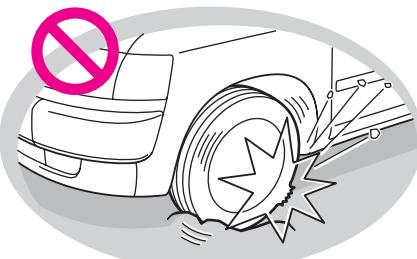
⑫湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えダイヤルを  の位置にしないでください。

- 外気とウインドウガラスの温度差でウインドウガラス外側表面が曇り、視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑬ スタック * したときは

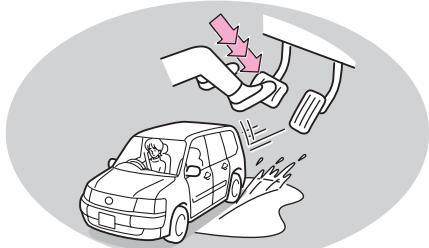
※ ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなつた状態。



- スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
 - タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤなど）の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスマッisionやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
 - オートマチック車は、シフトレバーをD（またはR）に確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
 - 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
 - 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなつてからブレーキ操作をしてください。
 - 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。
 - スタック脱出には、次の方法が有効です。
 - タイヤ前後の土や雪を取り除く。
 - タイヤの下に木や石などをあてがう。
 - けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やJ A Fなどに依頼してください。



⑯洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。



- ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑯走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。



- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、頭などを強く打ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⑯ 窓から手や顔を出さないでください。



- 走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑰ ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑯ センターボックスや小物ケースのフタを開けたまま走行しないでください。

- 急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

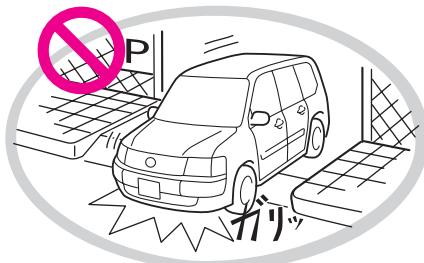


⑯ ウィンドウガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行しないでください。



●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、事故につながるおそれがあります。

⑰ 大きな段差がある場所では慎重に走行してください。



●次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードをおとして慎重に走行してください。

- 駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき
- 立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき
- 輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき
- 凹凸やわだちのある道を走行するとき
- くぼみ(穴)などを通過するとき
- 平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に進入するとき

⑱ 走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中は、ドアレバーを引かないでください。

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。



警告

5. 走行中、異常に気づいたら



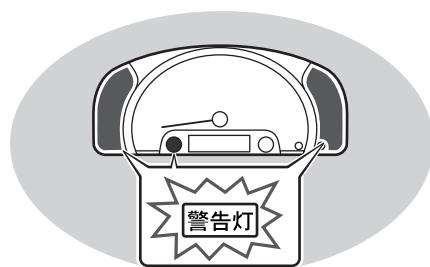
5. 走行中、異常に気づいたら

走行中、異常に気づいたら、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。
(P.192参照)



②ブレーキ警告灯が点灯したまま走行し続けないでください。



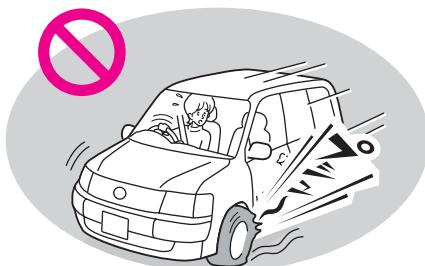
●警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
- ブレーキ警告灯がA B S & ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。
この場合、A B S & ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

- エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングの油圧装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。



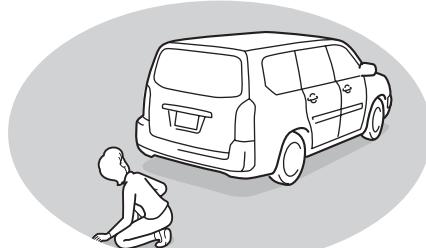
- ハンドルをしっかりと持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
 - ハンドルが取られるとき。
 - 異常な振動があるとき。
 - 車両が異常に傾いたとき。
- パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。



警告

5. 走行中、異常に気づいたら

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。



- ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品・タイヤ・ディスクホイール・駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。



- 警告音は、ブレーキパッドウェインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいたことを運転者に知らせます。

警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

- 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

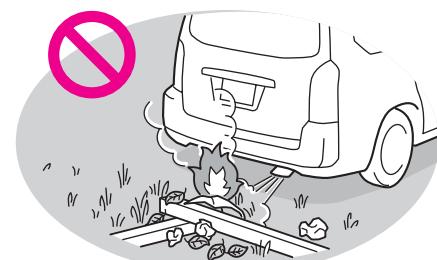


6. 駐停車するときの注意

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

- 車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- 車から離れるとき、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - シフトレバーをオートマチック車ではP、マニュアル車では1かRに入れる。
 - パーキングブレーキをかける。
 - エンジンを停止する。
 - ドアを施錠する。

②可燃物付近に車を止めたりしないでください。



- 車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を約30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。(P.276参照)

- 輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。





④停車中に空ぶかしをしないでください。



- 排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤炎天下で駐車するときは、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。



- 車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
- 車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

⑥仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。

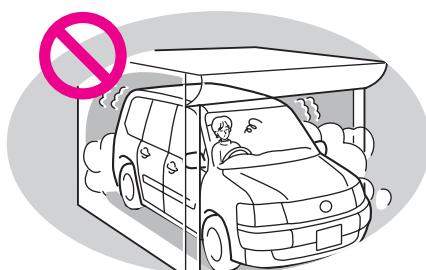


- エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
- また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



7. 排気ガスに対する注意

次の事項を必ずお守りください。
排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれており、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



①換気が悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

- 車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



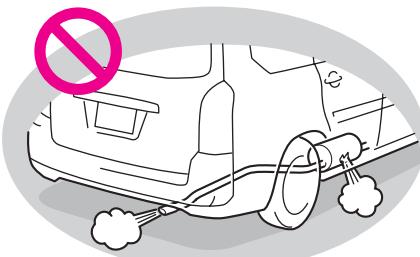
②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

- エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



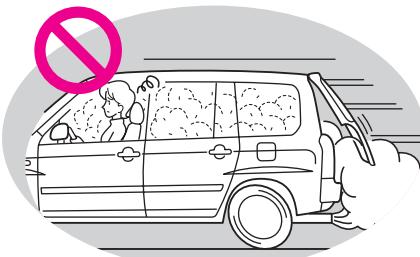
警告

③排気管はときどき点検してください。



- 排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。

④バックドアを開けたまま走行しないでください。



- 開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

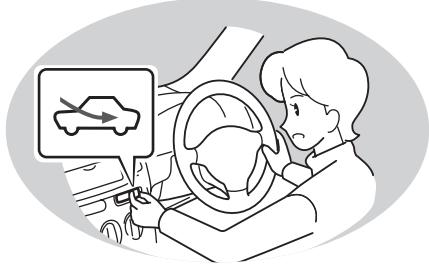


警告

7. 排気ガスに対する注意

⑤車内に排気ガスが侵入してきた
と感じたら、次の処置をしてく
ださい。

- すべての窓を全開にしてください。
- 空調の内外気切り替えを外気導入側にして風量を最大にし、新鮮な外気を車内に入れてください。
- すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。





警告

8. お子さまを乗せるときの注意



8. お子さまを乗せるときの注意

① お子さまはリヤシートに座らせてください。

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。

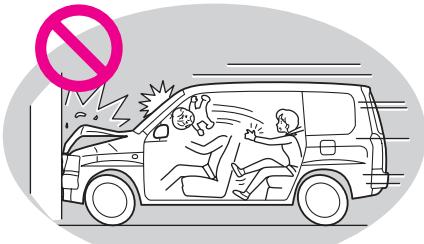
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。チャイルドプロテクターの使用方法は、P.112をお読みください。



② お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。



- ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。(P.148参照)
- シートベルトの肩部ベルトが首やあごに当たったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの身体に合った子供専用シートを使用してください。子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。



③ ドア・ドアガラスなどはお子さまに操作させないでください。



- お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドプロテクター (P.112) やウインドウロックスイッチ (P.122) を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意して操作してください。



警告

④車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。



- 炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
- エンジンスイッチにキーをつけたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウィンドウのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーをつけたままお子さまを車内に残さないでください。



安全装備について



1. シートについての注意

- ①シートは正しい運転姿勢が取れるように位置を調整してください。

シートについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 正しい運転姿勢を取らないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・SRSエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

正しい運転姿勢については、P.134をお読みください。

- ②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。



- 固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。





安全装備について



警告

1. シートについての注意

③走行中はシートの操作をしないでください。

- ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



④背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

- 必要以上に背もたれを倒していると、衝突、または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、身体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⑤背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。

- 正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

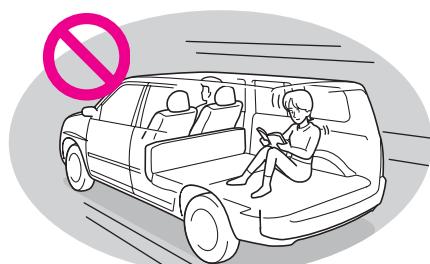


- 衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⑦ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。

- ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

⑧リヤシートの前倒しについては次のことをお守りください。



- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人をのせて走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 背もたれをもとにもどしたときは、軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 背もたれを倒すときやもとにもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

2. 子供専用シートについての注意

安全装備について



2. 子供専用シートについての注意

子供専用シートについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、身体に合った子供専用シートに座らせてください。

- 乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していないくて、また頭はほかの部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
- 幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかりてしまいます。衝突した場合に、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シート・チャイルドシート使用するときは、必ず商品に付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってご使用ください。



- 使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 子供専用シート・チャイルドシートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
- 子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

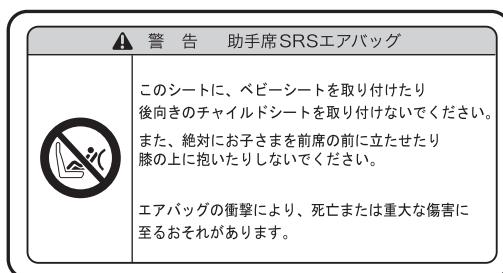


③子供専用シートは確実に固定できるように取りつけてください。

子供専用シートは、取りつけ位置や取りつけ方向に注意をして確実に取りつけてください。取りつけが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

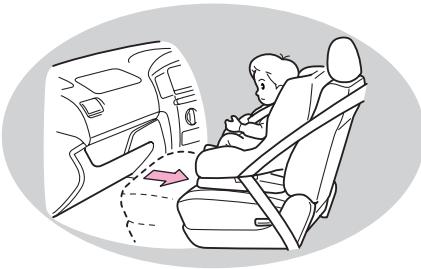
■子供専用シートはリヤシートに取りつけてください。

- 運転席側リヤシートで、運転席の位置により、安全に取りつけられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取りつけず、助手席側リヤシートに取りつけてください。



■助手席SRSエアバッグ装着車では、助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。

- うしろ向きに取りつけた場合、助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。
- やむを得ず、前向きに助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席SRSエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整を一番うしろにして取りつけてください。お守りいただかないと、助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、お子さんに強い衝撃が加わり危険です。





警告

2. 子供専用シートについての注意

- ④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。



お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかりと固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取はずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

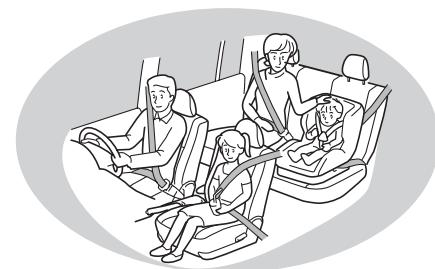
安全装備について



3. シートベルトについての注意

- ①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

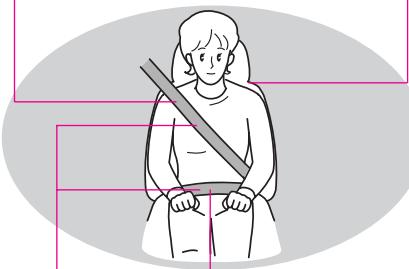


- シートベルトの着用は法律で義務づけられています。運転者は乗員全員が次の使用方法にしたがって、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座ること。

肩部ベルト

- 肩に十分かけること。
(首にかかったり、肩からはずれないこと。)



腰部ベルト

- 必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること。

- ねじれていないこと。

〈正しい着用のしかた〉



警告

3. シートベルトについての注意



安全装備について



警告

3. シートベルトについての注意

- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。
- 正しい姿勢については、P.134をお読みください。

- 3点式シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。
- 3点式シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。
- ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。



- アジャスタブルシートベルトアンカー（P.152）を確実に調整してください。
- シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。



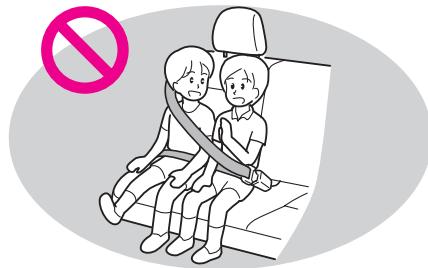
■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。



■シートベルトは必ず1人で1本のベルトを着用してください。

●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。





安全装備について



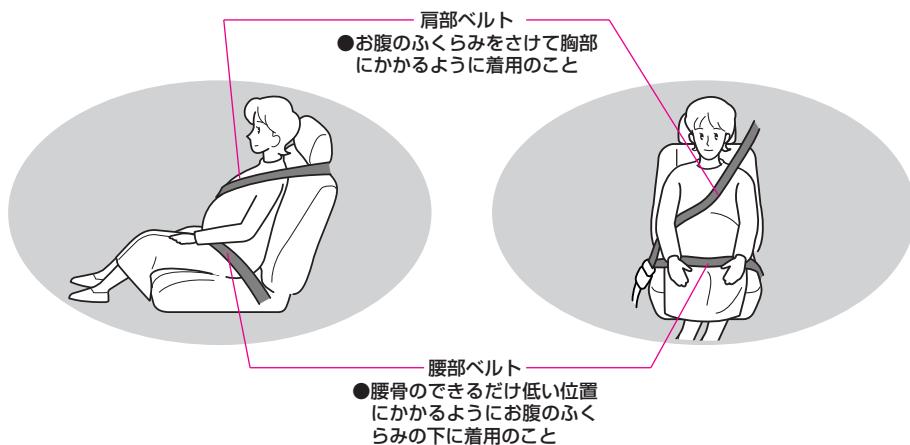
警告

3. シートベルトについての注意

②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通してお腹のふくらみをさけて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



③疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。



- ④シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。



正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていったり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。
- ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

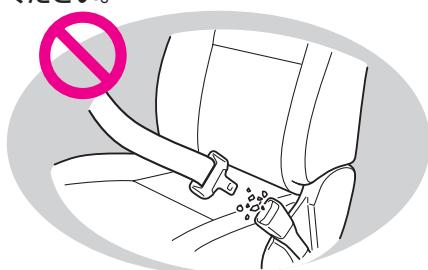
- 洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみをつけて使用しないでください。

- 肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで身体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、ベルトが胸部などを圧迫して危険です。また、頭をハンドルにぶつけたり、SRSエアバッグがふくらんだとときに強い衝撃を受け危険です。



- プレートをバックルに差し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

- 異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

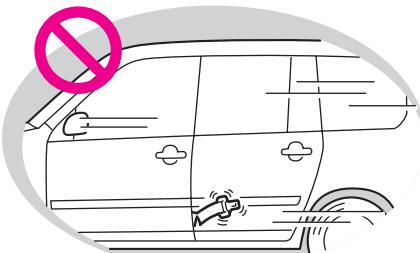




警告

3. シートベルトについての注意

- ⑤シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。



損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷がつくおそれがあり、そのまま使用すると危険です。

■ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷ついたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

- このまま使用すると、衝突のときなどにベルトが切れる可能性があります。また、正常に働くかず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

- シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。





■シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。

- 衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。



■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどはしないでください。

- プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

■プリテンショナー付シートベルトは再使用しないでください。

- 作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

- シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
- 清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。



⑥リヤシートベルトをシートの中に押し込んだ状態で使用しないでください。

押し込んだままの状態で使用すると衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

4. SRSエアバッグについての注意

安全装備について



4. SRSエアバッグについての注意

SRSエアバッグについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ① SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができないだけでなく、SRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートベルトの正しい着用については、P.148をお読みください。

- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。
- SRSエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近づきすぎた姿勢で乗車していると、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者のかたは》

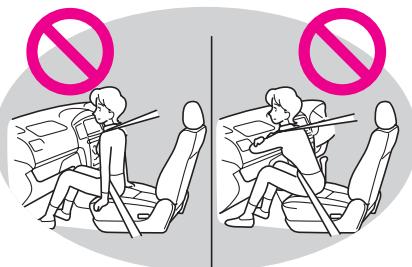
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。



《助手席乗員のかたは（助手席SRSエアバッグ装着車）》

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。

シートの調整・正しい姿勢については、P.134をお読みください。





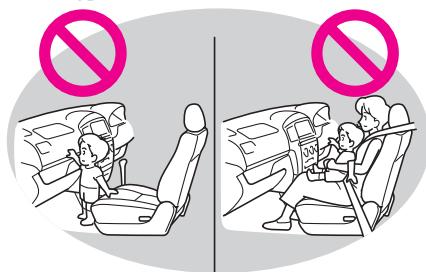
■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

- SRSエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、SRSエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。



■助手席SRSエアバッグ装着車では、お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

- SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。





安全装備について



警告

4. SRSエアバッグについての注意

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

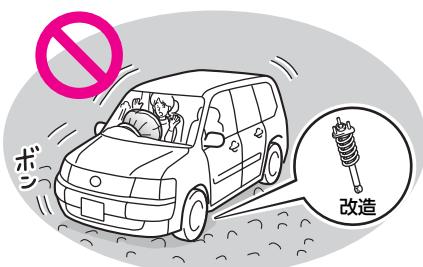
お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

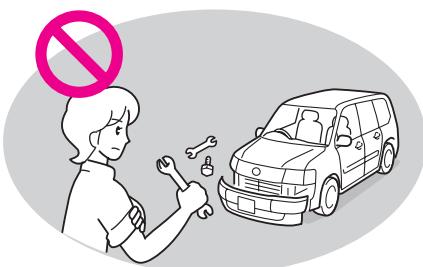
不適切な作業を行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。



- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、SRSエアバッグが誤作動し危険です。



- 車両前部、または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うと、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

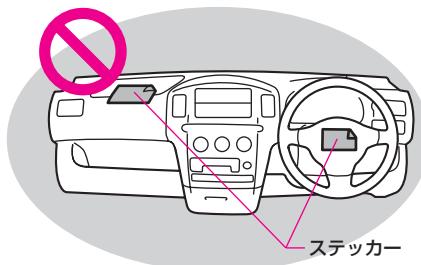




③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。



- 助手席SRSエアバッグ装着車では、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。



- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、SRSエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが誤作動するなどして危険です。





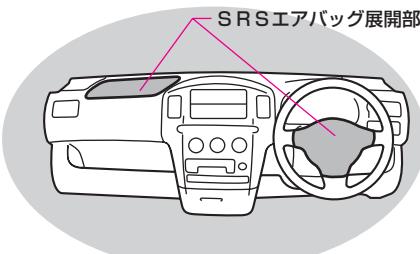
安全装備について



警告

4. SRSエアバッグについての注意

④ SRSエアバッグ展開部を強くたたかないでください。



- ステアリングパッド（運転席エアバッグ）、インストルメントパネル上部（助手席エアバッグ）など、SRSエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ SRSエアバッグがふくらんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください



- 構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

安全装備について



5. EBD付ABS&ブレーキアシストについての注意

① EBD付ABS&ブレーキアシストを過信しないでください。

- EBD付ABSやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
EBD付ABS&ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
 - EBD付ABSはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロブレーニング現象*が起こった場合は、効果を発揮できません。
- ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。
- EBD付ABSは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、EBD付ABSのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
 - 砂利道、新雪路を走行しているとき。
 - タイヤチェーンを装着しているとき。
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
 - 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。
- ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。



運転装置について



1. オートマチック車についての注意



① オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーがP・N以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。

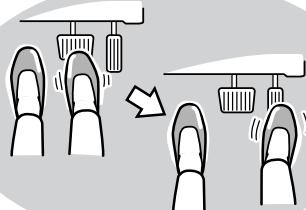
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

② 運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。



- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 後退するときは、身体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。





- ③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。



- 左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、エンジンをかけてください。

- 安全のためシフトレバーは車輪が固定されるPにして、ブレーキペダルをしっかりと踏みエンジンをかけてください。

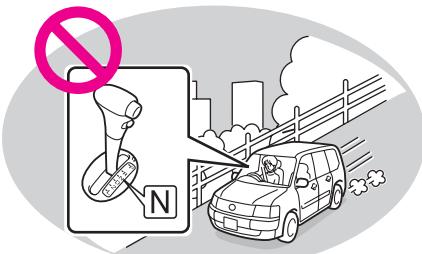
- ⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んだままシフトレバーを操作してください。

- とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

- レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑥走行中はシフトレバーをNに入れないでください。



- Nにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Nにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをPに入れれないでください。

- オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをRに入れれないでください。

- 車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は、空ぶかしをしないでください。



- シフトレバーがP・N以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



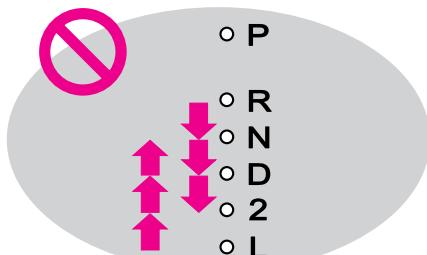
警告

1. オートマチック車についての注意

⑩駐車するときは、シフトレバーをPに入れてください。

- P以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪シフトレバーを動かすとき (右図参照) の操作は、シフトレバーボタンを押さずに操作してください。



- いつもレバーを押して操作していると意に反してP・RまたはLに入ってしまい、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑫坂道などでは、シフトレバーを① (または②L) に入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

- 同様にRに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑬その他にも以下の点に注意してください。

- 少し後退したあとなどは、シフトレバーがRにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐNにもどすよう習慣づけましょう。
- 切り返しなどでシフトレバーを①からR、Rから①と何度もレバー操作をするときは、その都度、ブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。



警告

2. 4WD車についての注意

運転装置について

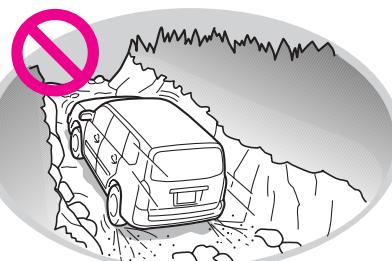


2. 4WD車についての注意

4WD車については、次の事項を必ず守ってください。

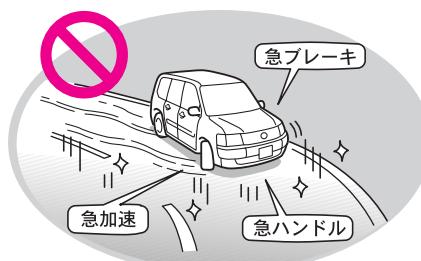
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害におよぶおそれがあり危険です。

①無理な運転は禁物です。



- この車の4WD（Vフレックスフルタイム4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。

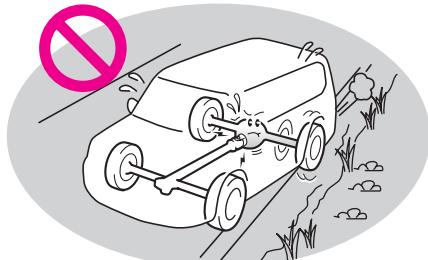
②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。



- 4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般的の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。



- ③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。



- 前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ④渡河などの水中走行はしないでください。



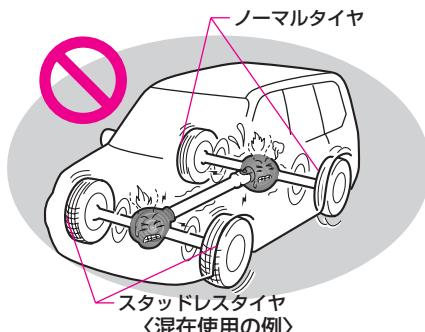
- 渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
- 万一、水中につかってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
 - エンジン・トランスミッション・トランスファー・デフなどのオイル量および質の変化。(白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。)
 - プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。



警告

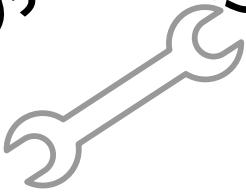
2.
4WD車についての注意

⑤ タイヤはすべて必ず指定サイズで、同一種類のタイヤを装着してください。



- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
- タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - 4輪の空気圧の差が著しいとき。
 - 空気圧が指定値からはずれているとき。
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.289参照）
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.330参照）

メンテナンスについて



1. 点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。



警告

1. 点検・手入れ時の注意

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近づけないでください



●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので、注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近づけないでください。爆発し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②エンジン停止直後はエンジン・排気管・ラジエーター・リザーブタンク（補助タンク）など高温部には触れないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になってしまることがありますので注意してください。

③エンジンルーム内に水をかけないでください。



●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。



警告

1. 点検・手入れ時の注意

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。



- ラジオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかかるないように注意してください。

- ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、さびてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

- 配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑦エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

- ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

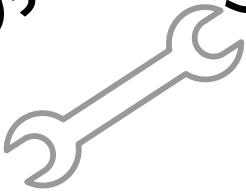
⑧エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

- 点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑨電球を交換するときは、電球が冷えてから行ってください。

- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどなどをするおそれがあり危険です。

メンテナンスについて



2. タイヤについての注意



警告

2. タイヤについての注意

タイヤについては、次の事項を必ず守つてください。

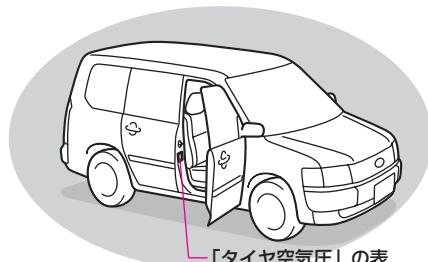
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

- タイヤの点検は、法律で義務づけられています。
- タイヤは以下の点について点検してください。
 - タイヤの空気圧。
 - タイヤのき裂・損傷の有無。
 - タイヤの溝の深さ。
 - タイヤの異常な摩耗。(極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど。)

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。



「タイヤ空気圧」の表

- 指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.330で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象[※]によりタイヤがバースト(破裂)したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。



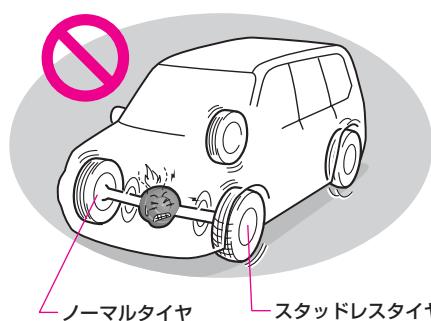
警告

2. タイヤについての注意

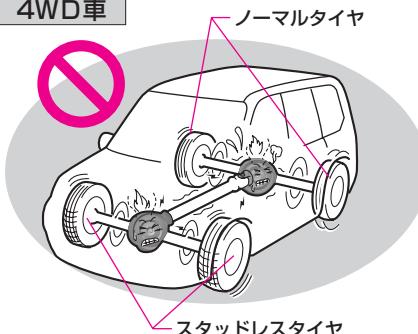
③ タイヤはすべて必ず指定サイズで、同一種類のタイヤを装着してください。

- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
- タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常に異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあります。

FF車



4WD車



〈混在使用の例〉

- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - 4輪の空気圧の差が著しいとき。
 - 空気圧が指定値からはずれているとき。
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。(P.289参照)
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。(P.330参照)
- 指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、ABSが正常に作動しなくなるおそれがあります。

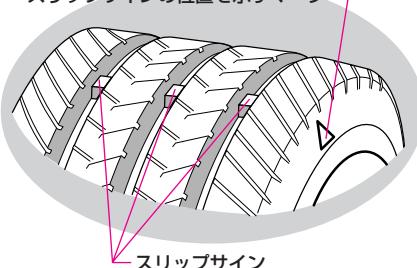
④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

- タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロブレーニング現象^{※1}により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※1 水のたまつた道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

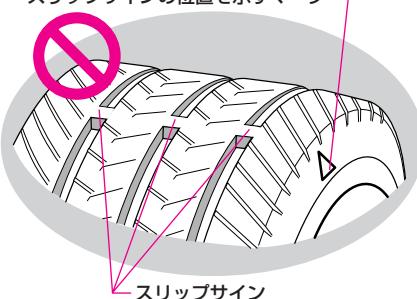
※2 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

スリップサインの位置を示すマーク



〈例：スリップサインが出ていない状態〉^{※2}

スリップサインの位置を示すマーク



〈例：スリップサインが出ている状態〉^{※2}

⑤タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。



警告

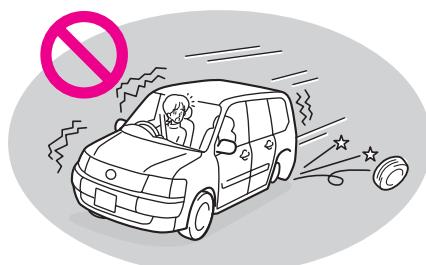
⑥冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

- タイヤチェーン装着時は、約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。
 - タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
- また、A B S作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧タイヤを交換したときは、ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。



- 確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：103N・m {1050kgf・cm}
- タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



警告

2. タイヤについての注意

⑨ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部やディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めづけても、十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑪歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑫走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

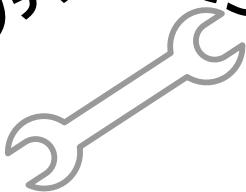
●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあり危険です。



警告

3. バッテリーについての注意

メンテナンスについて



3. バッテリーについての注意

バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。（P.351参照）

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや、充電中は、バッテリーに近づかないでください。



●充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した身体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。



警告

④火気をバッテリーに近づけないでください。

- バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取りつけ、ナットを確実に締めつけてください。

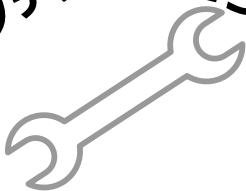
- 確実に取りつけたり、締めつけたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。





警告

メンテナンスについて

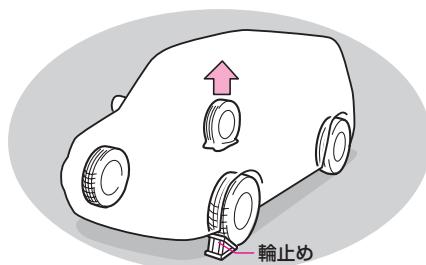


4. ジャッキアップについての注意

ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。



●車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

② ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。



●万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。



警告

③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.346）にかかっていることを必ず確認してください。
- 車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- ジャッキアップした車体をおろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

- ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

- 室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



警告

1. オーバーヒートについての注意



1. オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ① オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。



- エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分がありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

- ② ラジエーターやリザーブタンク（補助タンク）が熱いときはラジエーターキャップ・エア抜きバルブを開けないでください。



- 蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
● キャップ・バルブを開けるときは、ラジエーターやリザーブタンク（補助タンク）が十分に冷えてから、布きれなどでキャップ・バルブを包み、ゆっくりと開けてください。



警告



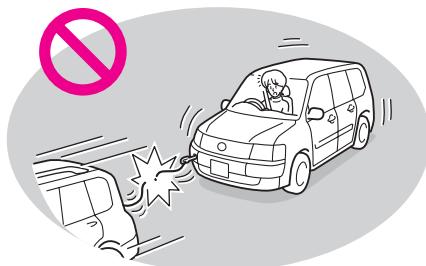
2. 万一の事故のときの注意

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

●エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキ倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。



●けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

③けん引中にエンジンスイッチからキーを抜いたり、エンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。

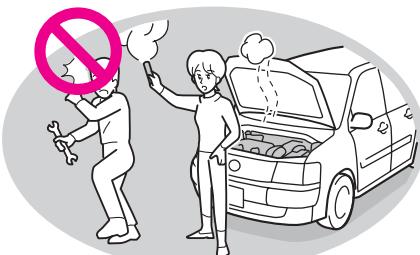
●キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあり危険です。また、“LOCK”だとキーが抜けるおそれがあります。



警告

2. 万一の事故のときの注意

④ 発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。



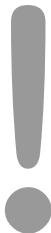
- 可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や身体に向けると、炎でやけどするなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- CNG車は、事故が起きたときや、ガスもれのおそれがあるときは、絶対に発炎筒を使用しないでください。もれたガスに引火して車両火災になるおそれがあり危険です。

⑤ 事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。



- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。

この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。



次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



①違法改造は絶対にしないでください。

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
異なる種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - 電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
 - フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

②灰皿を使用したあとは、マッチ・タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。



- 開けたまま放置すると、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

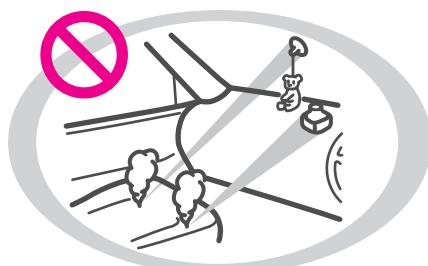


警告

その他の注意

③カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

- 急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
- 急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに身体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

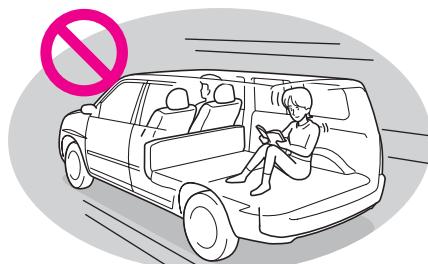


④ウインドウガラスなどには吸盤をつけないでください。

- ウインドウガラスにアクセサリーの吸盤を取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑤熱線反射ガラス、またはプライバシーガラスなどの色つきガラスに塩化ビニール製の吸盤やシールなどをつけないでください。

- 塩化ビニール製品に含まれる成分により、ガラスの変色、色抜けの原因となります。



⑥ラゲージルームには人を絶対に乗せないでください。

- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⑦バックドアを閉めるときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはバックドアの操作をさせないでください。



- お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- バックドアは、必ず外から押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがらないでください。手を挟んだり、ダンパーステーが破損してはれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換時に、取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。

- 飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑨走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

- バックドアが確実にしまっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外にものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩アルミボディは磁石で固定するアクセサリーを取りつけることができません。

- 磁石はアルミにつかないため、磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などは取りつけることができません。

⑪内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

- インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。



警告

その他の注意

⑫走行中はインパネテーブルを使用しないでください。



- シフトレバー操作のさまたげになったり、テーブル上のものが落下するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑬格納具からタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないように注意してください。

- 足などを挟みけがをするおそれがあり危険です。

⑭車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないよう注意してください。

- インストルメントパネル、コンソールボックス、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑮エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、マフラーに触れないように注意してください。

- エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に冷めてからにしてください。

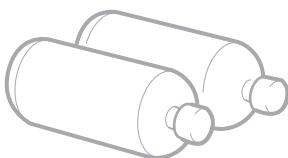
⑯シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。

- ドアやウインドウを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑰メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
- ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

CNG車について



CNG車については、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



警告

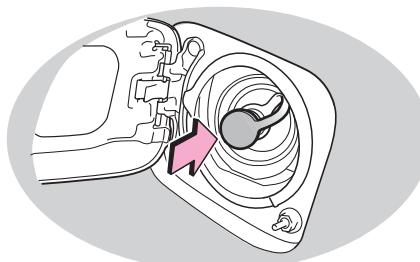
CNG車について

①指定燃料は13Aです。指定以外の燃料を補給しないでください。



●指定燃料は13A（ガス事業法適合圧縮天然ガス）です。13A以外を補給すると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。充てんについてはP.127を参照してください。

②CNG補給時には、次のことを必ずお守りください。



●キャップは確実に閉めてください。閉まっていないと、ほこりなどの付着による充てん口のガス密封不良により、燃料がもれ、火災につながるおそれがあり危険です。

●CNG専用のスタンドでガスの補給をするときは、スタンドの係員におまかせください。

また、CNG補給時は以下の点を必ずお守りください。引火するおそれがあり危険です。

- エンジンは必ず停止してください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。

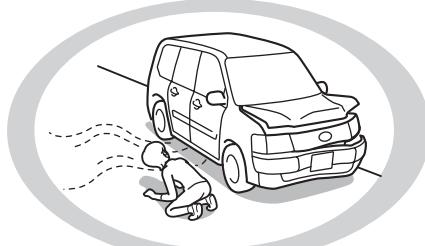
●エンジン停止後、約5秒間は充てんノズルをセットしないでください。この間に充てんノズルをセットすると、ガスもれ検知システムの誤検知により、エンジンを始動することができなくなるおそれがあります。充てんについてはP.127を参照してください。



警告

CNG車について

- ③事故が起きたときや、ガスもれに気づいたときは、次の処置を行ってください。



- 万一、衝突したときや転倒したときなど事故が発生したときは、すみやかにエンジンを停止し、ガスもれしていないか確認してください。ガスもれの有無は、ガスの臭い・ガスのもれる音がする・燃料計（圧力計）の低下が異常に速い・CNG警告灯が点滅しているなどの症状で確認できます。
- ガスの臭い、その他の異常に気づいたときは、ただちに安全で風通しのよい場所に停車し、エンジンを止めてください。
- 異常な箇所が発見できないときや、ガス容器からガスがもれていますなどは、付近の人に救援を求めて監視人をつけるか、火気厳禁を表示して、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- 発炎筒はもれたガスに引火するおそれがありますので、絶対に使用しないでください。車両火災になるおそれがあり危険です。

基本操作早わかり

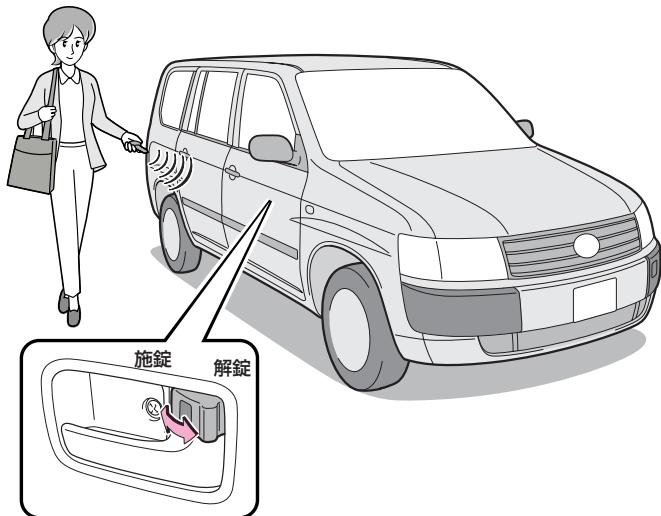
(はじめてこの車にお乗りになるかたへ)

2

この章では、はじめて車を購入されたかたやトヨタ車にはじめてお乗りになるかたのために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。

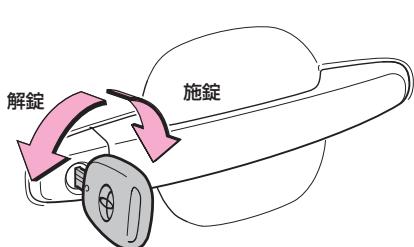
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

各部の開閉	90
シートの調整	92
シートベルトの着用	94
運転するときは	96
警告灯	100
スイッチ類の取り扱い	102
エアコン・ラジオ	104

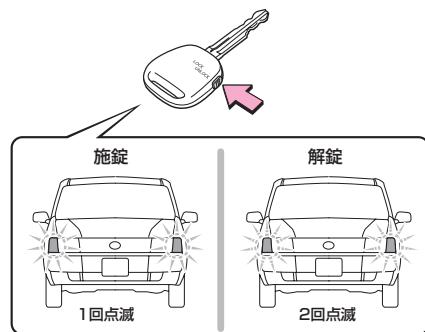


ドアの施錠と解錠

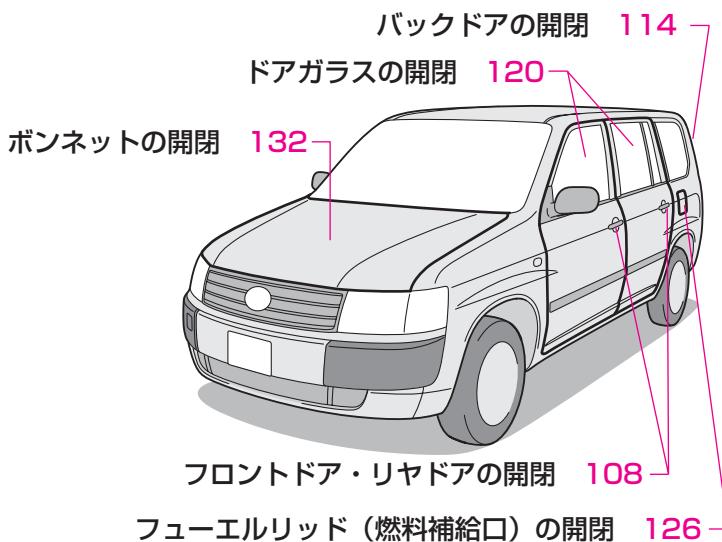
キーで



リモコンスイッチで

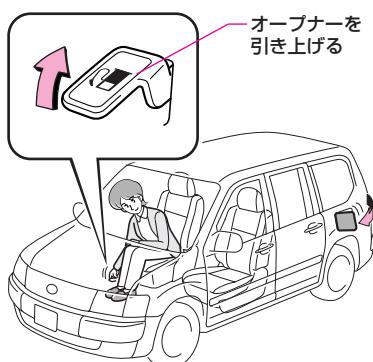


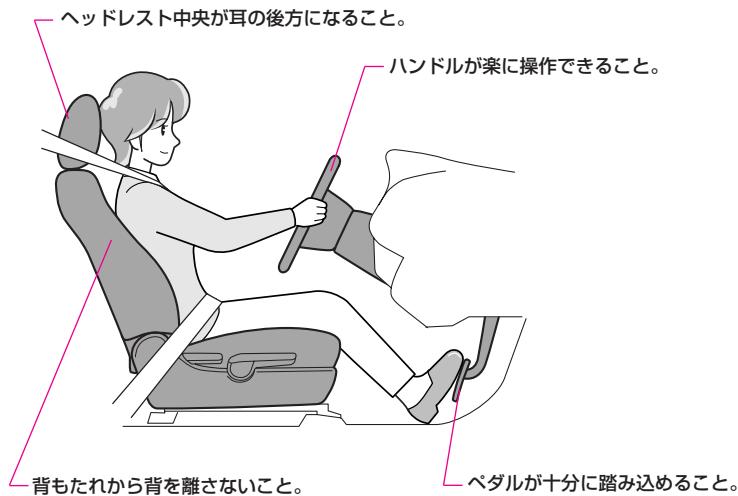
各部の開閉に関する詳しい紹介は

基本操作
早わかり

ドアガラスの開閉

フューエルリッド
(燃料補給口) の開け方





運転席の調整機能（その1）

前後位置



背もたれの角度

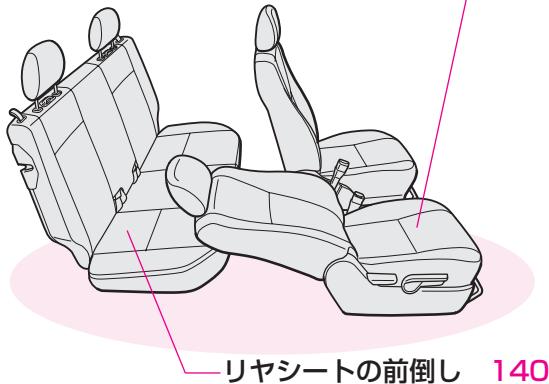


シートの上げ下げ



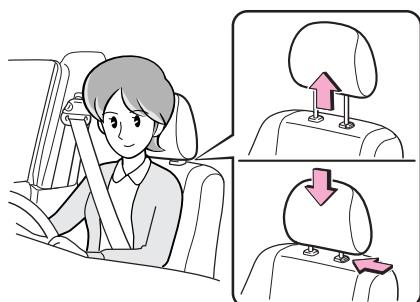
シートに関する詳しい紹介は

フロントシートの調整 136

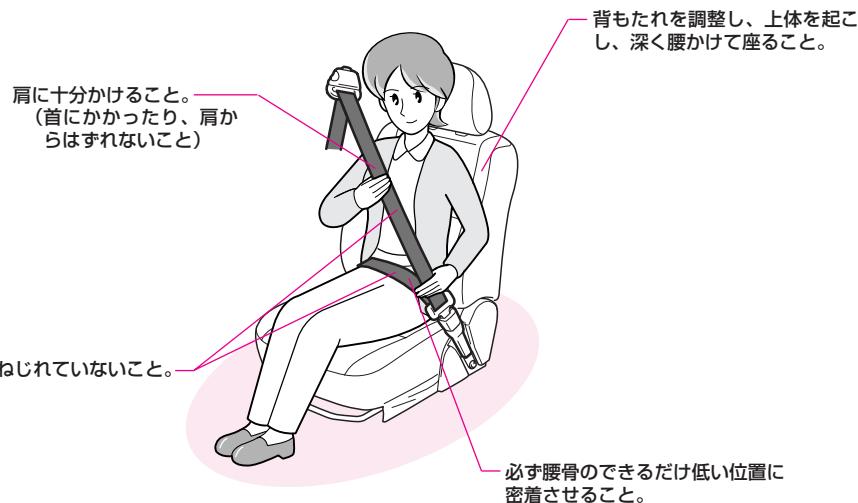
基本操作
早わかり

運転席の調整機能（その2）

ヘッドレスト



シートベルトの着用

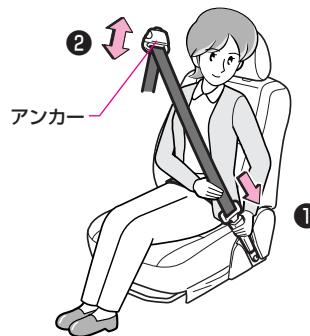


着用のしかた

1 ベルトを引き出します。



2 プレートをバックルに差し込みます。

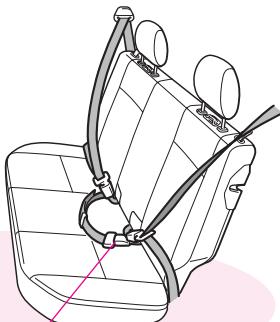


① “カチッ” という音がするまで差し込みます。

② アンカーの高さを調整します。

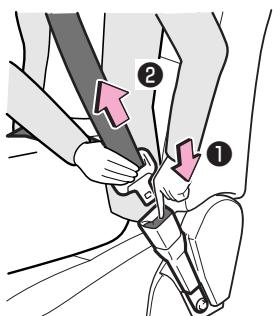
● シートベルトに関する詳しい紹介は

シートベルトの着用 148

基本操作
早わかり

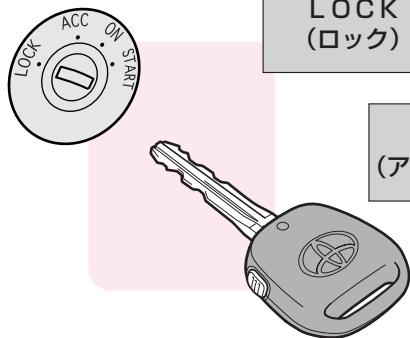
リヤシートベルトの格納 155

はずし方



- ①バックルのボタンを押します。
- ②ベルトを巻き取らせます。

運転するときは



LOCK (ロック)
キーを抜き差しできる位置。
キーを抜くとハンドルがロック
されます。

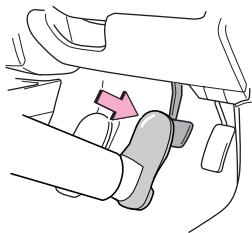
ACC (アクセサリー)
エンジン停止時、次の電装品が使
用できる位置。
ラジオ、シガレットライター、ド
アミラーなど

ON (オン)
エンジン回転中の位置。
すべての電装品が使用
できます。

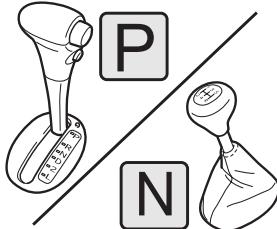
START (スタート)
エンジンを始動する位置。

エンジンのかけ方

- 1 ブレーキペダルを
しっかり踏み込み
ます。
- 2 シフトレバーの位
置を確認します。
- 3 キーを“STAR
T”までまわしま
す。



- パーキングブレーキ
がかかるっていること
を確認します。



- オートマチック車で
はP、マニュアル車
ではNに入れます。
マニュアル車ではクラッチペダルをいっ
ぱいまで踏み込みま
す。



クラッチスタートシステム 266

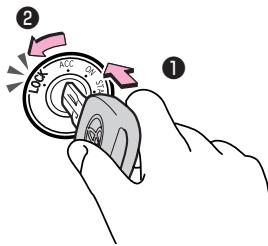
マニュアル車

プロボックスのマニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとエンジンがかかりません。



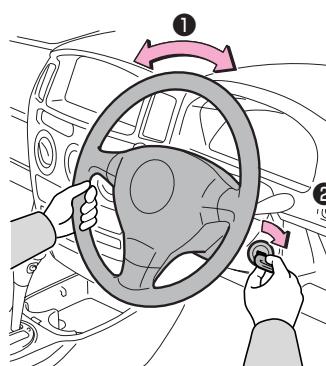
キーの抜き方

オートマチック車はシフトレバーを
Pにします。



- ①キーを押し込んで
- ②“LOCK”にまわし引き抜きます。

ハンドルロックの解除



- ①ハンドルを動かしながら、
- ②キーをまわします。

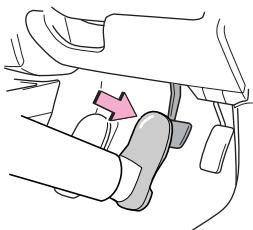
運転するときは



シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

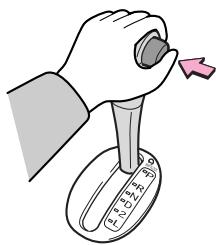
オートマチック車

- 1 ブレーキペダルを
しっかり踏み込み
ます。

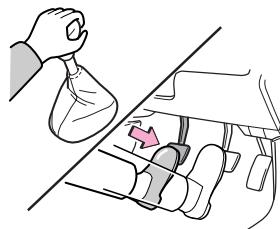


- パーキングブレーキ
がかかるっていること
を確認します。

- 2 シフトレバーボタ
ンを押してPから
操作します。



マニュアル車

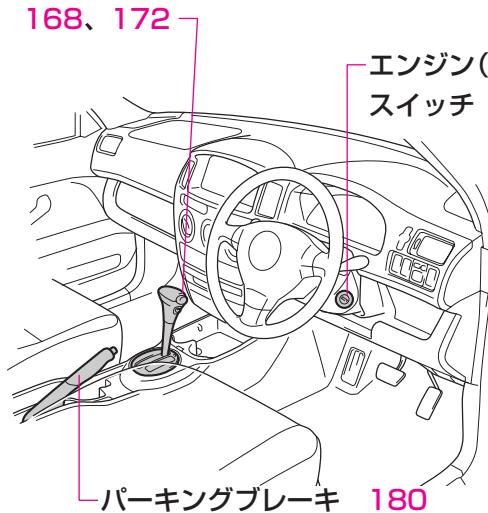


- クラッチペダルをいっ
ぱいに踏み込んで操作
します。

運転装置に関する詳しい紹介は

シフトレバー 168、172

エンジン(イグニッション)
スイッチ 161

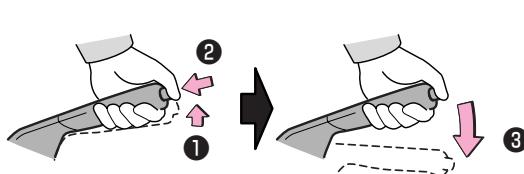


基本操作
早わかり

パーキングブレーキの使い方

もどし方

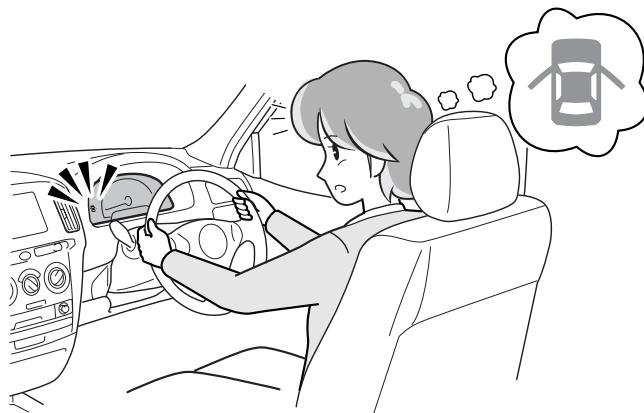
かけ方



ブレーキペダルを踏んで、

- ①レバーを引き上げながら
- ②ボタンを押し
- ③いっぱい下までおろします。

レバーをいっぱい引き上げます。

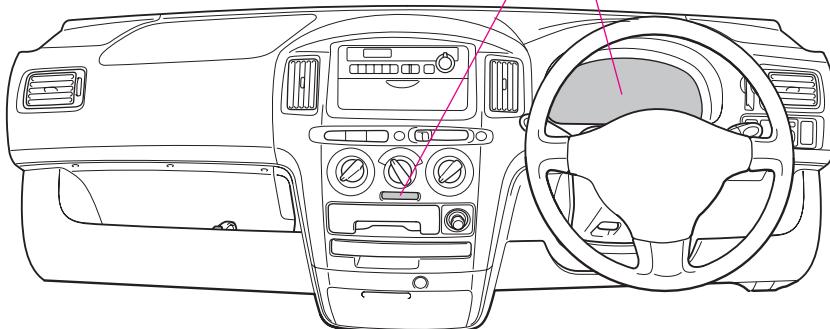


警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯	警告理由
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていません。
	運転席シートベルト非着用警告灯 運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯 助手席の乗員がシートベルトを着用していません。
	ブレーキ警告灯 ●パーキングブレーキがかかっています。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。
	燃料残量警告灯 (ガソリン車) 燃料切れが近づいています。 (約8L以下で、警告灯と燃料計の一番下の目盛りが点滅)
	燃料残量警告灯／ CNG警告灯 (CNG車) ●燃料切れが近づいています。 (約3.2 Nm ³ <3.6 MPa> 以下で点灯) ●点滅したときは、ガスもれのおそれがあります。

● 警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯 192



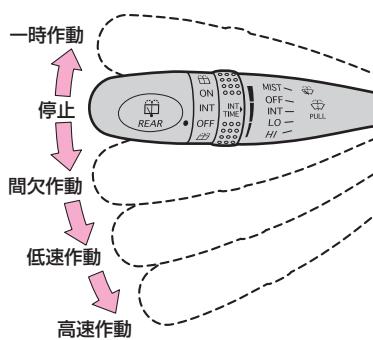
警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯	警告理由
	充電警告灯 充電系統の異常です。
	SRSエアバッグ／ プリテンショナー警告灯 SRSエアバッグシステム、またはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
	A B S & ブレーキ アシスト警告灯 A B S & ブレーキアシストシステムの異常です。
	エンジン警告灯 エンジン電子制御システムなどの異常です。
	油圧警告灯 エンジン内のオイルの圧力の異常です。
	高水温警告灯 (赤色) オーバーヒートのおそれがあります。



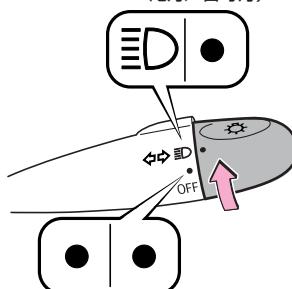
夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方

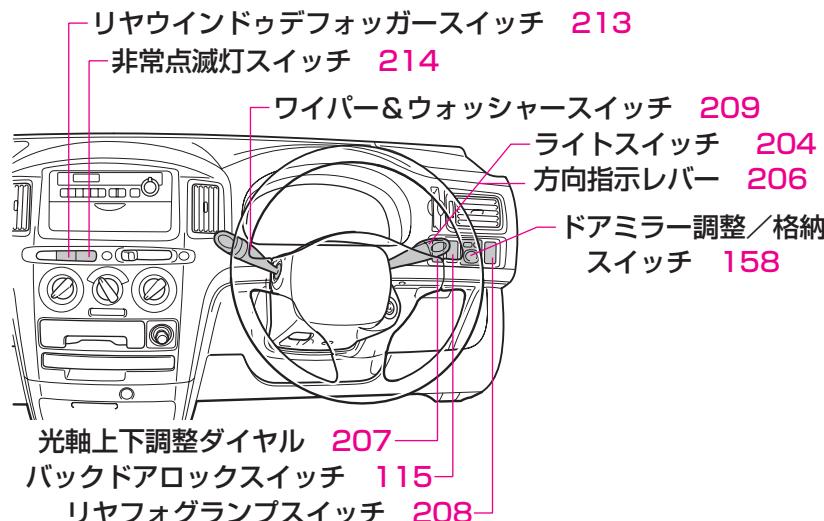


ランプのつけ方

点灯 (ヘッドライト/車幅灯/
尾灯/番号灯)



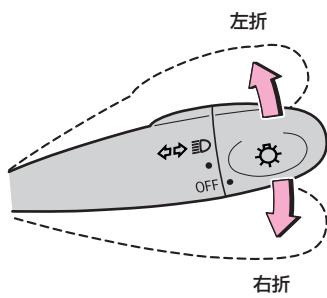
スイッチに関する詳しい紹介は



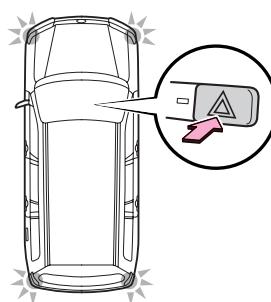
※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

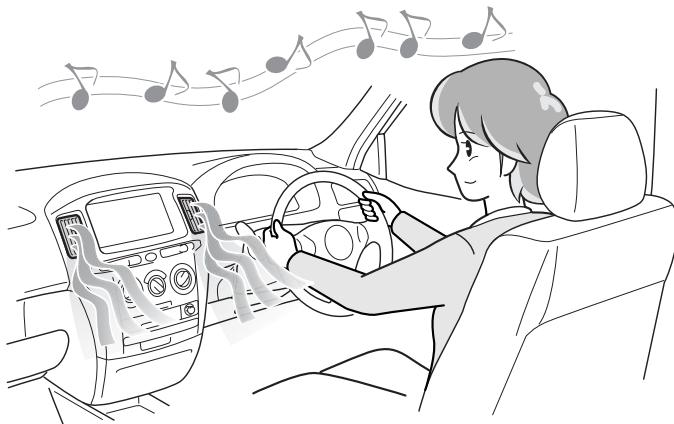
他車への合図

方向指示



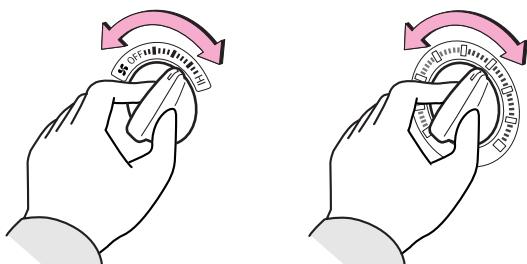
非常点滅灯



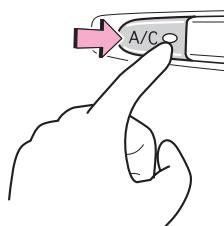


エアコン・ヒーターの使い方

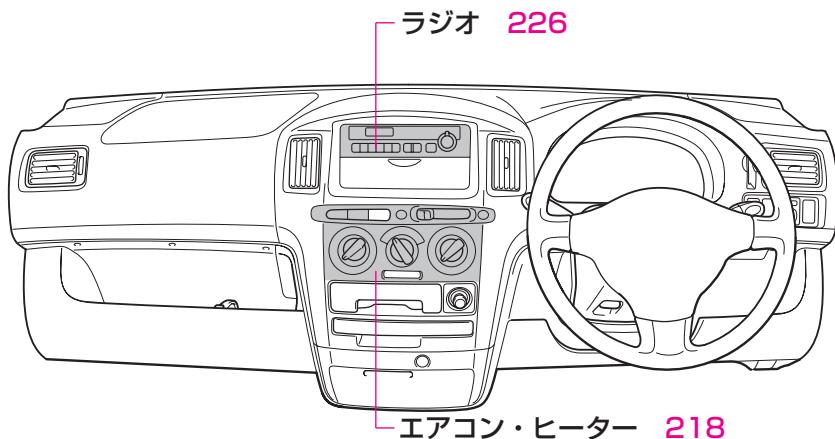
- 1 風量を調整します。
- 2 温度を調整します。
- 3 エアコン装着車



エアコン（冷房・除湿機能）を作動させたいときは、エアコンスイッチをONにします。



● エアコン・ラジオに関する詳しい紹介は

基本操作
早わかり作

ラジオの使い方

電源の入れ方と音量の調整

電源入、切

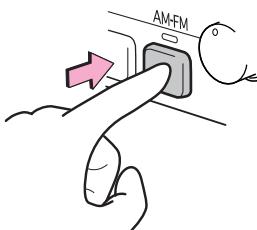


音量

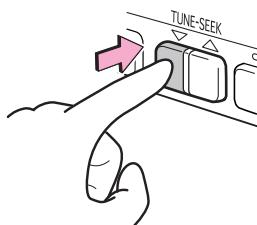


ラジオを聞くには

AM・FM放送の切り替え



放送局の設定



3

運転装置の取り扱い

ドア・ドアガラスなどの開閉	108
フロントドア・リヤドアの開閉	108
バックドアの開閉	114
ドアガラスの開閉	120
ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方	124
フューエルリッド（燃料補給口）の開閉	126
ボンネットの開閉	132
シートの調整	134
正しい運転姿勢	134
フロントシートの調整	136
リヤヘッドレストの脱着	139
リヤシートの前倒し	140
シートベルトの着用	148
シートベルトの正しい着用	148
3点式シートベルトの着用のしかた	151
2点式シートベルトの着用のしかた	154
ハンドル・ミラーの調整	156
ハンドルの調整	156
インナーミラーの調整	157
ドアミラーの調整	158
エンジンのかけ方	161
エンジン（イグニッション）スイッチの使い方	161
エンジン始動の手順	162

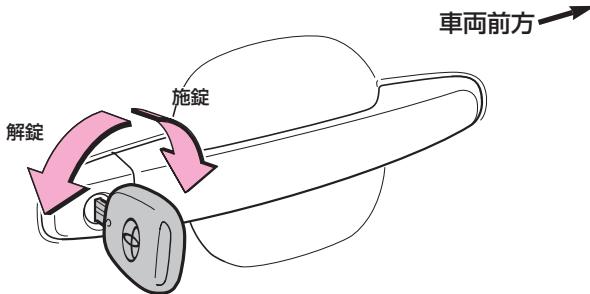
シフトレバーの使い方	168
オートマチック車の使い方	168
マニュアル車の使い方	172
オートマチック車の運転のしかた	174
発進のしかた	174
走行のしかた	176
停車・駐車のしかた	178
パーキングブレーキの使い方	180
パーキングブレーキの使い方	180
メーター・表示灯・警告灯の見方	182
メーター	182
表示灯	188
警告灯	192
スイッチの使い方	204
ライトスイッチ／方向指示レバーの使い方	204
ヘッドライトの光軸上下調整	207
リヤフォグランプスイッチの使い方	208
ワイパー＆ウォッシャースイッチの使い方	209
リヤウインドウデフォッガー （曇り取り）スイッチの使い方	213
非常点滅灯スイッチの使い方	214
ホーンの使い方	215

ドア・ドアガラスなどの開閉

フロントドア・リヤドアの開閉

キーでの施錠・解錠のしかた

フロントドア



運転装置の
取り扱い

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

ドアロックスイッチ付き車の運転席ドアでは、すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠ができます。

知識

航空機内へのワイヤレスドアロックのリモコンの持ち込みについて

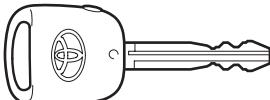
航空機にリモコンを持ち込む場合は、航空機内でリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

知識

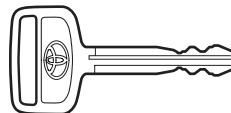
キーについて

- キーはドアの施錠・解錠のほか、エンジンの始動・停止などに使用します。
- キーは2枚あります。(キーの組み合わせは、車の仕様により、異なる場合があります。) ワイヤレスドアロック装着車は、**A**・**C**一本ずつ、ワイヤレスドアロック装着車以外は、**B**・**C**一本ずつになります。
- ワイヤレスドアロックのリモコンの操作についてはP.124をお読みください。

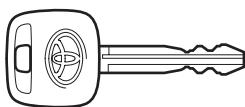
A (ワイヤレスドアロックリモコン付き)



C



B



- キーを作るときは、トヨタ販売店にご相談ください。トヨタ純正品以外のキーを使用すると、キーがスムーズにまわらなくなるおそれがあります。
- 万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

キーナンバープレートについて

お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

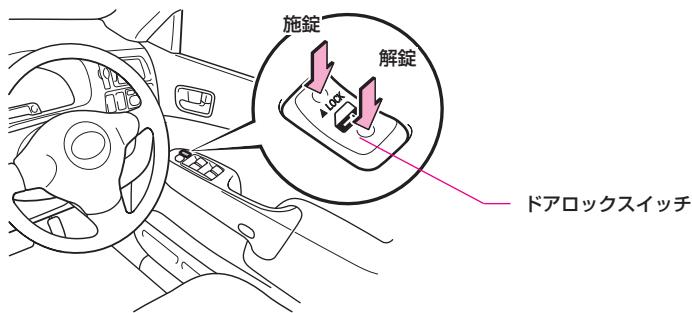


- キーナンバープレートは、車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一、キーを紛失したときは、トヨタ販売店でキーナンバーからトヨタ純正品のキーを作ることができます。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた★

運転席ドア

運転装置の取り扱い



スイッチの前側を押すと施錠、うしろ側を押すと解錠されます。

- すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠が同時にできます。



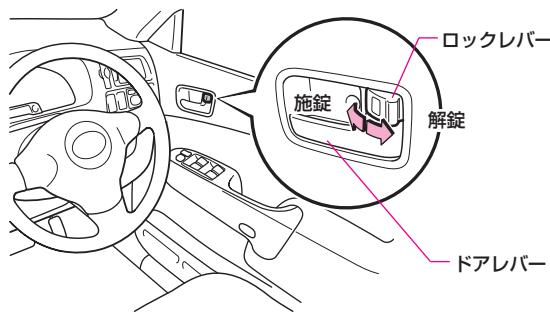
知識

作動条件について

- エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。
- スイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

● ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠



ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠のしかた



フロントドアはロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

リヤドアはロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。



便利機能について

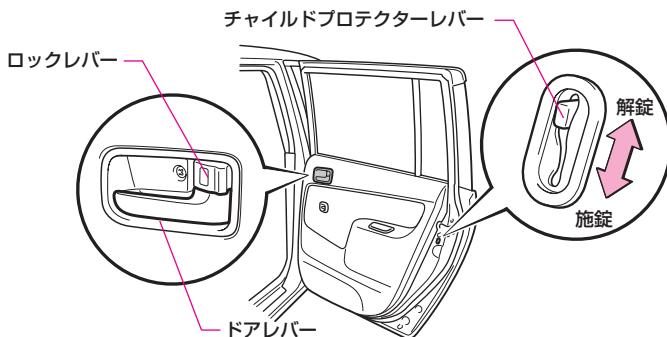
運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと、ドアが開きます。

● ワイヤレスドアロックのリモコンでの施錠・解錠のしかた★

P.124の「ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方」をお読みください。

● チャイルドプロテクターの使い方

リヤドア



チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。

●車内のドアレバーで、リヤドアを開けることができなくなります。



知識

チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のドアレバーの操作では、リヤドアが開かないように施錠できます。

チャイルドプロテクターが働いているときのドアの開け方

ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。万一、車内から開けるときは、ドアガラスを開け、ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて、開けます。



警告

走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

- 走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっているないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中は、ドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまにドアの操作をさせないでください。
 - 閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



知識

便利機能について

キー抜き忘れ防止チャイム

エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”的とき、運転席ドアを開けると、キーの抜き忘れを警告するチャイムが“ピーピー、ピーピー”と鳴ります。キーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠・解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

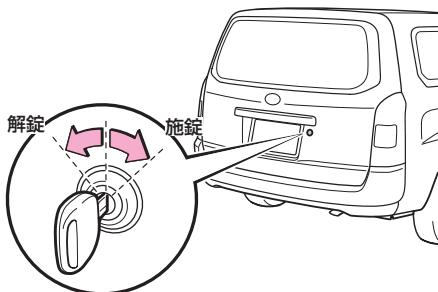
- 同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- 車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉

- 万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。
- 車から離れるときは、必ずエンジンを停止し、施錠することが法律で義務づけられています。また、車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

バックドアの開閉

● キーでの施錠・解錠のしかた



運転装置の
取り扱い

左にまわすと解錠、右にまわすと施錠されます。

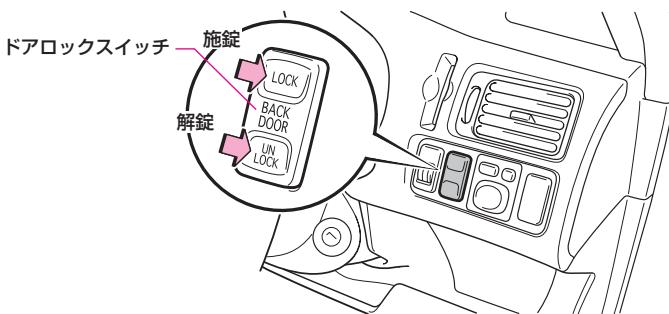
● ワイヤレスドアロックのリモコンでの 施錠・解錠のしかた★

P.124の「ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方」をお読みください。

● ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた★

エンジンスイッチの位置に関係なく、バックドアの施錠・解錠ができます。
(P.110参照)

● バックドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた★

運転装置の
取り扱い

スイッチのLOCK側を押すと施錠、UNLOCK側を押すと解錠されます。

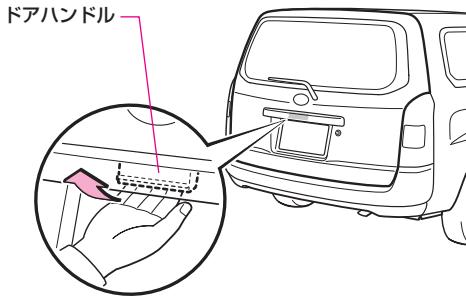


知識

作動条件について

- エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。
- スイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

開閉のしかた



■開け方

- ドアハンドルを引いて、バックドアを持ち上げます。
- バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。
 - バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

■閉め方

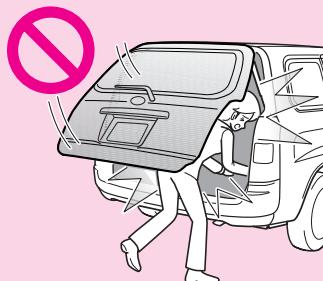
- 1 バックドアをおろします。
- 2 下端を押さえつけ、ロックします。



走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

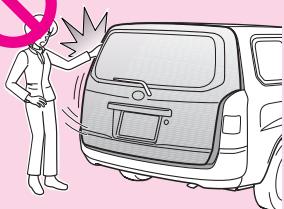
- 走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまを乗せているときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
 - ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
 - お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。
- バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
 - バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
 - バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
 - 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
 - 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



警告

走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。



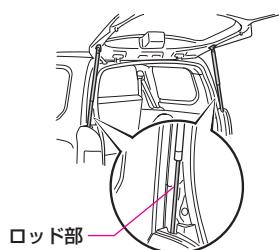
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

注意

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物がステーのロッド部（伸縮部）に付着しないようにしてください。また、繊維などの付着を防止するため、ロッド部を軍手などで触れないでください。異物が付着すると、ステーが円滑に動かなくなったり、開けたとき保持力が損なわれるおそれがあります。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開けたときに、ステーが支えきれなくなるおそれがあります。
- ステーに手をかけて乗りおりしたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、バックドアが開閉できなくなるおそれがあります。

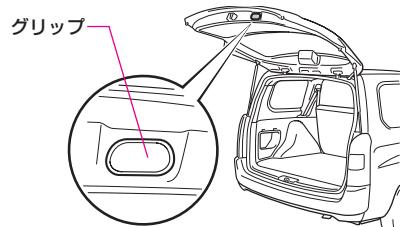


知識

便利機能について

バックドアグリップ

バックドアをおろすときに便利です。

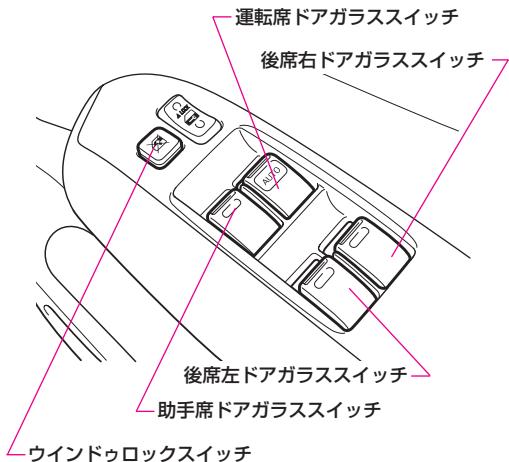


ドアガラスの開閉

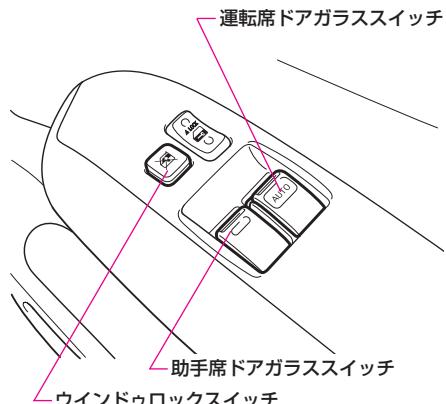
パワーウィンドウの使い方★

■運転席スイッチ

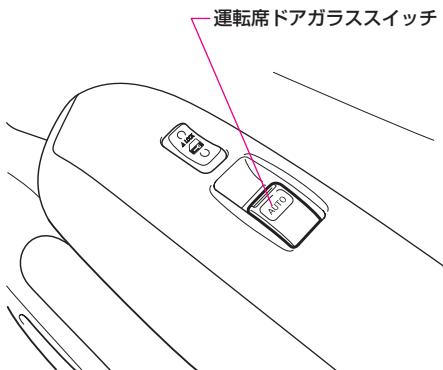
前・後席パワーウィンドウ装着車



前席パワーウィンドウ装着車

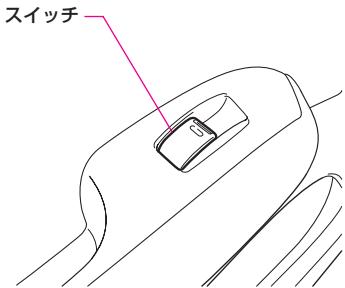


運転席パワーウィンドウ装着車

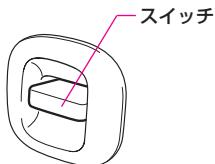


運転席スイッチで、パワーウィンドウを装着したすべてのドアガラスの開閉が行えます。

■助手席スイッチ★



■後席スイッチ★



自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に押している間は開き、上に引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■運転席ドアガラスの自動開閉のしかた

運転席ドアガラス

- 全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
- 全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。



知識

作動条件について

エンジンスイッチが“ON”的とき使用できます。ただし、助手席・後席スイッチはウインドウロックスイッチがOFFになっているときは開閉しません。

安全機能について

挟み込み防止機構

運転席ドアガラス

ドアガラスを閉めると同時に、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き、止まります。

●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷物がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

● ウィンドウロックスイッチの使い方★

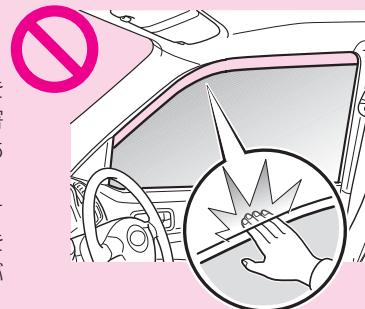
ウィンドウロックスイッチを押すごとに、ONとOFFに切り替わります。スイッチをONにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウィンドウは開閉しません。

ウィンドウロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席・後席スイッチ
ON 	運転席ドアガラスの開閉 ができます。	開閉できません。
OFF 	すべてのドアガラスの開 閉ができます。	開閉できます。



走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

- 走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアガラスを開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。
とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感じていない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。

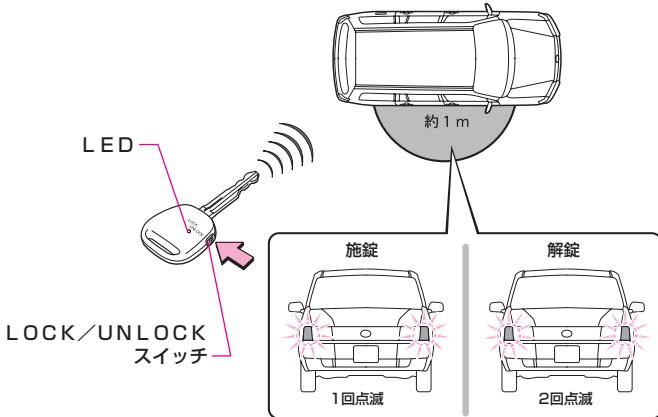


運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウィンドウの故障の原因となります。

- 運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウィンドウの故障の原因となります。
- ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウィンドウの故障の原因となります。

ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方★

● ドアの施錠・解錠のしかた



運転装置の
取り扱い

LOCK/UNLOCKスイッチを押すごとに全ドアが施錠・解錠され、作動が完了すると、非常点滅灯が点滅（施錠は1回、解錠は2回）します。

- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- スイッチを押すと、LEDが点灯します。
- スイッチを押して施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。



ワイヤレスドアロックリモコンを正常に作動させるため
に、以下の点にご注意ください。

- ワイヤレスドアロックリモコンは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。
 - ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
 - 分解しないでください。
 - 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
 - 水にぬらさないでください。
- ワイヤレスドアロックリモコンは、微弱な電波を使用しています。次のような場合は、リモコンと車両間の通信をさまたげ、正常に作動しない場合があります。その場合はキーで操作してください。
 - 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき。
 - 無線機、携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器と一緒に携帯しているとき。
 - リモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき。
 - 複数のリモコンが近くにあるとき。
 - リモコンをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。
 - 近くでワイヤレスドアロックのリモコンを使用しているとき。



知識

航空機内へのリモコンの持ち込みについて

航空機にリモコンを持ち込む場合は、航空機内でリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

作動条件について

- リモコンは、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約1mまで近づいて操作してください。
- バックドアガラスに次のものを貼りつけると、車両後方からリモコンの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
 - 金属を含有するウインドウフィルム。
 - その他の金属物。(トヨタ純正品以外のアンテナなど)
- LOCK/UNLOCKスイッチは、エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき、または、いずれかのドアが開いているときは作動しません。
- LOCK/UNLOCKスイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しながらおしてください。
- LOCK/UNLOCKスイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。

電池交換について

リモコンを操作しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはLEDが暗くなったり、点灯しなくなった場合、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。

電池の交換は市販の精密ドライバーを使用すれば、お客様自身で交換できます。P.290の「ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換」をお読みください。(トヨタ販売店でも交換できます。)

紛失について

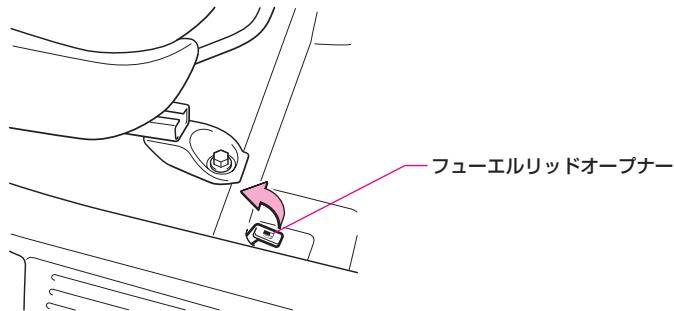
リモコンを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

使用個数について

リモコンは、同じ車両で最大4個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

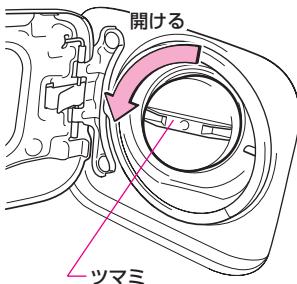


運転装置の
取り扱い

運転席右下にあるフューエルリッドオープナー（図）を引くと開きます。閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

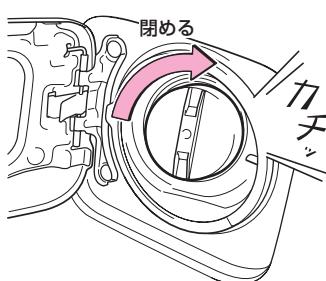
フューエルキャップの開閉

ガソリン車



■開けるときは

キャップのツマミを持ち、左にまわして開けます。



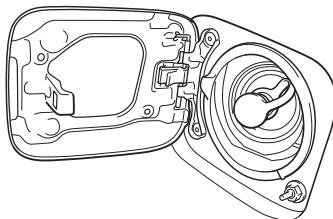
■閉めるときは

キャップのツマミを持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

● CNG車の燃料補給のしかた

CNG車

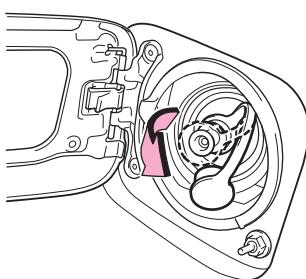
1 エンジン スイッチを“LOCK”にします。



2 フューエルリッドを開けます。

フューエルリッドオープナー(■)を引いてフューエルリッドを開けます。

運転装置の
取り扱い



3 ゴムキャップをはずします。

4 CNG充てんノズルを確実にセットし、充てん装置を作動させます。

5 充てん終了後、ノズルを取りはずします。

必ず充てん装置の作動が停止するのを確認してから、ノズルを取りはずしてください。

6 ゴムキャップを確実に取りつけます。

7 フューエルリッドを閉めます。

フューエルリッドが確実に閉っていないと、エンジンを始動することができません。

**警告****燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。**

- 燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、燃料に引火して、やけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- エンジンは必ず停止してください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるときなど補給操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
- フューエルリッドには静電気除去を行った方以外の人を近づけないでください。
- 補給中、再び車内のシートに戻ったり、帯電している人や物に触れないでください（再帯電のおそれがあります）。
- その他、スタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

ガソリン車

- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。

気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。

フューエルキャップを少しゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。

その音が止まってからゆっくり開けてください。

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわし、確実に閉まっていることを確認してください。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。

CNG車

- キャップは確実に閉めてください。閉まっていないと、ほこりなどの付着による充てん口のガス密封不良により、燃料がもれ、火災につながるおそれがあり危険です。
- CNG専用のスタンドでガスの補給をするときは、スタンドの係員におまかせください。
- 補給時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。
- CNG車はエンジン停止後、約5秒間は充てんノズルをセットしないでください。この間に充てんノズルをセットすると、ガスもれ検知システムの誤検知により、エンジンを始動することができなくなるおそれがあります。充てんについてはP.127を参照してください。

**注意**

指定以外の燃料を使用しないでください。

ガソリン車

- ガソリン車の指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪ガソリン・灯油・アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノックングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。
- 給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。

CNG車

- CNG車の指定燃料は13A（ガス事業法適合圧縮天然ガス）です。13A以外を補給すると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- フューエルリッドは、充てん終了後に必ず閉めてください。フューエルリッドが開いた状態ではエンジンを始動することができません。

**知識****フューエルリッドの位置について**

フューエルリッド（燃料補給口）は車両助手席側後方にあります。

燃料タンク容量について**ガソリン車**

燃料タンク容量は約50Lです。



知識

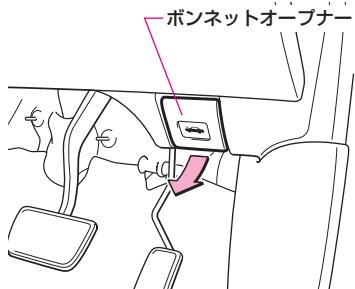
CNG（圧縮天然ガス）について

- 本車両は「高圧ガス容器に係わる関連法規」の適用を受けますので、CNG容器および容器元弁は定期的な検査が義務づけられています。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 天然ガスは空気より軽いため、地上には滞留せず、大気上方へ拡散します。
- 天然ガス自体は無臭ですが、漏洩感知のため付臭されています。
- CNGの充てんは、CNG車用燃料供給設備（急速充てん機・小型充てん機）を使用してください。
- CNGを充てんしているときに“シュー”という音が聞こえる場合がありますが、充てんによる音で異常ではありません。
- 使用燃料、タンク容量などについては、以下のとおりです。

使用燃料	13A（ガス事業法適合圧縮天然ガス）
タンク容量	88 L (41+47)
ガス充てん量	17.6 Nm ³
最高充てん圧	20 MPa

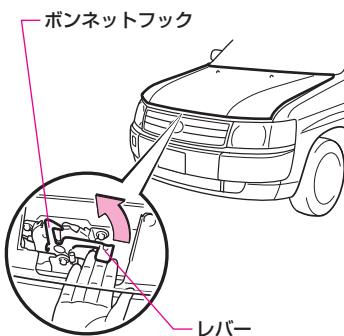
ボンネットの開閉

開け方



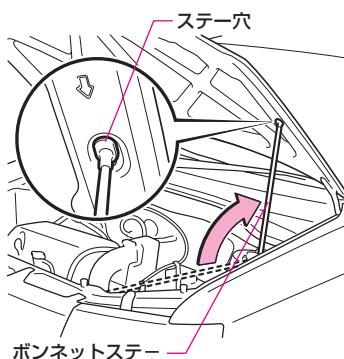
1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手をいれ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして、ボンネットを持ち上げます。



3 ボンネットステーを差し込みます。

ボンネットステーをステー穴に差し込んでボンネットを支えます。

●閉め方

1 ボンネットステーをはずします。

ボンネットステーをはずし固定します。

2 ボンネットを閉めます。

ボンネットを約20cm～25cmの位置から静かに落として閉めます。

3 ロックされていることを確認します。

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

運転装置の取り扱い



警告

走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

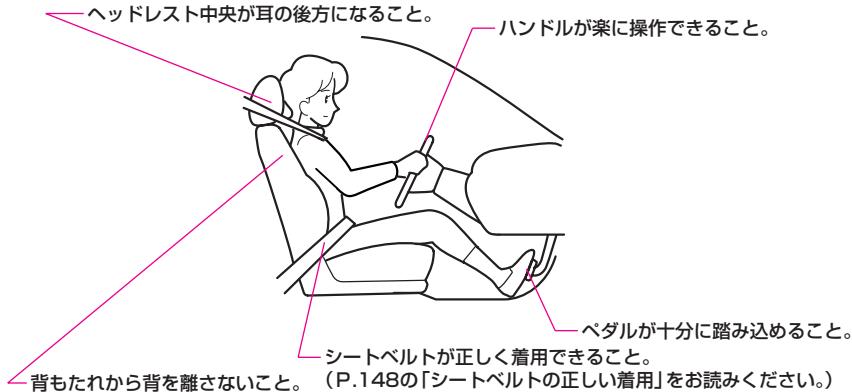
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢が取れるように、次の事項に注意してシートを調整します。

運転装置の取り扱い



警告

走行中は運転席シートの調整をしないでください。

- 走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動くなどして、運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。
- 背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

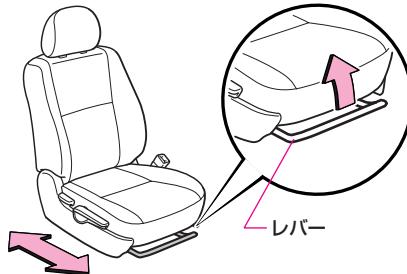
**注意**

シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

- シートを調整するときは、同乗者や荷物に当たないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 室内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などに当たり、けがをするおそれがありますので、十分に注意してください。

フロントシートの調整

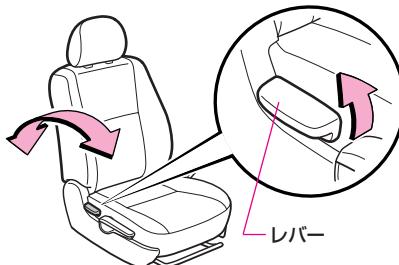
● 前後位置調整のしかた



レバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

運転装置の
取り扱い

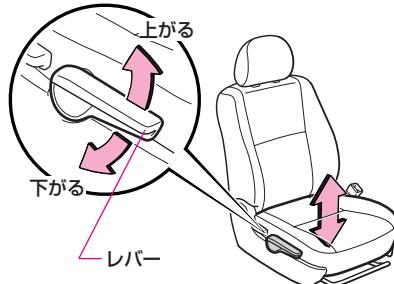
● リクライニング調整のしかた



レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

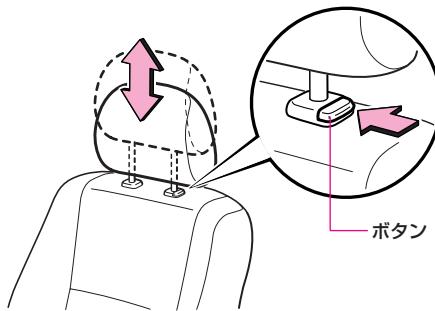
● 上下調整のしかた

運転席



シートを上げるときは上に、シート下げるときは下に、レバーを何度も動かして調整します。

● ヘッドラストの上下位置調整のしかた★



- 上げるとときは、そのまま引き上げます。
- 下げるとときは、ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

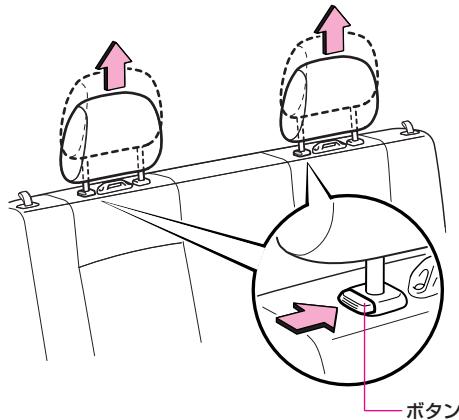


警告

ヘッドラストをはずしたまま走行しないでください。

- ヘッドラストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドラスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドラストはフロントシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドラストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

リヤヘッドレストの脱着★



運転装置の
取り扱い

- 取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。
- 取りつけるときは、そのまま差し込みます。



警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

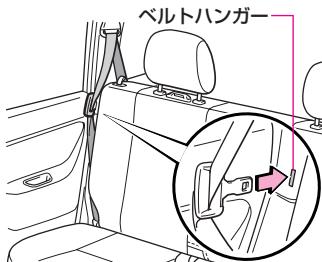
- ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ヘッドレストはリヤシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときだけをするおそれがあります。

リヤシートの前倒し

クッション引き起こし式シート

● 前倒しするときは

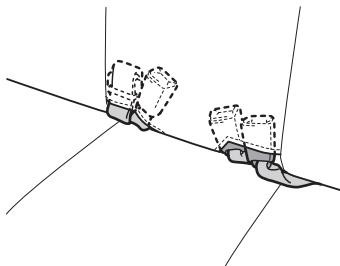
1 車を安全な場所に駐車し、しっかりとパーキングブレーキをかけます。



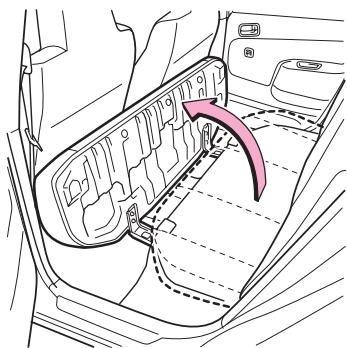
2 シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納します。
背もたれを倒すときに巻き込まれないように、両側シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納します。



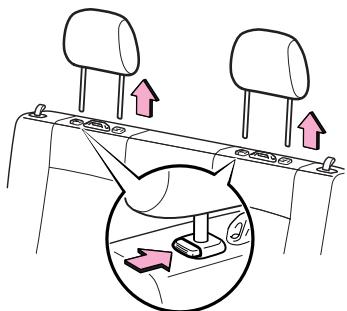
3 フロントシートを前方に移動します。
クッションを起こすときに当たらない
ように、フロントシートを前方に移動
させます (P.136参照)。



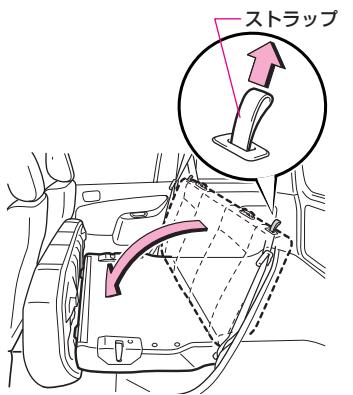
- 4** リヤシートベルトを格納します。
リヤシートベルトをリヤシートの格納
ポケットに格納します。



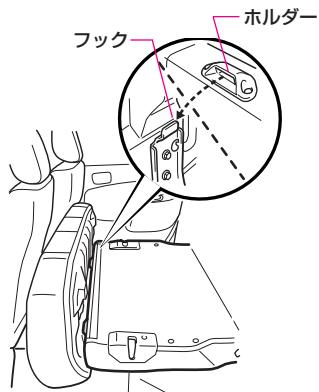
- 5** クッションを引き起こします。
クッションと背もたれの間に手を入れ
て、クッションを引き起こします。



- 6** ヘッドラスト付き車はヘッドラストを
はずします (P.139参照)。

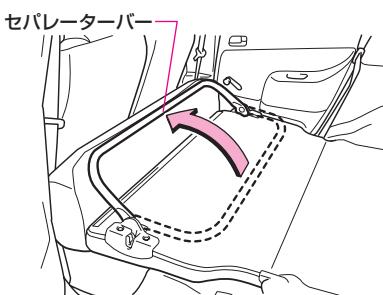


- 7 背もたれを倒します。
シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒します。



CNG車を除く

背もたれのホルダーがクッションのフックに確実に固定されていることを確認してください。



- 8 CNG車は、セパレーターバーを起こします。

もどすときは

1 シートベルトのプレートがベルトハンガーに格納されていることを確認します（P.140参照）。

2 CNG車はセパレーターバーを倒します。

3 背もたれを起こして固定します。
確実に固定されていることを確認してください。

CNG車を除く

背もたれのホルダーをクッションのフックからはずし、背もたれを起こして固定します。

4 クッションをもどします。

5 ヘッドレスト付き車はヘッドレストを取りつけます。

6 シートベルトのプレートをベルトハンガーからはずします。



背もたれを倒すときは、指などを挟まないように注意してください。

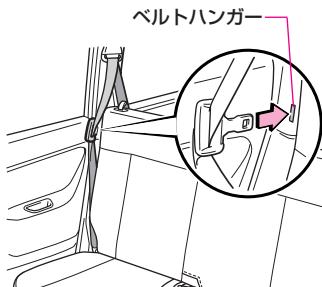
- 背もたれを倒すときは、フックとホルダーの間に指などを挟み、けがをするおそれがありますので、注意してください。
- リヤシートを倒して荷物を積むときは、必ずシートクッションを起こし、背もたれを倒してから積んでください。背もたれだけを倒して荷物を積むと、シートを破損するおそれがあります。

クッション固定式シート

● 前倒しするときは

運転装置の
取り扱い

1 車を安全な場所に駐車し、しっかりと
パーキングブレーキをかけます。



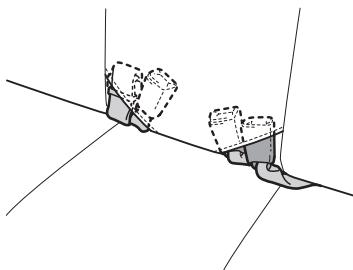
2 シートベルトのプレートをベルトハン
ガーに格納します。

背もたれを倒すときに巻き込まれない
ように、両側シートベルトのプレート
をベルトハンガーに格納します。

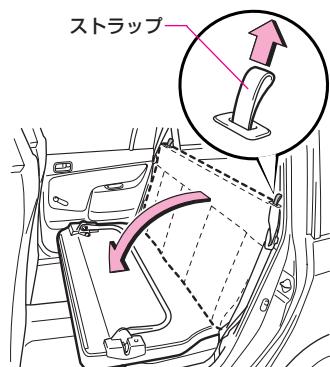


3 フロントシートを前方に移動します。

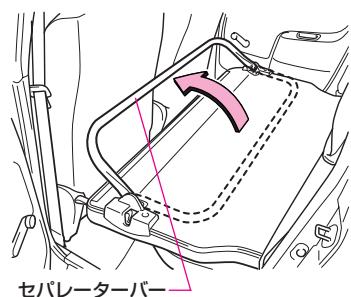
リヤシートの背もたれを倒したときに
当たらないように、フロントシートを
前方に移動させます (P.136参照)。



- 4** 2点式シートベルトを格納します。
2点式シートベルトをリヤシートの格納ポケットに格納します。



- 5** 背もたれを倒します。
シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒します。



- 6** セパレーターバーを起こします。

もどすときは

1 シートベルトのプレートがベルトハンガーに格納されていることを確認します（P.144参照）。

2 セパレーターバーを倒します。

3 背もたれを起こして固定します。
確実に固定されていることを確認してください。

4 シートベルトのプレートをベルトハンガーからはずします。



警告

走行中はシートの操作をしないでください。

- 走行中はリヤシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人をのせて走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 背もたれをもとにもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シートベルトが背もたれやクッションに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な力を発揮できず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

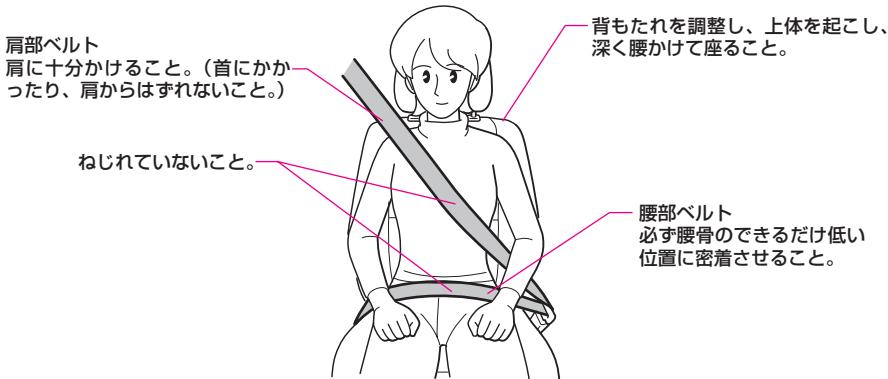
MEMO

運転装置の
取り扱い

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- 車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ふくらむSRSエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢については、P.134をお読みください。
 - 3点式シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
 - シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
 - シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
 - シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
 - シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。
 - シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
 - ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。



警告

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷ついた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください。)
- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩に通しあ腹のふくらみをさせて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください
(ただし、医師に注意事項をご確認ください。)

**警告**

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にからないうな小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。なお、子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、ブレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働くか、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

3点式シートベルトの着用のしかた

シートベルトの脱着のしかた

リヤシート中央席を除く

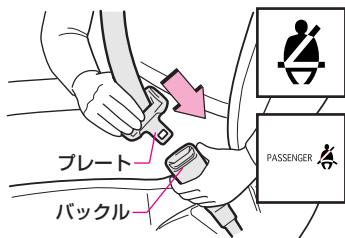


1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれないことを確認します。

シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

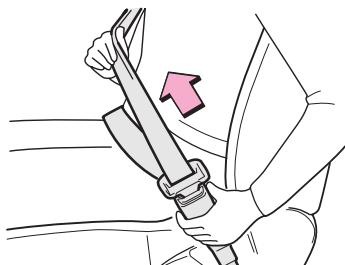
運転装置の
取り扱い



2 プレートをバックルに差し込みます。

プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯（P.202、203）が消灯したことを確認してください。



3 腰部ベルトを密着させます。

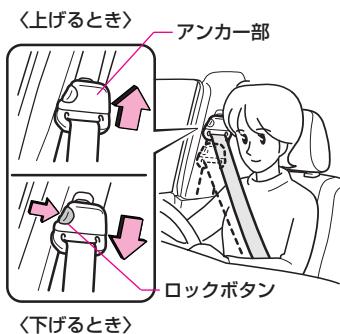
腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。



4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。

このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。



5 フロントシートでは、ベルトの高さを調整します。

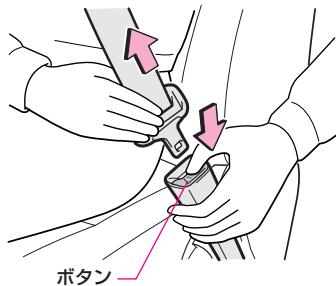
アジャスタブルシートベルトアンカーでベルトの高さを調整します。

調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

●上げるときはアンカーパーを持ち、そのまま動かします。

●下げるときは、ロックボタンを押しのままアンカーパーを動かし、最適な位置に調整します。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。



6 はずすときは、バックルのボタンを押します。



警告

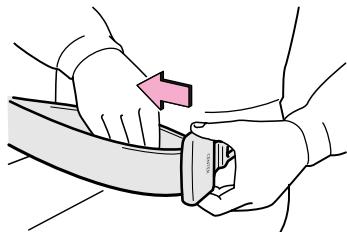
シートベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

2点式シートベルトの着用のしかた

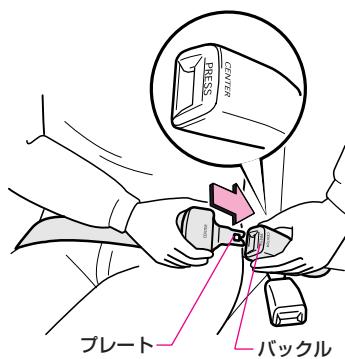
シートベルトの脱着のしかた

リヤシート中央席



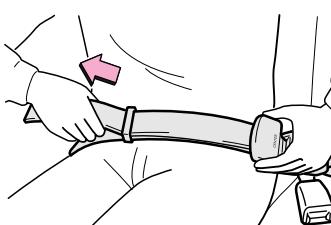
1 ベルトの長さを調整します。

プレートを図のようにしてベルトを引き、必要な長さより少し長めにします。



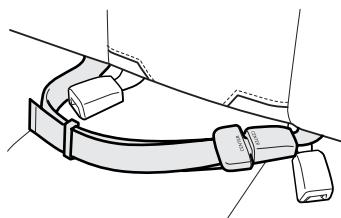
2 ベルトを結合します。

ベルトにねじりがないようにプレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。



3 ベルトを密着させます。

ベルトを引いて必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。



4 はずすときは、バックルのボタンを押してはずします。

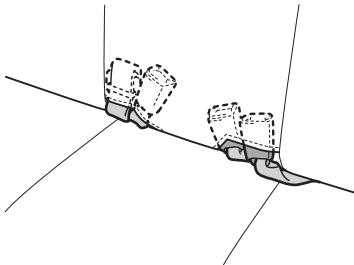
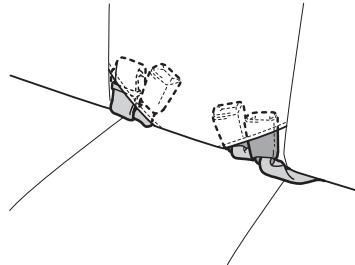
はずしたベルトは、バックルにはめておいてください。

警告

リヤシートベルトをシートの中に押し込んだ状態で使用しないでください。押し込んだままの状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を發揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識**便利機能について**

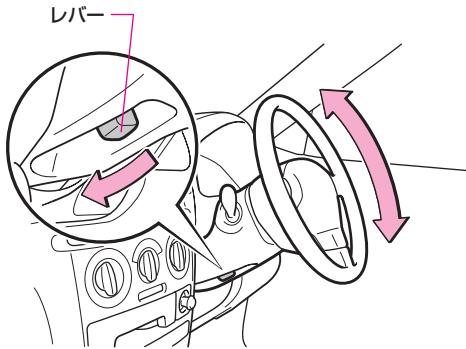
シートベルトを使用しないときは、次のように格納しておくことができます。

クッション引き起こし式シート**クッション固定式シート**

ハンドル・ミラーの調整

ハンドルの調整

運転装置の
取り扱い



レバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置にして、レバーを引き上げると固定されます。



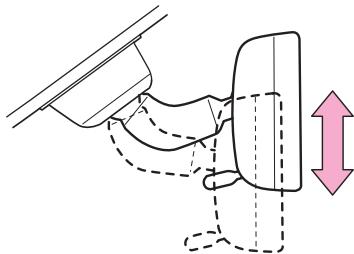
警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

インナーミラーの調整

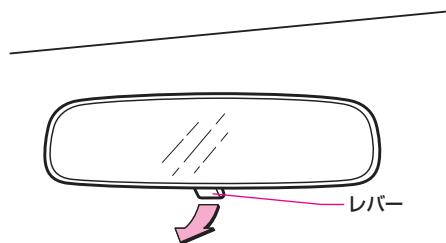
● 上下位置調整のしかた



運転装置の取り扱い

ミラー本体を持って、上下方向に調整します。

● 防眩切り替えのしかた



通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドライトがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

!**警告**

走行中は、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

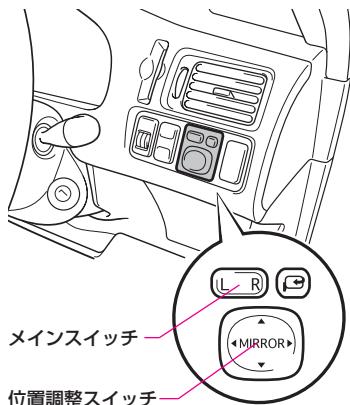
!**注意**

ミラーを調整するときは、開いたサンバイザーに当たらないような位置に調整してください。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた

運転装置の
取り扱い



1 調整する側のメインスイッチを押します。

R…右側ドアミラー

L…左側ドアミラー

2 角度を調整します。

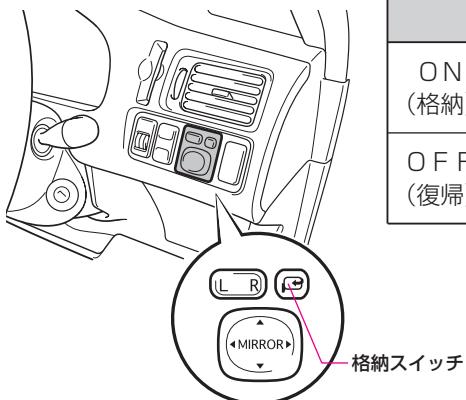
位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

3 メインスイッチを中立にします。

調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

● 格納のしかた

電動式



	スイッチの状態	ミラーの状態
ON (格納)		
OFF (復帰)		

運転装置の
取り扱い

格納スイッチを押すごとに、ON（格納）とOFF（復帰）に切り替わります。エンジンスイッチが“LOCK”的ときは、手で格納・復帰させることもできます。

手動式

ドアミラーを手で後方に倒して格納します。走行前には、運転席から後方確認ができる位置まで確実にもどしてください。

**警告**

走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。

- 走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**注意**

ドアミラーが動いているときは手を触れたりしないでください。手を挟んだけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因となるおそれがあります。

**知識****作動条件について**

- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”的とき使用できます。
- ドアミラー格納作動中に、エンジンスイッチを“LOCK”にすると、格納作動が停止します。
- 次の場合は、ドアミラーを手で格納・復帰させても、ミラーは格納スイッチの状態にもどります。
 - エンジンスイッチが“ACC”または“ON”的とき。
 - 手動で操作したあとに、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたとき。
- 格納スイッチがOFF(復帰)の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしても、ミラーは復帰しません。一度格納スイッチをON(格納)にしてから、再度格納スイッチをOFFにして復帰させてください。

エンジンのかけ方

エンジン（イグニッション）スイッチの使い方

エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置。

ラジオ、シガレットライター、ドアミラーなど

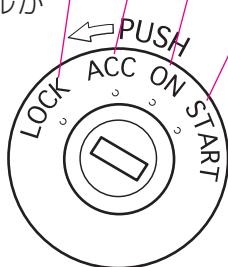
エンジン回転中の位置。

すべての電装品が使用できます。

キーを抜き差しできる位置。

キーを抜くと、ハンドルがロックされます。

エンジンを始動する位置。



運転装置の
取り扱い

“LOCK”から“ACC”にまわすとき

ハンドルロックがかかっていてキーがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらキーをまわします。

“ACC”から“LOCK”にまわすとき

キーを押しながらまわします。

オートマチック車

シフトレバーをPにしてから、キーを押しながらまわします。



注意

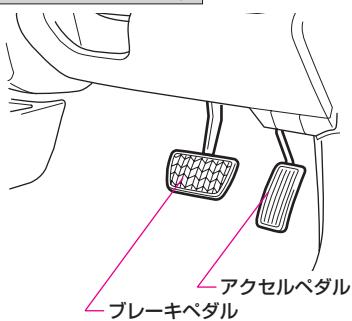
エンジン停止時は、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”的まま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

エンジン始動の手順

運転装置の
取り扱い

- 1 CNG車はフューエルリッドが閉じていることを確認します。
フューエルリッドが開いているときは、安全のためにエンジンがかからないようになっています。

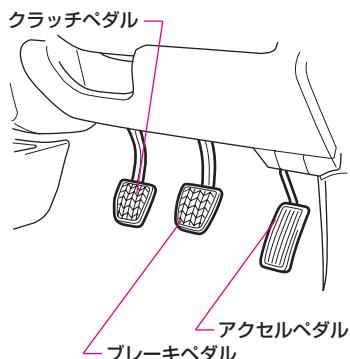
オートマチック車



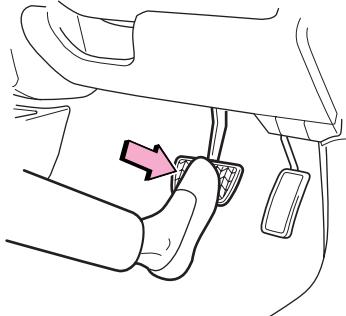
- 2 ペダルの位置を確認します。

正しい運転姿勢（P.134）が取れるようシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

マニュアル車

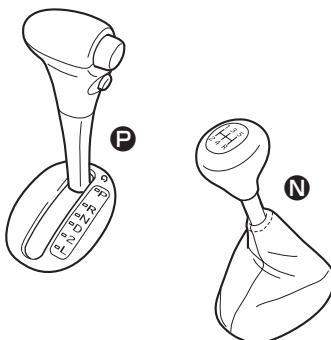
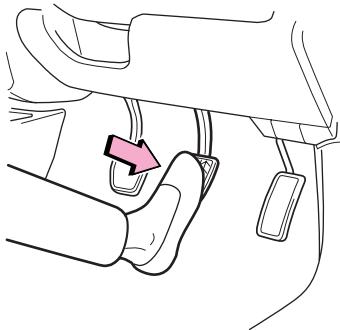


オートマチック車



3 ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

マニュアル車

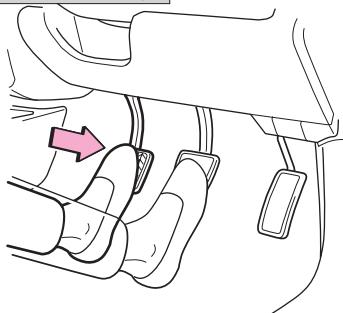


4 シフトレバーの位置を確認します。

シフトレバーが**N**（マニュアル車）／
P（オートマチック車）にあることを
確認します。

●オートマチック車は**N**でも始動できますが、安全のため**P**で行ってください。

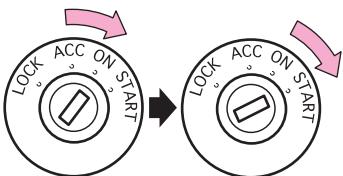
マニュアル車



5 マニュアル車はクラッチペダルを踏みます。

クラッチペダルをしっかりと踏みます。

- クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンがかからないようになっています。



6 エンジンを始動します。

エンジンスイッチを“ON”にし、
アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチを“START”にまわします。

エンジンがかからないときは

CNG車

エンジンがかからないときは、以下の表にもとづいて内容を確認し、処置を行ってください。

下記の処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症 状	原 因	処 置
エンジンが始動しない。	燃料が入っていない。	燃料計（圧力計）で残量を確認し、燃料を補給してください。
	フューエルリッド（燃料補給口）が開いている。	フューエルリッド（燃料補給口）を確実に閉めてください。
エンジンが始動しても数秒後に止まってしまう。	燃料が入っていない。	燃料計（圧力計）で残量を確認し、燃料を補給してください。
	ガスもれしている。	ガスもれの有無は、ガスの臭い・ガスのもれる音がする・燃料計（圧力計）の低下が異常に速い・CNG警告灯が点滅しているなどの症状で確認できます。 ガスもれが発生しているときは、そのまま車を使用せず、エンジンスイッチを“LOCK”にして、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。



警告

車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

- 車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
- 走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが動かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車を少し移動させるとときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



知識

CNG車の始動について

CNG車

- エンジン スイッチを“ON”にすると、“カチッ”という音がしますが、これは燃料供給系の弁が開く音で異常ではありません。
- 寒冷時は、アクセルペダルを踏み込んだ状態にしてから、エンジン スイッチを“START”にまわしてください。

MEMO

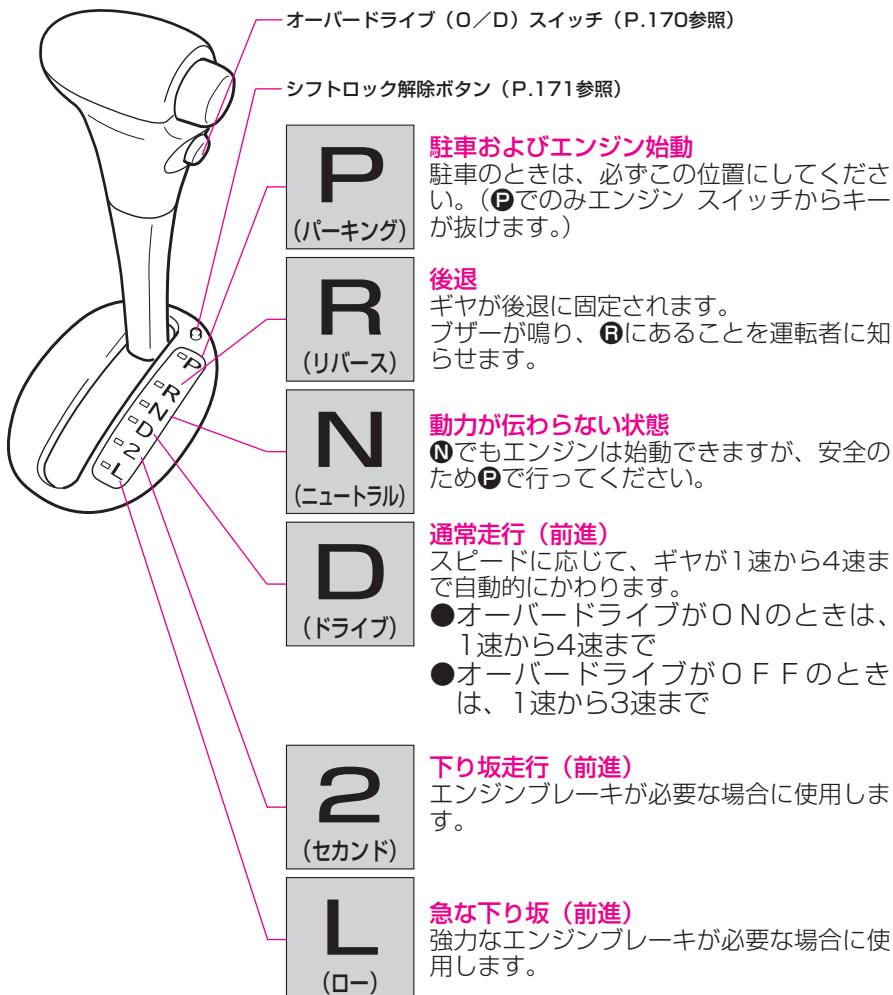
運転装置の
取り扱い

シフトレバーの使い方

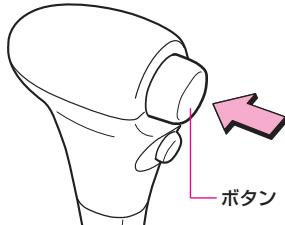
オートマチック車の使い方

シフトレバーの働き

運転装置の
取り扱い



● シフトレバーの取り扱い



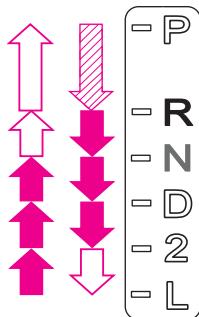
■ シフトレバーの操作

■ D と P の間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車が完全に止まっている状態で行ってください。

ボタンを押して

↑↓ の矢印は、ボタンを押して操作します。

↓ の矢印は、ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。



ボタンを押さずに

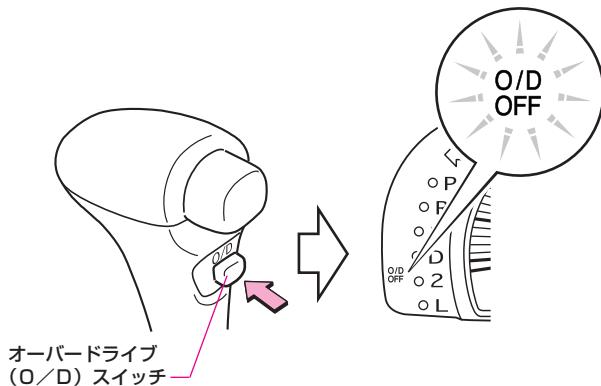
↓↑ の矢印は、ボタンを押さずに操作します。



警告

↑↓ の操作はレバー・ボタンを押さずに操作してください。いつもレバーボタンを押して操作していると意に反して P、R または L に入れてしまい、思わぬ事故の原因となり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■オーバードライブ（O/D）スイッチの操作



スイッチを押すごとにOFFとONに切り替わります。

- OFFのとき、オーバードライブOFF表示灯（P.190参照）が点灯します。
- エンジン始動時にはオーバードライブONの状態になっています。



知識

オーバードライブ（O/D）について

オーバードライブOFF表示灯が消灯しているとき（オーバードライブON）
通常走行に適します。

シフトレバーがDで走行中、4速（オーバードライブ）ギヤにまで入り、燃費性能と静粛性を高めます。

オーバードライブOFF表示灯が点灯しているとき（オーバードライブOFF）
4速（オーバードライブ）ギヤに入らなくなり、次のような効果があります。

- 軽いエンジンブレーキが得られます。
- 上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

作動条件について

- エンジンスイッチが“ON”的とき使用できます。
- エンジン始動時には、オーバードライブONの状態になっています。



知識

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

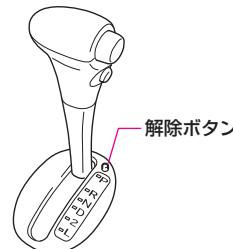
- ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからレバー操作できません。
 - エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”的ときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
 - シフトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み込んで、操作してください。
- P以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
 - エンジンスイッチからキーを抜くときは、Pにしてください。(P以外ではキーを“ACC”から“LOCK”にまわせません。)
- Pに入れると、ブザーが鳴ります。
 - ブザーが鳴り、Pにあることを運転者に知らせます。
 - 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。(車外の人に対する警告音ではありません。)

運転装置の取り扱い

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、Pからレバー操作できないときに使用します。

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、エンジンスイッチを“ACC”にして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを操作してください。
- シフトロックシステムなどの故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



各シフト位置での速度限界

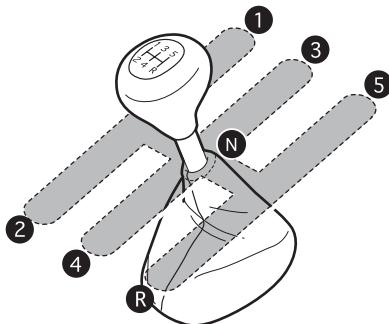
エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

単位: km/h [参考値]

エンジン型式 シフト位置	1NZ-FE		2NZ-FE	1NZ-FNE
	FF	4WD		
L	60	60	60	60
2	115	110	110	110
D (O/D OFF)	180	170	170	170

マニュアル車の使い方

● シフトレバーの取り扱い



運転装置の
取り扱い

■シフトレバーを①に入れるときは

誤操作を防ぐため、⑤からRへは直接入れることができません。いったんNにしてからRに入れます。

■駐車するときは

パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを平地や下り坂ではR、上り坂では①に入れます。

また、寒冷時に駐車するときは、P.276の「駐車するときは」を併せてお読みください。



注意

車両が動いているときはシフトレバーをRに入れないでください。

- 車両が動いているときはシフトレバーをRに入れないでください。車が完全に停止してから操作しないとトランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけていないと、車両が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

各シフト位置での速度限界

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

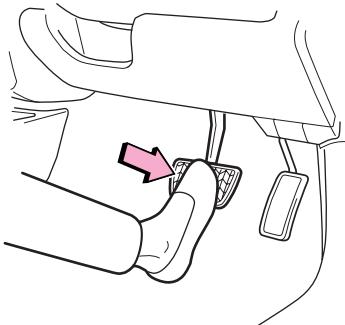
単位：km/h [参考値]

シフト位置	エンジン型式		2NZ-FE
	FF	4WD	
1速	50	45	45
2速	90	80	85
3速	130	120	120
4速	170	160	165

オートマチック車の運転のしかた

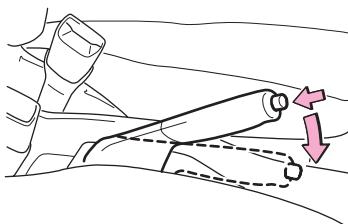
発進のしかた

通常発進のしかた

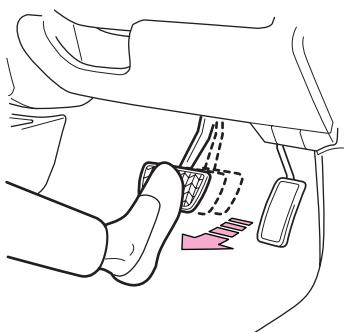


運転装置の
取り扱い

- 1 ブレーキペダルを右足でしっかりと踏ん
だまま、シフトレバーを①に入れます。



- 2 パーキングブレーキを解除します。
P.180参照。



- 3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、
右足でアクセルペダルをゆっくり踏み
発進します。

● 上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキがしっかりとかかっていることを確認してから、シフトレバーを①に入れます。
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏みます。
- 3 車が動き出す感触を確認してから、パーキングブレーキを解除し、発進します。



ブレーキペダルをしっかりと踏んだままシフトレバーを操作してください。

- 発進するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、シフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- 運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏み込んだまでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 通常の走行

シフトレバーを①に入れたまま走行します。

- アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

● 急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンし、急加速します。

● 坂道で走行するときは

■ 上り坂

アクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。あらかじめシフトレバーを②にしておくと、エンジン回転数の変化を抑えることができます。

■ 下り坂

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが①のままでスピードが出すぎるときは、坂道に応じて②または③にしてエンジンブレーキを併用します。

- オーバードライブをOFFにすることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。



警告

走行中にはシフトレバーをNにしないでください。

- 走行中にはシフトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 前進で走行中は、シフトレバーをRに入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
- ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 坂道などでは、シフトレバーをD（または2L）に入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。



注意

シフトレバーをNにしたままで走行すると、トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

停車のしかた

- 1** 車を止めます。シフトレバーは①に入れたまま、右足でブレーキペダルをしっかりと踏みます。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

運転装置の
取り扱い

- 2** 必要に応じて、パーキングブレーキをかけます。

上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。

右足でブレーキペダルをしっかりと踏み、しっかりとパーキングブレーキをかけてください。

- 3** 長時間停車する場合は、シフトレバーを②（または④）に入れます。

● 駐車のしかた

1 車を完全に止めます。

2 パーキングブレーキをかけます。

右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 シフトレバーをPに入れます。

車が動き出さないためにも、必ずPにしてください。

4 エンジンを停止します。

車を離れるときは、必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

運転装置の
取り扱い



警告

走行中は、シフトレバーをPに入れないとください。

- 走行中はシフトレバーをPに入れないとください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーがP・N以外に入っていると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

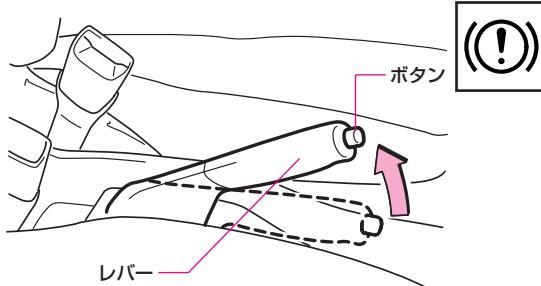
車から離れるときは、必ずエンジンを停止してドアを施錠してください。

- エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーがP以外にあるときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーをDに入れたままアクセルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

パーキングブレーキの使い方

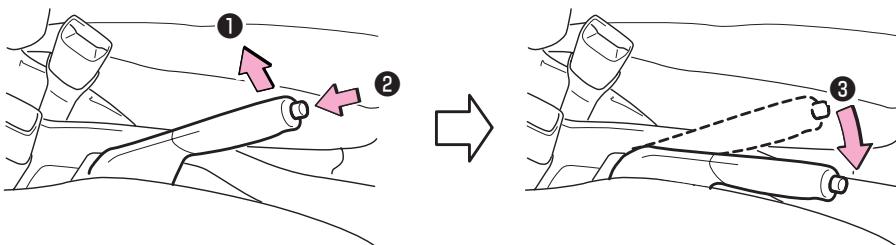
パーキングブレーキの使い方

パーキングブレーキをかけるには



運転装置の
取り扱い

パーキングブレーキを解除するには



- ブレーキ警告灯が消灯します。



注意

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品が
早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。



知識

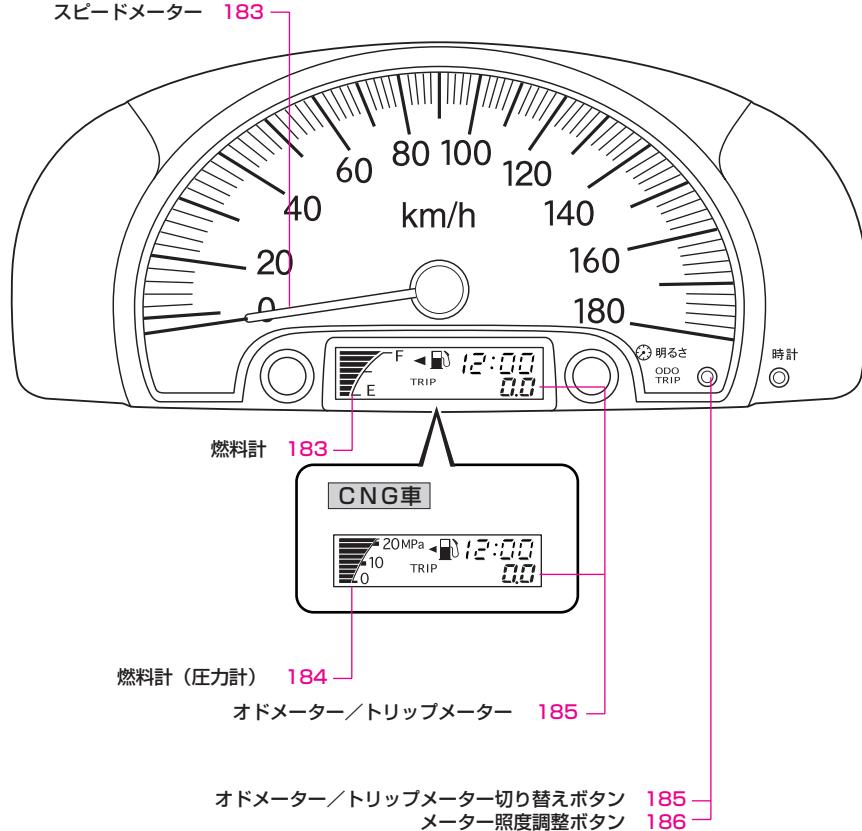
冬期のパーキングブレーキの使用について

P.276の「駐車するときは」をお読みください。

メーター・表示灯・警告灯の見方

メーター

運転装置の
取り扱い



●スピードメーター

車両の走行速度を示します。

●燃料計

ガソリン車

エンジンスイッチが“ON”的とき、燃料残量を示します。

- 燃料タンク容量は約50Lです。
- エンジンスイッチが“ON”的とき、燃料残量が約8L以下になると、一番下の残量表示と燃料残量警告灯が点滅します。(P.200参照)
点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。



知識

燃料計について

- 給油量が少ないと、表示がかわるまでに時間がかかることがあります。
- エンジンスイッチが“ON”的まま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
- 燃料計にある◀印はフューエルリッド(燃料給油口)が助手席側車両後方にあることを示しています。
- エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしても、約10分間は表示します。

● 燃料計（圧力計）

CNG車

エンジンスイッチが“ON”のとき、タンク内のCNGの圧力を示します。使用燃料、燃料タンクの容量などは以下のとおりです。

使用燃料	13A（ガス事業法適合圧縮天然ガス）
タンク容量	88L (41+47)
ガス充てん量	17.6 Nm ³
最高充てん圧	20 MPa



知識

燃料計（圧力計）について

- エンジンスイッチが“ON”的まま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
燃料補給時には、安全のためにもエンジンは必ず止めてください。
- 燃料残量が正しく検知できないときは、残料表示の目盛りが表示されないことがあります。
- CNG車は、圧縮天然ガスを20MPaの高圧に加圧して、ガス容器に充てんしています。加圧により容器内のガス温度は上昇しますので、20MPaまで充てん後に、外気温がガス温度より低いとガス温度が低下し約17MPa程度まで下がります。これはCNG車の特徴です。
したがって充てん後しばらくすると、ガスを消費しなくとも圧力が低下します。
- 小型充てん機で充てんした場合は、外気温によっては最高充てん圧力が20MPa以下ですので、安定した状態でも17MPa以下になってしまふ場合がありますが、異常ではありません。

● オドメーター／トリップメーター

エンジンスイッチが“ON”のとき、次の表示を示します。

■ オドメーター

走行した総距離をkmの単位で示します。

■ トリップメーター

区間距離をkmの単位で示します。



知識

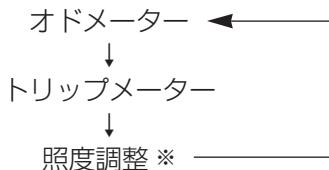
オドメーター／トリップメーターについて

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしても、約10分間は表示します。

● オドメーター／トリップメーター切り替え ボタン(トリップメーターリセットボタン)

■ 表示の切り替え方

切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。



※ランプ点灯時

■ トリップメーターを0(ゼロ)にもどすときは

トリップメーターを表示させてから、切り替えボタンを表示が0になるまで押し続けます。

バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

メーター照度調整ボタン

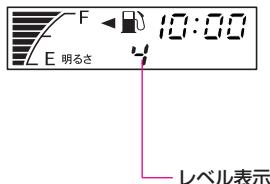
■メーター照度調整表示に切り替えるには

エンジンスイッチとライトスイッチが“ON”のとき、調整ボタンを押すと、トリップメーター表示のあとに照度調整表示に切り替わります。(P.185参照)

■照度調整のしかた

メーター照度調整表示中、調整ボタンを約1秒以上押し続けると、メーター照明の明るさをかえることができます。

- 好みの明るさになったら、ボタンから手を離します。
- 6段階で明るさのレベルを調整できます。



知識

照度調整表示について

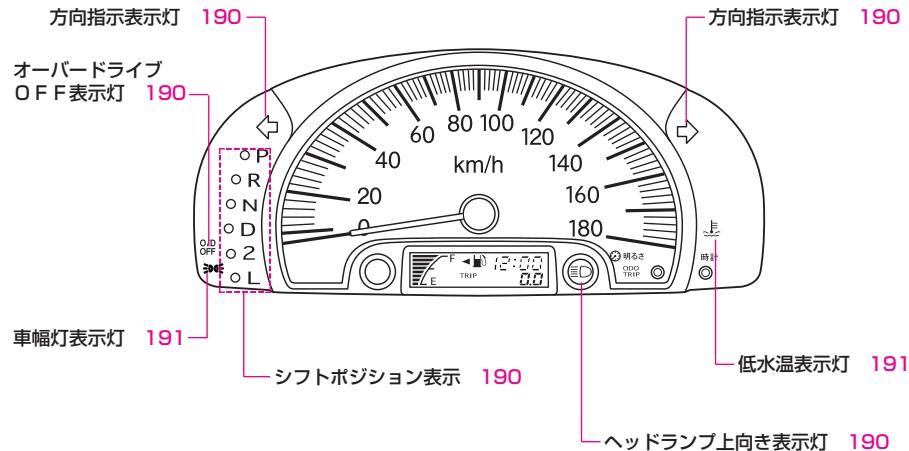
- 次のような場合は、自動的に照度調整表示からオドメーター表示に切り替わります。
 - 照度調整表示に切り替えてから、約10秒以上、ボタンを操作しなかったとき。
 - ライトスイッチをOFFにしたとき。
- エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしても、約10分間は調整できます。

※ 図はガソリン車のものです。CNG車は多少異なります。

MEMO

運転装置の
取り扱い

表示灯



図ではすべてのグレードにおける表示灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯はグレード等により異なります。

〈表示灯一覧表〉

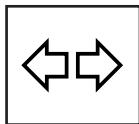
表示灯	表示灯名
	方向指示表示灯
	ヘッドライト上向き表示灯
	オーバードライブ OFF 表示灯
	低水温表示灯（青色）
	車幅灯表示灯



シフトポジション表示

オートマチック車

選択されているシフト位置を表示します。



方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。
(P.206、214参照)



点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。



ヘッドライト上向き表示灯

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。(P.205参照)



オーバードライブOFF表示灯

オートマチック車

オーバードライブスイッチをOFFにすると点灯します。
(P.170参照)

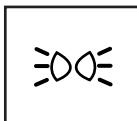


● 低水温表示灯(青色) ■

エンジンスイッチが“ON”のとき、エンジン冷却水の水温が低いと点灯します。



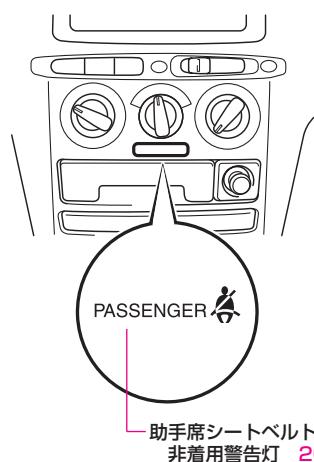
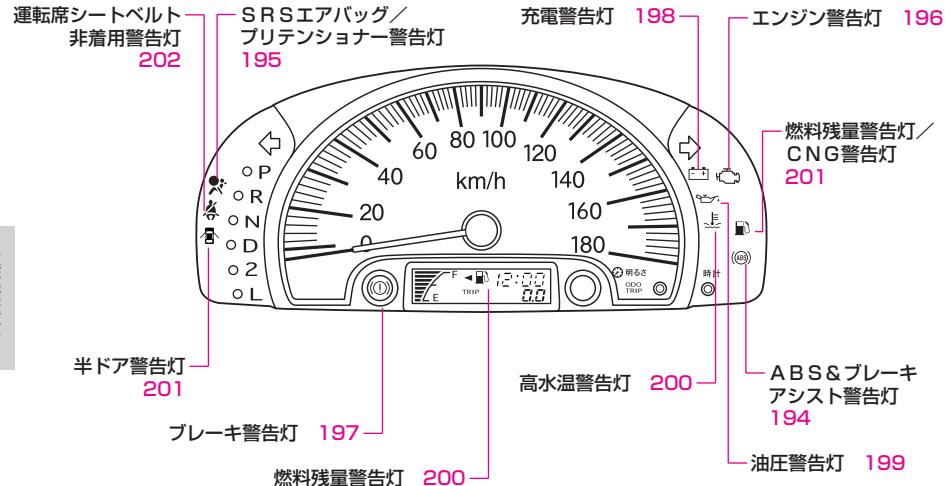
暖機を十分続けていても、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。



● 車幅灯表示灯 ■

車幅灯、尾灯を点灯させると点灯します。(P.204参照)

警告灯



図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
	A B S & ブレーキアシスト警告灯 (A B S & ブレーキアシス ト装着車)		高水温警告灯（赤色）
	S R S エアバッグ／ プリテンショナー警告灯		燃料残量警告灯 (ガソリン車)
	エンジン警告灯		燃料残量警告灯／ C N G 警告灯 (C N G車)
	ブレーキ警告灯		半ドア警告灯
	充電警告灯		運転席シートベルト非着 用警告灯
	油圧警告灯	PASSENGER	助手席シートベルト非着 用警告灯

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



● ABS & ブレーキアシスト警告灯

ABS & ブレーキアシスト装着車

ABS & ブレーキアシストシステム (P.258) に異常があると点灯します。

- 警告灯が点灯しているときは、ABS & ブレーキアシストは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
- 警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。



ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

- 警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ABSに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になることがあります。
 - 警告灯が次のようにになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないとき。
 - エンジンスイッチが“ON”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。
- なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。



警告灯について

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯・点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



● SRSエアバッグ／ プリテンショナー警告灯

SRSエアバッグシステム（P.246）、またはプリテンショナー付シートベルトシステム（P.256）に異常があると、点灯・点滅します。



警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにSRSエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

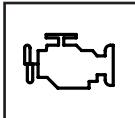
- エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき。
- 走行中に点灯・点滅したとき。

◆ 知識

警告灯について

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、またはオートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

警告灯について

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。



● ブレーキ警告灯

エンジンスイッチが“ON”で次のときに点灯します。

- パーキングブレーキをかけたままのとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。



警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
- 警告灯がA B S & ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。
この場合、A B Sに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。



警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチが“ON”で、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき。
- パーキングブレーキが解除された状態で、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないとき。
なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。



● 充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、Vリブドベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。



知識

警告灯について

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。



● 油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。

この警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。

(点検方法は、P.315を参照してください。)



注意

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、エンジンオイル量を点検してください。点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

運転装置の
取り扱い

知識

警告灯について

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。



● 高水温警告灯(赤色)

エンジン回転中、エンジン冷却水の水温が異常に高くなったとき点滅します。



注意

警告灯が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、「オーバーヒートしたときは」(P.354) にしたがって処置してください。



知識

警告灯について

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。



● 燃料残量警告灯

ガソリン車

エンジンスイッチが“ON”的ときは、残量が約8L以下になると、警告灯と燃料計の一番下の目盛りが点滅します。点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点滅することがあります。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。



● 燃料残量警告灯／CNG警告灯

CNG車

■ 燃料残量警告灯

エンジンスイッチが“ON”のとき、残量が約3.2 Nm³ (3.6 MPa) 以下になると点灯します。すみやかに燃料を補給してください。

■ CNG警告灯

燃料タンク内のガス圧が、異常に低下すると点滅します。点滅したときはガスもれのおそれがあります。ただちに点検してください。(P.362参照)

運転装置の
取り扱い



● 半ドア警告灯

いずれかのドア(バックドアを含む)が確実に閉まっていないときに点灯します。



警告
警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉っていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。



●運転席シートベルト非着用警告灯

エンジンスイッチが“ON”的とき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。(ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。)

- シートベルトを装着すると消音します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。



● 助手席シートベルト非着用警告灯

エンジンスイッチが“ON”で、かつ助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■ 助手席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。(ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。)

- シートベルトを装着すると消音します。

運転装置の
取り扱い



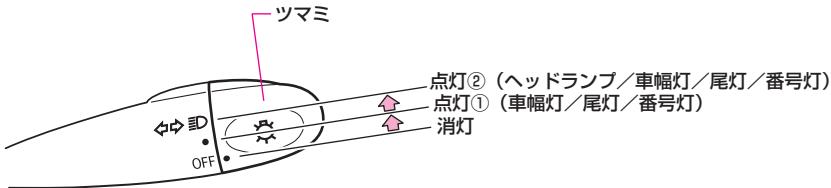
警告灯について

- センサーは、助手席シート座面（うしろ半分）に、ある一定以上の重量がかかったときに検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- 助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

スイッチの使い方

ライトスイッチ／方向指示レバーの使い方

ランプの点灯・消灯



運転装置の
取り扱い

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。

●点灯させるとメーター内の車幅灯表示灯（P.191参照）が点灯します。



注意

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。



知識

作動条件について

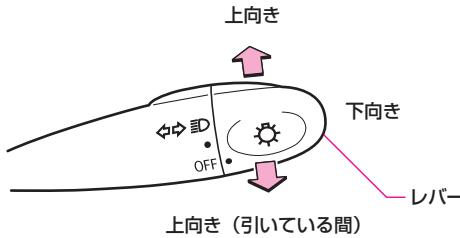
エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

便利機能について

ランプ消し忘れ警告ブザー

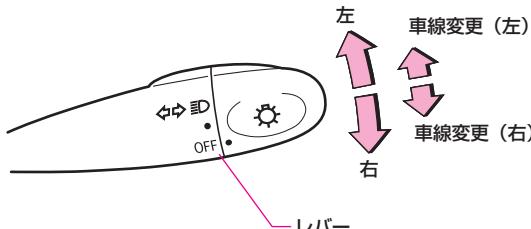
ツマミが点灯①・点灯②のままエンジンスイッチからキーを抜いて運転席ドアを開くと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが“ピー”と鳴ります。

● 前方を遠くまで照らしたいときは



- ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
- ヘッドライトが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドライトが上向きになります。
- ヘッドライトが上向きのときは、メーター内のヘッドライト上向き表示灯（P.190参照）が点灯します。

方向指示灯の点灯・消灯



- レバーを上、または下へ操作すると、左、または右側の方向指示灯が点滅し、メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。
- 車線変更のときには、レバーを軽く上、または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。



知識

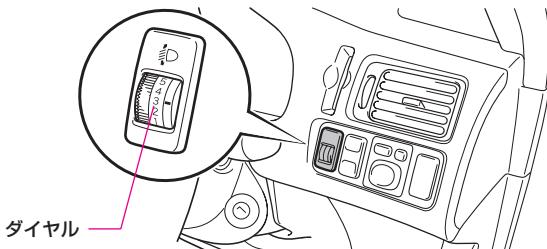
作動条件について

エンジンスイッチが“ON”的とき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドライトの光軸上下調整



ダイヤルをまわすと、ヘッドライトの光軸（光の照らす方向）を下向きに調整できます。

- 通常は0（ゼロ）の位置（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

知識

光軸上下調整について

- 荷物や人をのせることにより車両前面が上を向いて、ヘッドライトの照らす範囲がいつもと違う（いつもより上向きになっている）ときに、ダイヤルをまわしてヘッドライトの光軸を下向きにします。荷物や人をおろしたあとには、必ずダイヤルを0（ゼロ）の位置にもどしてください。
- 乗員やラゲージルームの積載状況に応じて下記の表を目安にダイヤル位置を調整してください。

ダイヤル位置の目安

乗員やラゲージルームの積載状況	ダイヤル位置				
	バン		ワゴン		
	2WD	4WD	CNG	2WD	4WD
運転席のみ乗車時	0	0	0	0	0
運転席と助手席に乗車時	0	0	0	1	1
5名乗車時	—	—	—	2	2
5名乗車時でかつラゲージルーム満載時	3	3	2	3	2
運転席のみ乗車時でかつラゲージルーム満載時 (リヤシート前倒し時)	5	4	3	5	4

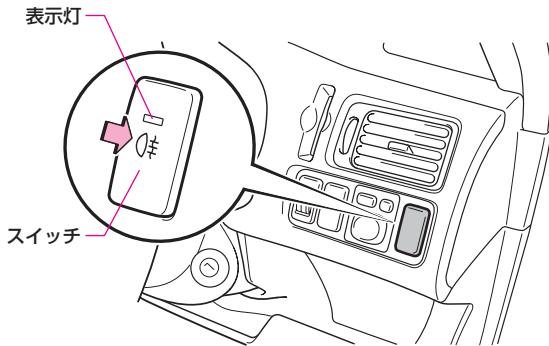
- 車検などで光軸調整をするときは、ダイヤルを0（ゼロ）の位置（一番上向きの位置）にしてから行ってください。

作動条件について

ヘッドライト（ロービーム）が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプスイッチの使い方★

寒冷地仕様車



運転装置の
取り扱い

- スイッチを押すと表示灯が橙色に点灯し、もう一度押すと消灯します。
- 点灯中は表示灯が点灯します。



知識

リヤフォグランプについて

- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に、自分の車の存在を知らせるために使用します。
- 視界が悪いとき以外に使用すると、後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

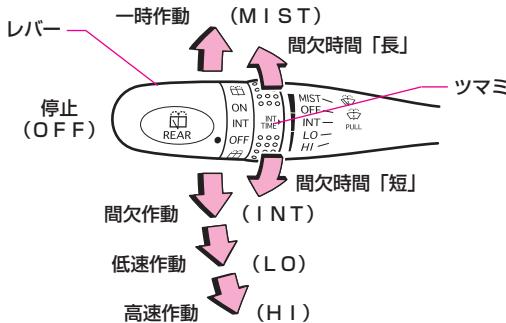
作動条件について

- ヘッドライトが点灯しているときに使用できます。
- リヤフォグランプが点灯しているときに、ヘッドライトを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。
- リヤフォグランプが点灯しているときに、ライトスイッチをOFFにして車幅灯を消灯させると、リヤフォグランプも消灯します。
- リヤフォグランプが消灯したあとに、再度点灯させるためには、リヤフォグランプスイッチの操作が必要です。

ワイパー＆ウォッシャースイッチの使い方

フロントワイパーの動かし方

間欠時間調整式ワイパー

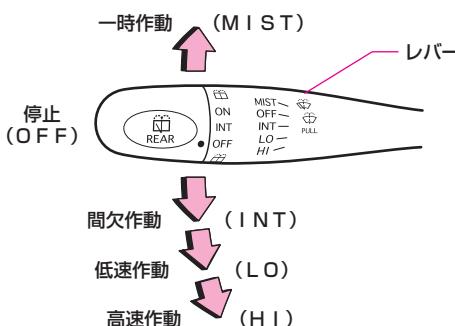


運転装置の
取り扱い

レバーを操作すると、上図のようになります。

- 間欠作動（INT）のときはツマミをまわすと、間欠時間を約3～10秒の間で調整できます。
- 一時作動（MIST）は、レバーをOFFから押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すとOFFにもどります。

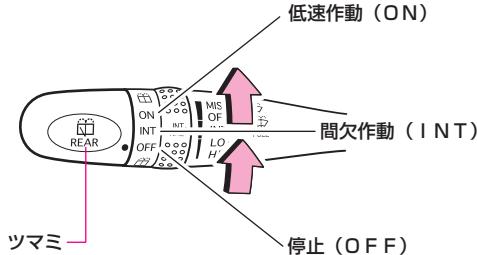
間欠ワイパー



レバーを操作すると、上図のようになります。

- 間欠作動（INT）のときは、約5秒おきに作動します。
- 一時作動（MIST）は、レバーをOFFから押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すとOFFにもどります。

リヤワイパーの動かし方★



ツマミをまわすと、上図のように作動します。



注意 ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。

- ウインドウガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。ガラスに張りついたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めて、ワイパースイッチをOFF・エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にし、ワイパーが作動できるように、積雪などの障害物を取り除いてください。



知識

作動条件について

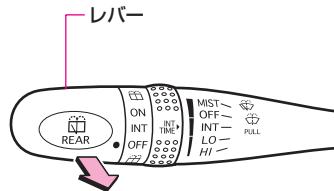
エンジンスイッチが“ON”的とき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して、通常どおり使用できるようになります。

● ウォッシャー液の噴射のしかた

■フロント

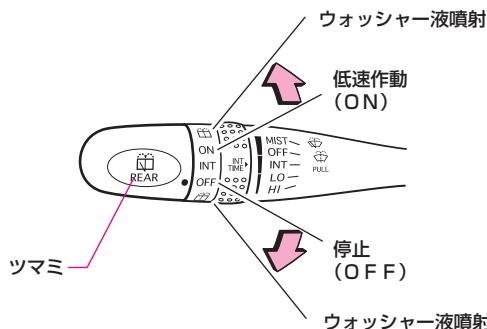


レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。

- ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

運転装置の 取り扱い

リヤ★



- 低速作動中にウォッシャー液を噴射させると、ツマミをONから上の図側にまわします。
 - ツマミをOFFから下の図側にまわすと、ウォッシャー液が噴射されます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。



注意

寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不良を起こすおそれがあります。

- 寒冷時は、ウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドウガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
- 必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまつまつて噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。



知識

作動条件について

エンジンスイッチが“ON”的とき使用できます。

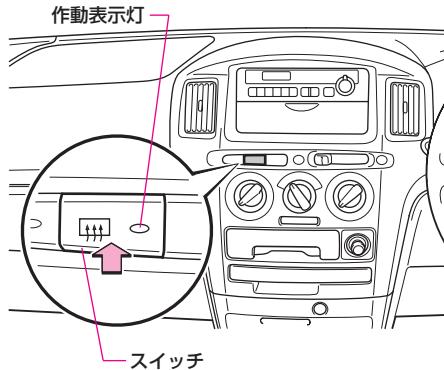
ガラスについた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のランプなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、P.316をお読みください。

リヤウインドウデフオッガー (曇り取り) スイッチの使い方

運転装置の
取り扱い

スイッチを押すと作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

- 作動中は作動表示灯が点灯します。



注意

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。



知識

リヤウインドウデフオッガーについて

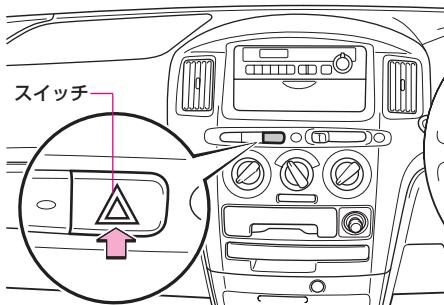
リヤウインドウガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。

作動条件について

エンジンスイッチが“ON”的とき使用できます。

非常点滅灯スイッチの使い方

運転装置の取り扱い



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、点滅中にもう一度押すと消灯します。

●点滅中はメーター内にある方向指示表示灯も点滅します。



注意

バッテリーがあがるのを防ぐため、エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。



知識

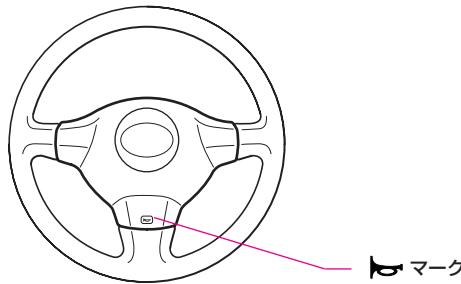
非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

ホーンの使い方



運転装置の取り扱い

ハンドルのホーンマーク周辺部を押すとホーン（警音器）が鳴ります。



知識

作動条件について

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

MEMO

運転装置の
取り扱い

4

室内装備の取り扱い

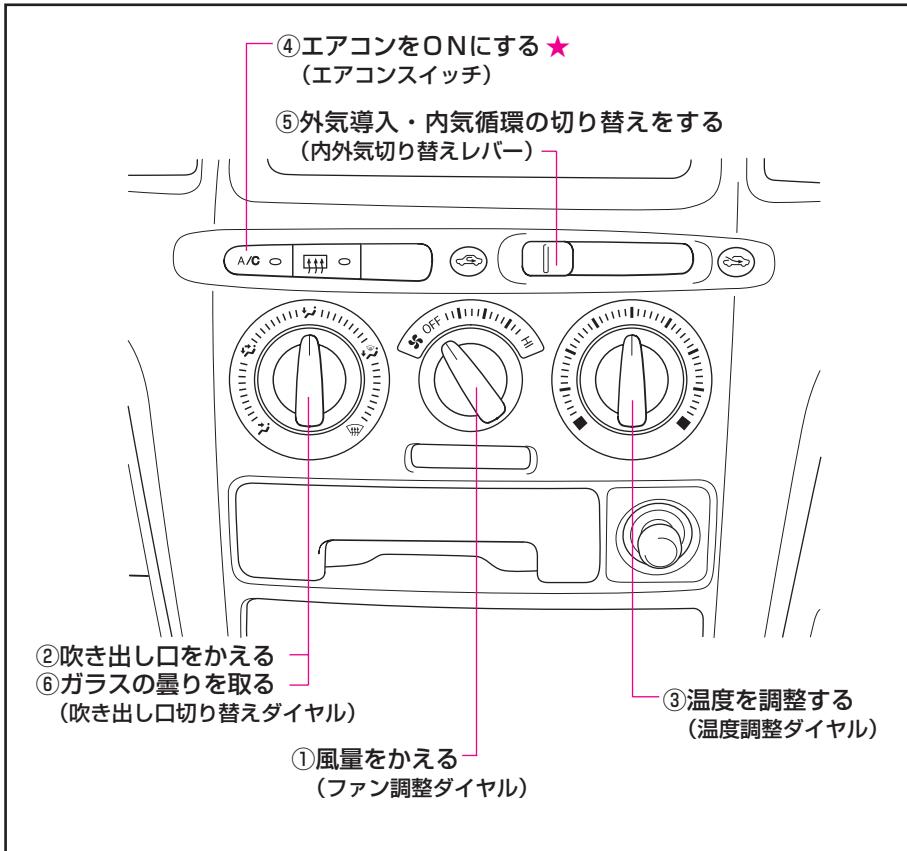
エアコン・ヒーターの取り扱い	218
エアコン・ヒーターの使い方	218
吹き出し口の調整	224
ラジオの取り扱い	226
電源、音量・音質の調整	227
ラジオの使い方	229
アンテナ	231
使用上の留意点	232
室内装備品の使い方	233
サンバイザー	233
室内灯（フロント・リヤ）	233
時計	234
灰皿	235
シガレットライター	235
インパネテーブル	236
センターボックス	236
1DINポケット	237
デッキサイドポケット	237
フロアコンソール	238
収納スペース	239
アクセサリーソケット（AC100V）	241
フロアマット	244

室内装備の
取り扱い

エアコン・ヒーターの取り扱い

エアコン・ヒーターの使い方

お好みの状態にするには



①風量をかえる



ダイヤルをOFFから右へまわすと空調の電源が入ります。

4段階で風量が調整できます。

風量を

- 強くするときは右側
 - 弱くするときは左側
- にダイヤルをまわします。
- OFFにすると電源が切れファンが止まり、空調は停止します。

②吹き出し口をかえる

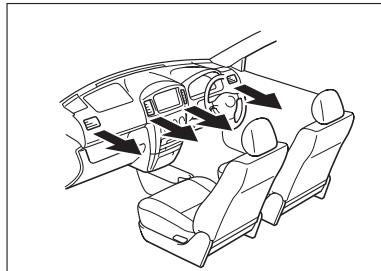
使用目的に合った吹き出し口を選択できます。



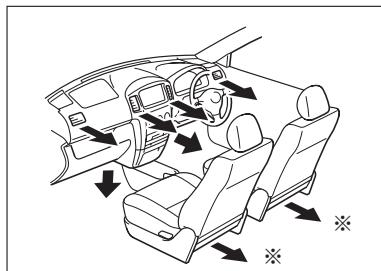
ダイヤルをまわして、吹き出し口の位置をかえることができます。

〈吹き出し口選択の目安〉

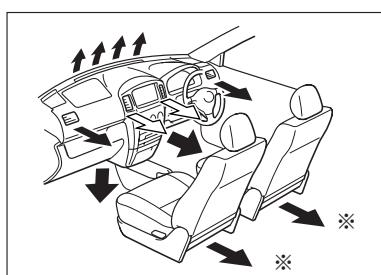
上半身に送風するときは



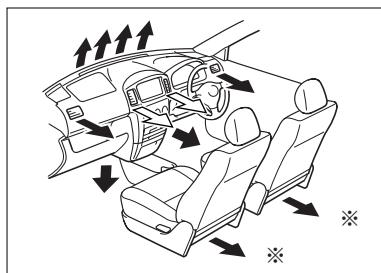
上半身と足元に送風するときは



足元に送風するときは



足元への送風と
窓ガラスの曇り
を取るときは



※寒冷地仕様車のみ送風されます。

⇒最大冷房時のみ送風されます。

③温度を調整する
室内の温度調整ができます。



温度を

- 上げるときは右側
 - 下げるときは左側
- にダイヤルをまわします。

④エアコンをONにする
冷房、除湿機能をONにするこ
とができます。

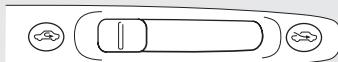


エアコン装着車

スイッチを押すごとに、エアコン
(冷房、除湿機能) がONとOFF
に切り替わります。

- 作動中はスイッチの作動表示灯
が点灯します。
- 外気温が0℃近くまで下がるとエ
アコンはONになりません。

⑤外気導入・内気循環の 切り替えをする



内外気切り替えレバーを
 ●左側にすると内気循環
 ●右側にすると外気導入
 になります。

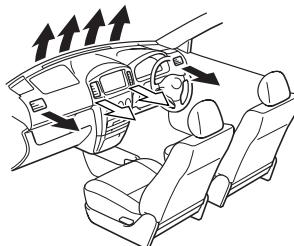
レバー位置	モード
	<p>外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。</p>
	<p>内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れていているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。</p>

⑥ガラスの曇りを取り 吹き出し口を窓ガラスに固定し ます。



ガラスの曇りを取るときは、ダイヤルを にし、内外気切り替えレバーを (外気導入側) にします。

＜吹き出し口＞



⇒ 最大冷房時のみ送風されます。

警告

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えダイヤルを  の位置にしないでください。
外気とウインドウガラスの温度差でウインドウガラス外側表面が曇り、視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。

知識

内外気切り替えについて

- トンネル内や渋滞などで汚れた外気を車内に入れたくないときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えレバーを  (内気循環側) にすると効果的です。
- 長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

より早くガラスの曇りを取るには

- ⑥ ガラスの曇りを取るの操作と併せて、次の操作を行います。
- エアコン装着車は、エアコンを作動させる。(エアコンスイッチを押す。)
- 風量を増す。(ファン調整ダイヤルを操作する。)
- 設定温度を上げる。(温度調整ダイヤルを操作する。)

内外気2層制御について

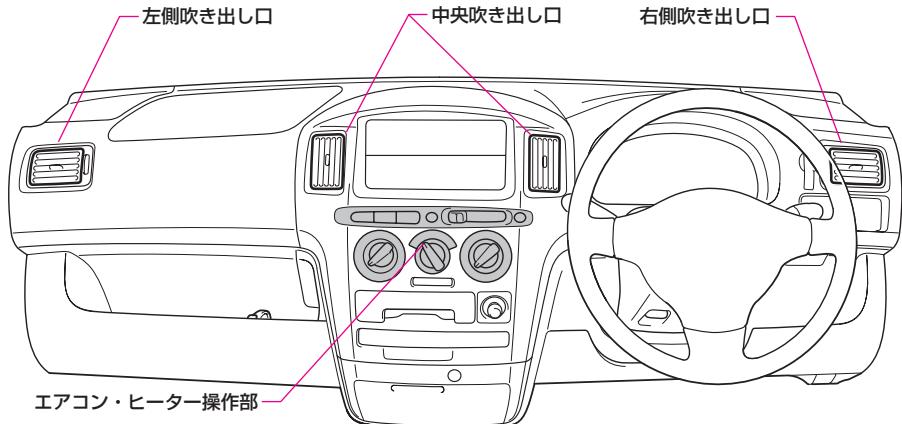
寒冷地仕様車

最大暖房および吹き出し口が  または  のとき、内外気切り替えレバーを  (外気導入側) にすると、室内上層が外気導入、室内下層が内気循環になり、内気循環時と同じくらいの暖房性能を維持しながら、ガラスの曇りを防止します。

エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

吹き出し口の調整

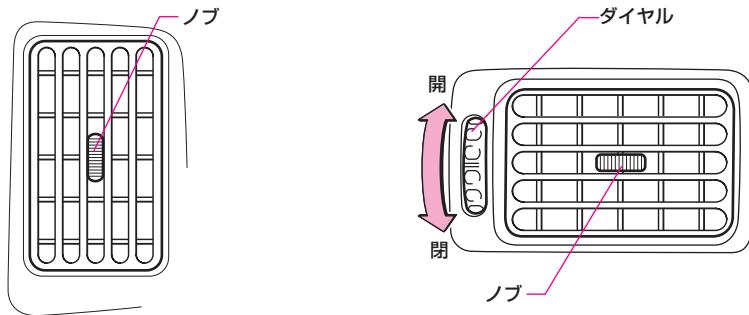


室内装備の取り扱い

● 風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた

中央吹き出し口

左右吹き出し口 下図は右側



- 吹き出し口のノブを動かすと、風向きの調整ができます。
- 左右吹き出し口は、ダイヤルをまわして吹き出し口を開閉することができます。



知識

吹き出し口について

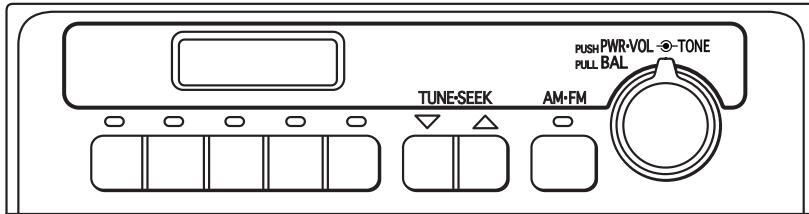
冷房時まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがあります、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり、異常ではありません。

MEMO

室内装備の
取り扱い

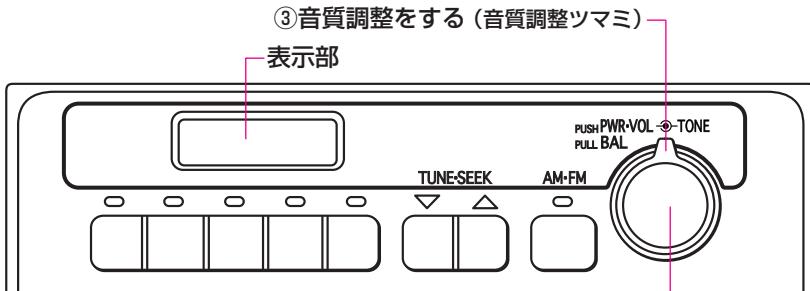
ラジオの取り扱い

メーカーオプションのDVDナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「DVDナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。



AM／FMラジオ★

電源、音量・音質の調整

室内装備の
取り扱い

● 基本操作

①電源を入れる・切る



パワースイッチを押すごとに、電源が入と切に切り替わります。

②音量調整をする



音量調整ツマミを右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。



知識

作動条件について

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”的とき使用できます。

応用操作

③音質調整をする



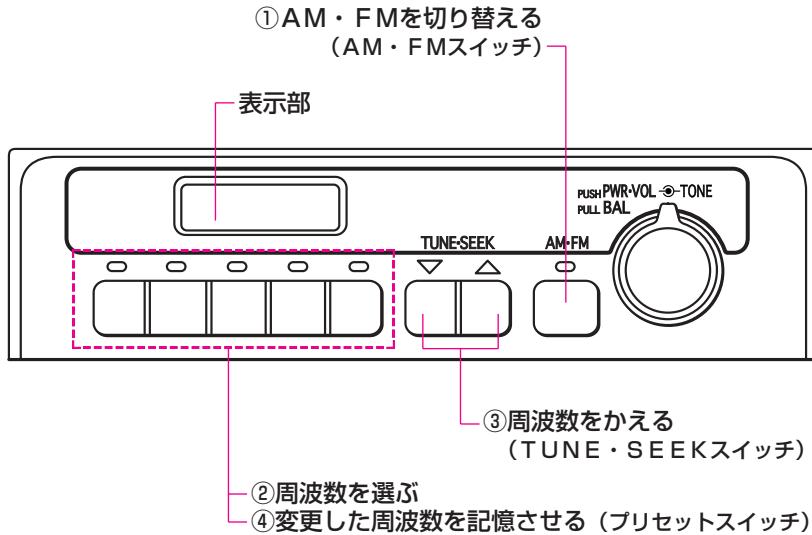
ツマミを右へまわすと高音が強調され、左へまわすと低音が強調されます。

④左右の音量バランス調整をする



ツマミを引いたまま右へまわすと、右側音量が大きくなり、左へまわすと、左側音量が大きくなります。

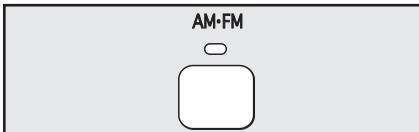
ラジオの使い方



室内装備の取り扱い

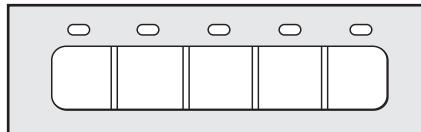
● 基本操作

①AM・FMを切り替える



スイッチを押すごとに、AM放送・FM放送に切り替わります。
●表示部にモードが表示されます。

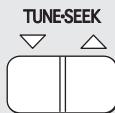
②周波数を選ぶ



5つあるプリセットスイッチの1つを押します。記憶されている放送局が選択されます。
放送局の記憶のさせ方については、P.230をお読みください。

応用操作

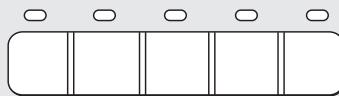
③周波数をかえる



周波数は TUNE · SEEK ボタンを押すと、切り替えることができます。

- 高い方へ選択するときはスイッチの△側、低い方へ選択するときはスイッチの▽側を押します。
- スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数が選択されます。
 - 受信感度が良く、現在表示部に表示されている周波数に一番近い周波数が自動で選択されます。
 - 途中で止めるときは、もう一度スイッチを押します。
 - 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

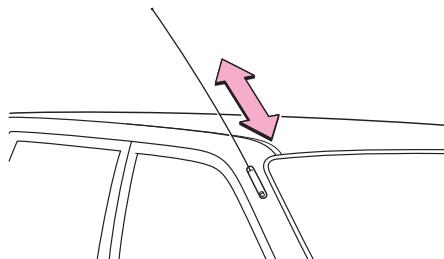
④変更した周波数を記憶させる



記憶させるプリセットスイッチの1つを“ピッ”と音がするまで押し続けると、聞いていた周波数を記憶させることができます。

- AM · FM各5局まで周波数を記憶させることができます。
1つのスイッチに AM · FM各1局ずつ周波数を記憶させることができます。
- バッテリー交換やヒューズ交換などでラジオとバッテリーとの接続が断たれたときには、記憶されていた周波数はすべて消去されます。

アンテナ



ラジオを使用するときは、いっぱいに引き出します。

**アンテナの取り扱いにはご注意ください。**

次のようなときには、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを格納してください。

- 自動洗車機にかけるとき。
- 車庫の天井などにアンテナが当たるとき。
- カーカバーをかけるとき。

使用上の留意点

安全運転をさまたげないように適度な音量でお聞きください。

ラジオを聞いているときに車内、または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、ラジオのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがありますが、故障ではありません。



注意

走行中のラジオ操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行ってください。

● ラジオについて

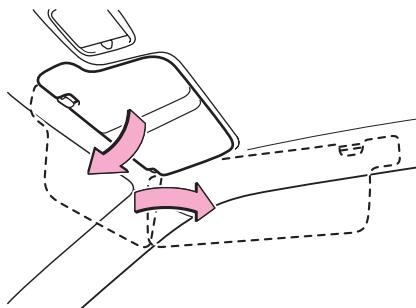
ラジオの受信は、アンテナの位置が刻々とかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合もあります。

室内装備品の使い方

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。

側面にまわして使用することもできます。

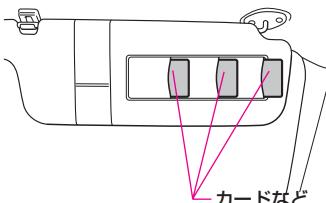


知識

便利機能について

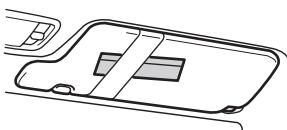
カードホルダー（運転席）

カードなどを収納することができます。サンバイザーの裏側にあります。

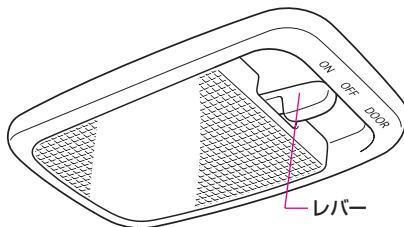


チケットホルダー（運転席）

チケットなどを収納することができます。



室内灯 (フロント・リヤ)



- レバーがONのときは常に点灯します。
- レバーがOFFのときは常に消灯します。
- レバーがDOORのとき、いずれかのドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。

室内装備の
取り扱い

注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

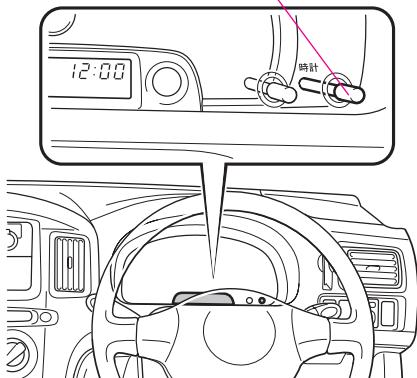
知識

作動条件について

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

時計

調整ボタン



● “時” “分” を調整するときは

1 調整ボタンを押し続けます。
約2秒間押し続けると“分”調整モード（“分”表示が点滅）になります。

2 “分”を調整します。
調整ボタンを押すごとに“分”が進み、押し続けると早送りされます。

3 調整ボタンから手を離し、約5秒間待ちます。
“時”調整モード（“時”表示が点滅）に切り替わります。

4 “時”を調整します。

調整ボタンを押すごとに“時”が進み、押し続けると早送りされます。

5 調整ボタンから手を離し、約5秒間待ちます。
時計が作動を開始します。

時報に合わせるときは

時報と同時に調整ボタンを押すと、時報に合わせることができます。

● 0～29分は切り下げられます。
● 30～59分は切り上げられます。
(例) 1:00～1:29の場合は1:00に、1:30～1:59の場合は2:00になります。

知識

作動条件について

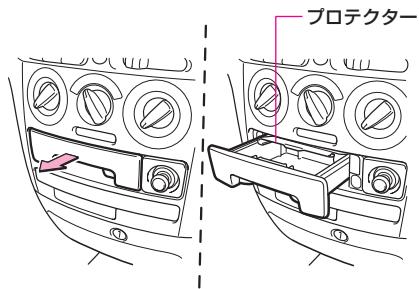
エンジンスイッチに関係なく時刻が表示されます。

● 調整ボタンはエンジンスイッチが“ON”的とき使用できます。

時計の表示について

秒表示はありませんが「時報に合わせるときは」の操作後、0秒から作動を開始します。

灰皿



使用するときは、手前に引いて開けます。

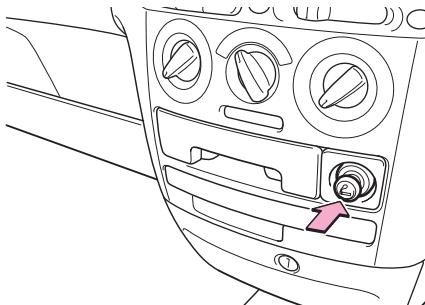
- 取りはずすときは、プロテクターを下へ押したまま取りはずします。

警告

出火を防ぐため、次のことをお守りください。

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター



使用するときは、シガレットライターを押し込んで手を離します。もとの位置にもどったら使用できます。

注意

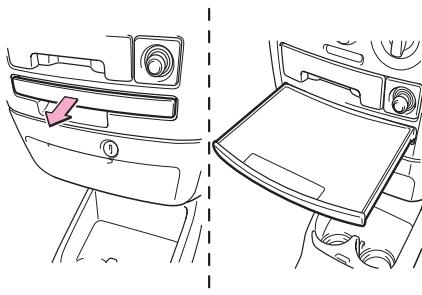
- シガレットライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- シガレットライターの故障や周辺部の焼損を防ぐため、次のことをお守りください。
 - シガレットライターを押されたままにしないでください。
 - 他車のシガレットライターを差し込まないでください。
 - ソケットからトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。トヨタ純正品以外の電源を取り出した場合、シガレットライターを使用すると、赤熱したシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

知識

作動条件について

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”的とき使用できます。

インパネテーブル



使用するときは、手前に引き出します。

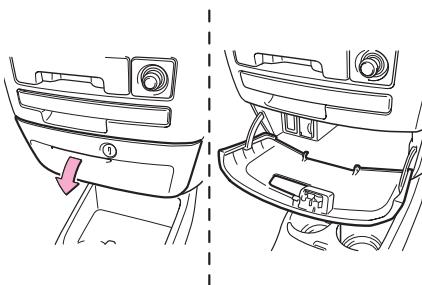
!**警告**

走行中は絶対に使用しないでください。シフトレバー操作のさまたげになったり、テーブル上のものが落下するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

!**注意**

インパネテーブルの使用最大重量は10kgです。それ以上重いものはのせないでください。テーブルが破損するおそれがあります。

センターBOX



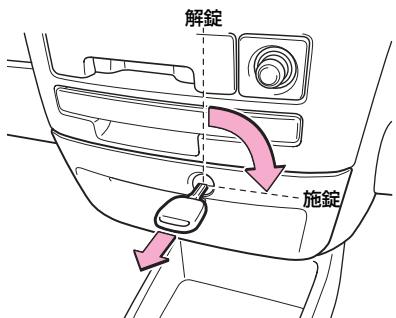
フタを手前に引いて開けます。

●使用しないときは、閉めておいてください。

!**知識**

施錠について

キーを差し込み、右にまわしたまま抜きます。

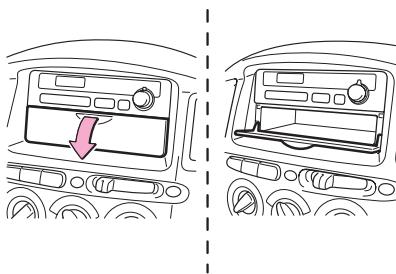


!**知識**

インパネテーブルについて

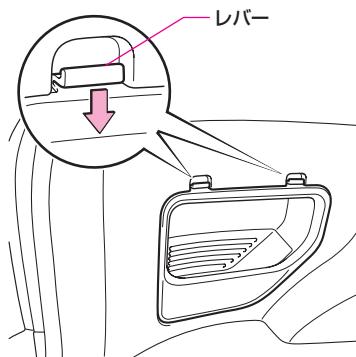
弁当の置き場所としてや、車内での伝票書き、小型パソコンを使用するときなどに利用できます。

1DINポケット



- ツマミを手前に引いて開けます。
 ●使用しないときは、閉めておいてください。

デッキサイドポケット



- ラゲージルーム左側にあります。
 ●取りはずすときは、レバーを押し込みながらはずします。
 ●取りつけるときは、そのままはめ込みます。

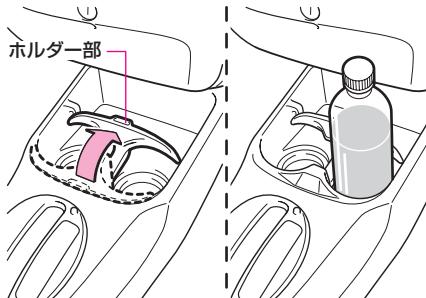
室内装備品
取り扱い

! 注意

- デッキサイドポケット裏側のスペースには、換気用の弁が取り付けられています。次の理由から荷物などを収納しないでください。
 - 荷物が弁をふさぎ、換気性能が悪化し、ドアの閉まりが悪くなるおそれがあります。
 - 荷物で弁が押し開かれたままの状態になり、車内に排気ガスや水が進入するおそれがあります。
- デッキサイドポケットを取りはずして使用したあとは、必ず取りつけておいてください。

フロアコンソール

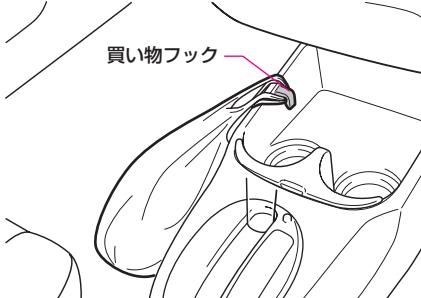
● カップホルダー



使用するときは、ホルダー部を前方に開きます。

● 使用しないときはホルダー部を閉めて、小物入れとしても利用できます。

● 買い物フック



上図のように使用します。

⚠ 注意

とくに重たい物や、大きな物をフックを吊り下げないでください。フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

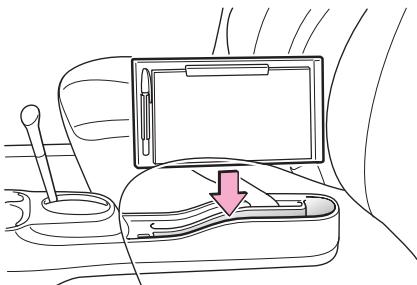
最大荷重 約1kg

⚠ 警告

● カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。

● 急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに身体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

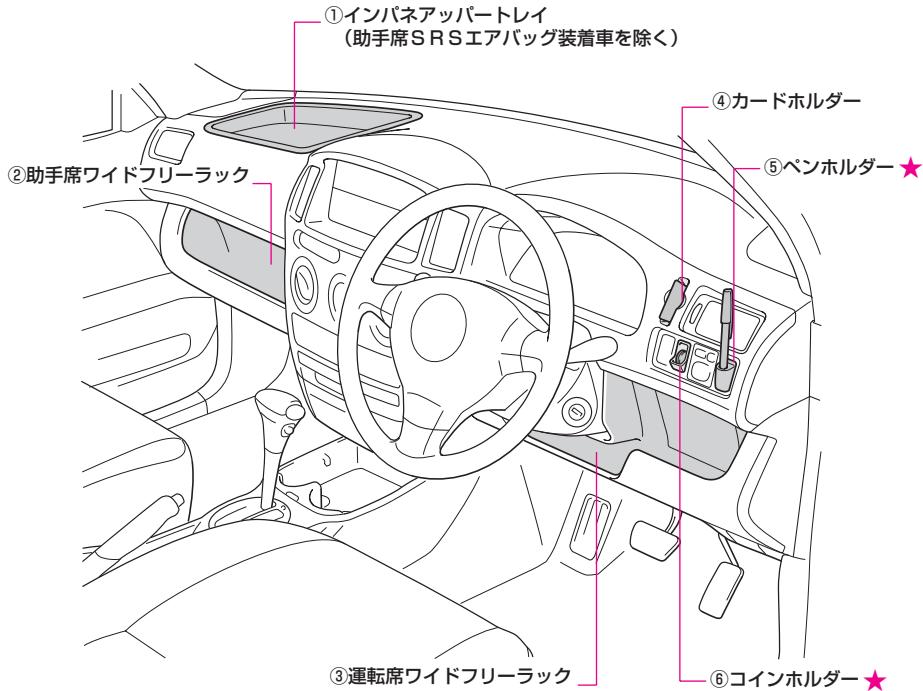
● A4バインダー立て



A4サイズのバインダーや書類などを収納できます。

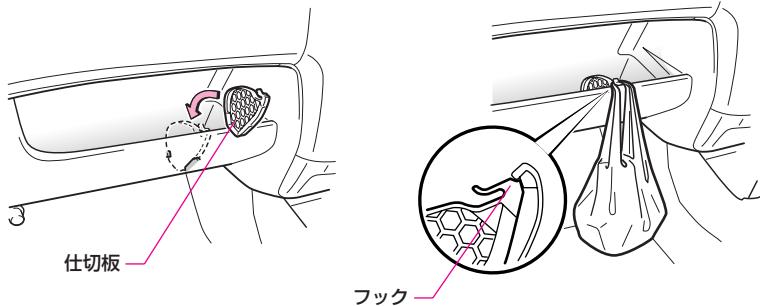
収納スペース

①から⑥のスペースに、小物などを収納できます。



室内装備の
取り扱い

■助手席ワイドフリーラックについて



助手席ワイドフリーラックには、取りはずし可能なフック付き仕切板がついています。

上図のように使用してください。



注意 カードホルダーにカードを入れたままにしないでください。

- カードホルダーにカードを入れたままにしておくと、カードが変形したり、盗難にあうことがありますので、カードを車内に放置しないでください。
- 助手席ワイドフリーラックのフックには、とくに重たい物や、大きな物を吊り下げないでください。フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

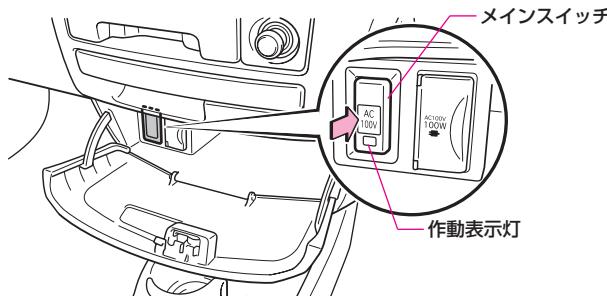
最大荷重 約1kg

アクセサリーソケット (AC100V) ☆

センターBOXの中にはあります。

● アクセサリーソケットの使い方

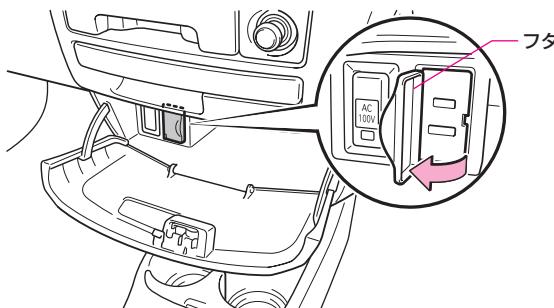
1 メインスイッチを押します。



- 作動表示灯が点灯し、アクセサリーソケットが使用可能な状態になります。
- スイッチを押すごとに電源がONとOFFに切り替わります。
- アクセサリーソケットを使用しないときは、メインスイッチをOFFにして、作動表示灯が消灯していることを確認してください。

室内装備品
取り扱い

2 アクセサリーソケットのフタを開けます。



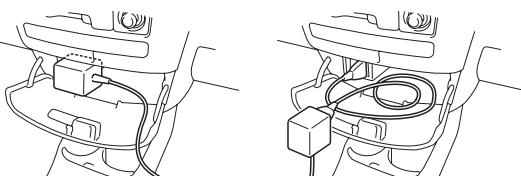
3 電気製品のプラグを差し込みます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。



アクセサリーソケットを使用しないときはフタを閉めておいてください。

- アクセサリーソケットを使用しないときは、ソケットから電気製品のプラグをはずし、フタを閉めておいてください。異物がコンセントに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- 使用する電気製品のプラグ形状よっては、充分にソケットに差し込めない場合があります。無理に差し込むとセンターBOXを損傷したり、プラグが脱落するおそれがあります。充分に差し込めない場合は、延長コードを使用してください。



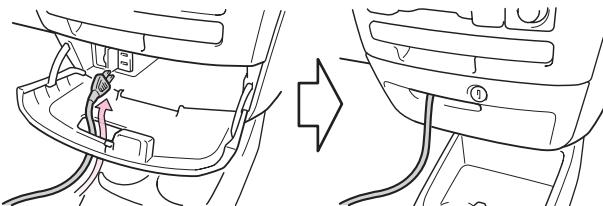
知識

作動条件について

エンジンスイッチが“ON”的とき使用できます。

アクセサリーソケットについて

- 車内で電気製品を使用することができます。
- センターBOXの取っ手部からコードを出すことで、フタを閉めたまま使用することができます。





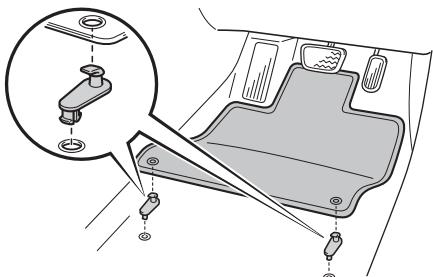
知識

アクセサリーソケットについて

- AC100Vで最大消費電力100W以下の電気製品を使用してください。
 - 規定容量をこえる電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れことがあります。
- 消費電力が100W以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。
 - 起動時の消費電力が大きい機器（ブラウン管式テレビ、コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電気工具など）。
 - 電源の周波数の切り替え（50／60Hz）のある機器（時計、オーディオなど）。
 - 精密なデータを計測する機器（医療機器、計測器など）。
 - その他（マイコン制御式電気毛布、タッチセンサー付ランプなど）。
- 使用する電気製品によってはラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーソケットの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧は測定できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。



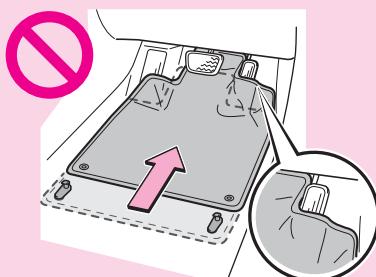
フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

室内装備の取り扱い



運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。
 - トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
 - 運転席専用のフロアマットを使用してください。
 - 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
 - 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
 - フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。
- 運転する前に、以下のことを確認してください。
 - フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
 - エンジン停止およびシフトレバーがP（オートマチック車）またはN（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。



5

安全・快適装備の 解説と注意

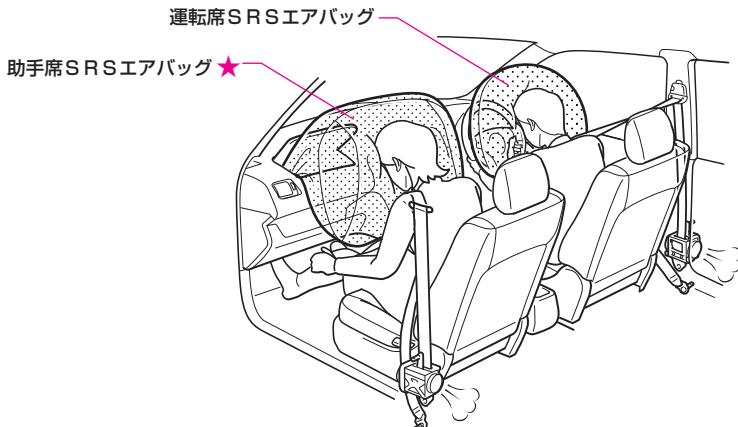
SRSエアバッグ	246
SRSエアバッグとは？	246
SRSエアバッグの作動のしくみ	247
SRSエアバッグが作動するとき	248
シートベルト関係	256
シートベルトの働き	256
EBD付ABS&ブレーキアシスト	258
ABS&ブレーキアシストとは？	258
ABS&ブレーキアシストが作動しているとき	259
EBDの働き	260
Vフレックスフルタイム4WD	262
Vフレックスフルタイム4WDとは？	262
Super ECT	264
Super ECTとは？	264
クラッチスタートシステム	266
クラッチスタートシステムとは？	266

SRS *エアバッグ

SRSエアバッグとは？

※ Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

運転席SRSエアバッグ・助手席SRSエアバッグは、運転者、または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散・緩和させる働きをするものです。



安全・快適装備
の解説と注意

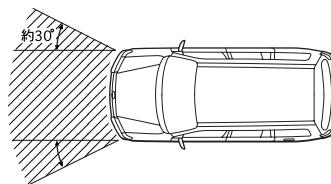
SRSエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、SRSエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。

また、正しく取り扱えば効果のあるSRSエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

SRSエアバッグの作動のしくみ

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

車両前方・車両中央床部に取りつけられたセンサーで衝撃を感じし、コンピューターで衝撃の強さを判断して、SRSエアバッグが作動します。

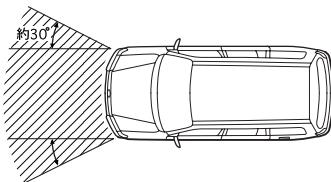


車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感じできなくなり、SRSエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

SRSエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

● 作動する場合



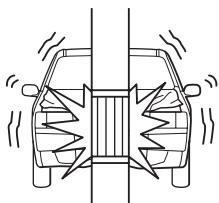
車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおそれのような強い衝撃を受けたときに作動します。

● 作動しにくい場合

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。



●衝突時に変形・移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下のときは作動しない場合があります。

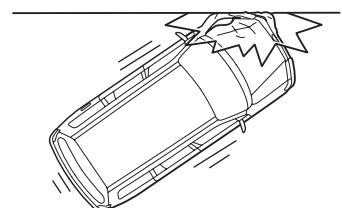


●衝突時に変形・移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合は作動しない場合があります。

次のような場合にも衝突による衝撃が緩められるため、作動しない場合があります。



- トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合。

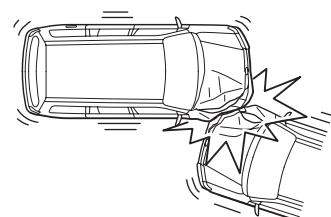


- 斜め前方から衝撃を受けた場合。

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、作動する車速は高くなります。



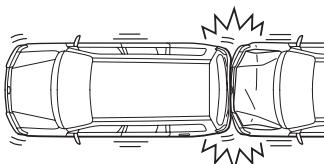
- 例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。



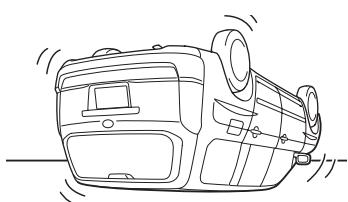
- 衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

● 本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。



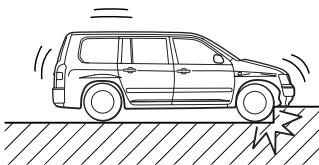
● 側面や後方から衝撃を受けた場合。



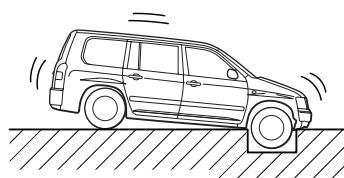
● 車両が横転・転覆した場合。

● 車両下部に衝突を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときには、作動する場合があります。

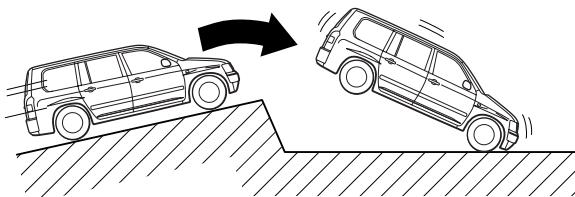


● 縁石などにぶつかった場合。



● 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合。

● ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合。





SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

乗車するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、SRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

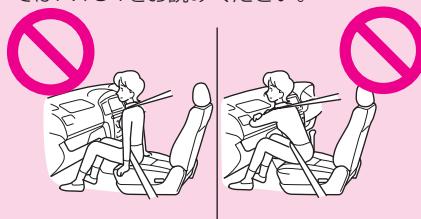
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にSRSエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.148をお読みください。
- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をついた正しい姿勢でシートに座ってください。SRSエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

＜運転者のかたは＞

運転操作ができる範囲でできるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

＜助手席乗員のかたは（助手席SRSエアバッグ装着車）＞

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。シートの調整、正しい運転姿勢についてはP.134をお読みください。



- ひざの上にものをかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、SRSエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。
- 助手席SRSエアバッグ装着車では、お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとSRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。

! 警告

SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- 助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。(P.47参照)
- やむを得ず前向きにして助手席に子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後調整位置を一番うしろにして取りつけてください。



- おさまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。



- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをしないでください。
- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、SRSエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部、または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うと、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなります。

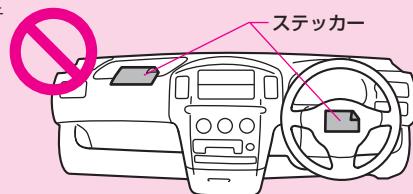




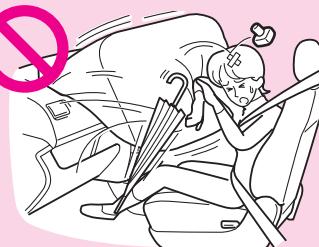
SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。



- 助手席SRSエアバッグ装着車では、インストルメントパネル上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。

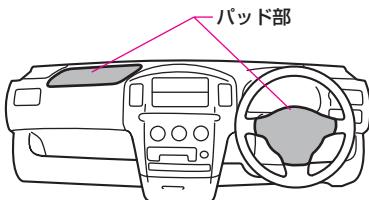
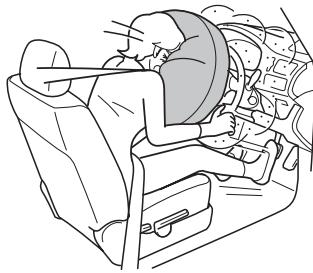


- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグの誤作動につながります。
- ステアリングパッド・インストルメントパネル上部などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

SRSエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

- SRSエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRSエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある人は、呼吸が苦しくなることがあります。この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出られない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかたは、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 助手席SRSエアバッグ装着車では、衝突したときなどに、助手席SRSエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドウガラスが破損することがあります。
- 一度作動したSRSエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でSRSエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではSRSエアバッグは作動しません。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。
- エンジン停止時およびSRSエアバッグ作動時はフューエルポンプ制御（ガソリン車）・電磁弁（CNG車）が作動し、燃料供給を停止します。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、エンジンスイッチを一度“LOCK”にもどします。



MEMO

安全・快適装備
の解説と注意

シートベルト関係

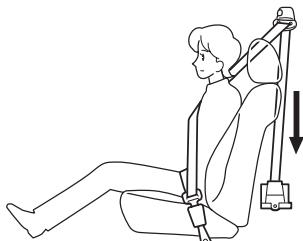
シートベルトの働き

● プリテンショナー&フォースリミッター付シートベルト★

フロントシートベルト

- プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
- フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構



【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構



【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

安全・快適装備
の解説と注意

● E L R 機構付シートベルト

3点式シートベルト

シートベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。



プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

- プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - シートベルトを正しく着用する。(P.148参照)
 - シートを正しい運転姿勢の取れる位置に調整する。(P.134参照)
- プリテンショナー付シートベルトの取りつけ・取りはずし・分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。



車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。
- 車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。



知識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには、作動しない場合があります。

- コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき。

なお、次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき。
- 車両が横転、転覆したとき。

作動後について

プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

EBD^{*1}付ABS^{*2}＆ブレーキアシスト★

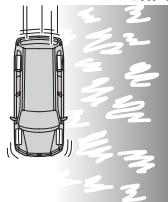
ABS＆ブレーキアシストとは？

※1 Electronic Brake force Distributionの略で「電子制動力分配制御」の意味。
※2 Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ABSは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことによりスリップを抑制します。

左右輪で路面状態が違う場合

乾いた路面



ABSあり

ぬれた路面

乾いた路面



ぬれた路面

ABSなし

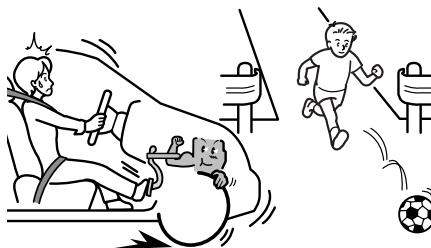
左右の車輪ですべりやすが違う路面での偏向やスピンドルを抑え、安定して止まることができます。

ブレーキアシストは、

- 緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
- 緊急制動時にパニック状態に陥ったとき

などのブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ドライバーのペダル踏力を増加させ、制動力の確保に貢献する装置です。しかし、ABSやブレーキアシストが作動した状態でもその効果には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけましょう。

安全・快適装備
の解説と注意



ドライバーの踏力での制動力
+
ブレーキアシストの制動力



ABSの効果



ブレーキ性能の
十分な発揮

また、ABS＆ブレーキアシストは、車輪に取りつけられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.71の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ABS&ブレーキアシストが作動しているとき

運転について

- 急ブレーキ時は、ABS&ブレーキアシストが効果を発揮するように、ブレーキペダルをできるだけ早く、強く踏み続けることが必要です。



- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。



思いきり踏む。



踏み続ける。



ゆるめたり、ポンピングはしない。

安全・快適装備
の解説と注意

作動について

ABSが作動すると、次のような現象が発生することがあります、異常ではありません。

- ABSの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。
- ABSの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがあります、異常ではありません。

- ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、ABSが作動することがあります。

EBDの働き

ABSの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、前後輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性の確保に貢献します。



EBD付ABS＆ブレーキアシストを過信しないでください。

● EBD付ABS＆ブレーキアシストを過信しないでください。

EBD付ABSやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。EBD付ABS＆ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。

- EBD付ABSはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロブレーニング現象^{*}が起こった場合は、効果を発揮できません。

※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

● EBD付ABSは制動距離を短くするための装置ではありません。

次の場合は、EBD付ABSのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。

- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だらみなどの悪路を走行しているとき。

● ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。

車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。



知識

作動条件について

- E B D付A B S & ブレーキアシストは、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を止めます。
- 雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、E B D付A B S が作動しやすくなります。

作動音について

- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、E B D付A B Sの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。
- ブレーキペダルを踏んだとき小さな打音が聞こえることがあります。これは、ブレーキアシストの機構が作動しているときの音で異常ではありません。

Vフレックスフルタイム4WD*

Vフレックスフルタイム4WDとは？

* 4 Wheel Driveの略で「4輪駆動」の意味。

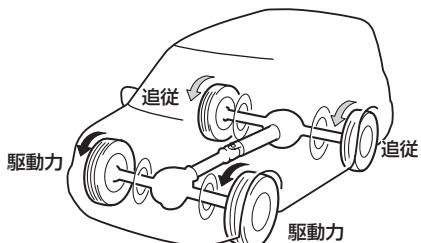
4WD車

通常はほぼFF走行をし、コーナリング時や雪道、登坂時、発進時、加速時など前輪と後輪の回転差が発生するとビスカスカップリングの作用により、自動的に後輪に駆動力が伝達され、四輪駆動として走行します。

Vフレックスフルタイム4WDは、さまざまな路面に対応した駆動力を自動的に全輪に与え、安定した操縦性・安定性に寄与する装置です。

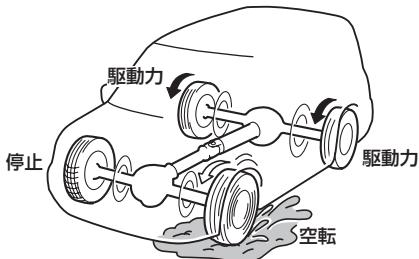
Vフレックスフルタイム4WDの取り扱い上の注意がP.66の「4WD車についての注意」に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転に心がけるようにしましょう。

通常時（FF走行）



通常の直線走行など、前・後輪に回転差が微小な場合は、2WD（FF）に近い状態で走行します。

コーナリング時や雪道（4WD走行）



コーナリング時や雪道など前・後輪間に回転差が発生すると、ビスカスカップリングが作動し、後輪に駆動力が伝達され、4WD状態になります。

通常走行にもどると、2WDになります。

タイヤについて

Vフレックスフルタイム4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.71の「タイヤについての注意」をよくお読みください。



警告

宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

- 脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混せて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - 4輪の空気圧の差が著しいとき
 - 空気圧が指定値からはずれているとき
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.289参照）
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.330参照）

Super ECT

Super ECTとは？

オートマチック車

フレックスロックアップシステムや登降坂変速制御システムなどにより、燃費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッションです。



フレックスロックアップシステムの働き

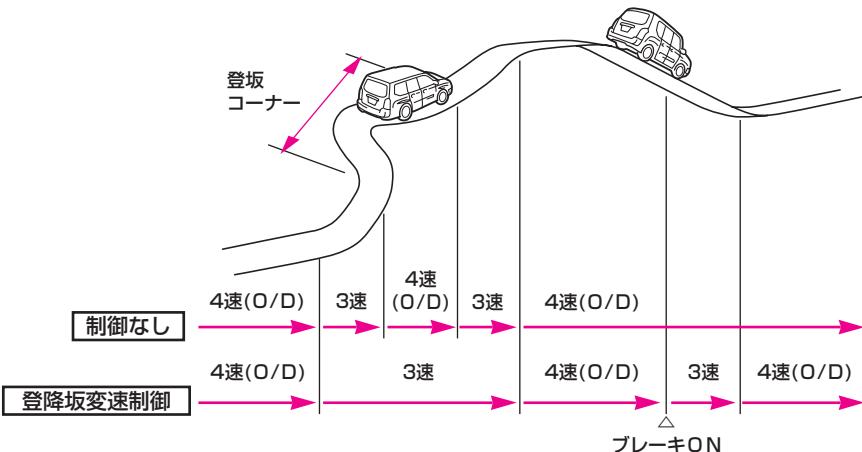
トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。

フレックスロックアップシステムを有効にご使用いただくためには、シフトレバーが④にあれば自動的に作動します。

● 登降坂変速制御システムの働き

アップダウンのあるワインディング路などをO/Dで走行しているときに、登坂していると判断された場合、4速へのシフトアップを制限し、3速によるスムーズな走行を実現します。

また、降坂時では4速で走行しているときに、降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的に3速にシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。



安全・快適装備
の解説と注意



注意

走行中、エンジン警告灯（P.196）が点灯したときは、オートマチックトランスマッision電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

クラッチスタートシステム

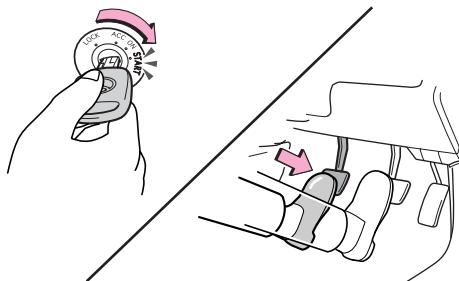
クラッチスタートシステムとは？

マニュアル車

クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、キーを“S T A R T”位置にまわしてもスターターモーターがまわらず、エンジンをからなくした装置です。

ギヤがはいっている場合に、クラッチを踏まずにスターターをまわしたときに車が動き出すのを防止するシステムです。

- エンジンを始動するときは、正しい運転姿勢をとり、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでから始動してください。正しい運転姿勢についてはP.134をお読みください。
- クラッチスタートシステム装着車では、エンストにより車が止まつた場合、スターターによる車の移動はできませんので緊急時などはP.343の「動けなくなったときは」にしたがって行動してください。



6

車との上手な 付き合い方

雨の日の運転について	268
雨の日の運転	268
寒冷時の取り扱い	269
冬の前の準備・点検	269
運転する前に	271
走行するときは	273
駐車するときは	276
経済的な運転	278
環境にやさしく経済的な運転をするために	278
環境保護のために	280
使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする	280

車との上手な
付き合い方

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください。

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので、慎重に走行してください。

- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日はハイドロプレーニング現象*でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

* 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。



警告

すべりやすい路面では、慎重に運転してください。

- すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていらない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください。

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。



警告

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。

- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- プロペラシャフト（4WD車）・各ペアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備・点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。(P.329の「推奨するエンジンオイル」参照)

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	-12°C
寒冷地	50%	-35°C



注意

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

車との上手な
付き合い方

バッテリーの液量・比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量・比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

● 冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

- タイヤを取り替えるときは、必ずP.71の「タイヤについての注意」をお読みください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
- トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

● 寒冷地用ワイパーべードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーべードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパーべードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
- 寒冷地用ワイパーべードを必要としない時季は、通常のワイパーべードを使用してください。

運転する前に

● 屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

● ガラスについた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷つけずに落とすことができます。



注意

フロントウィンドウガラスについた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

● 足まわりなどについた氷塊は

車体などに傷をつけないように取り除いてください。

● 外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドウ前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。

雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

車との
付き合い方
な上手い

● ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー・ドアミラー・ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。

スイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。

● ドアが凍結したときは



お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。無理に開けようすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

● 靴についた雪をよく落とす



ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面は慎重に走行してください

急発進・急ハンドル・急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。

橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。



警告

シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側についた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置についた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

車との上手な
付き合い方

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン、または冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ずP.71の「タイヤについての注意」をお読みください。



警告

冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

● タイヤチェーン

- タイヤチェーンは前2輪に取りつけてください。
- タイヤチェーンの取り扱い方法はタイヤチェーンに付属の取扱書にしたがってください。
- タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
- トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

■ タイヤチェーンを取りつける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりとかけます。以下の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

1

エンジンを停止します。

マニュアル車は、エンジンを停止し、シフトレバーをRに入れます。オートマチック車はPにし、エンジンを停止します。

2

車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3

工具を用意します。

ジャッキ・ジャッキハンドル・フルキャップ装着車はホイールナットレンチを用意します。（P.334の「ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所」参照）

4

タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取りつける場合には、輪止めが必要です。

- 輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

6 フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずします。

P.345の「タイヤ交換のしかた」参照。



警告

タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

- タイヤチェーン装着時は約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため、必ず慎重に走行してください。
 - タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。
- また、ABS作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。



注意

タイヤチェーンを取りつけるときは、ホイールやホイールキャップに傷をつけないよう注意してください。

車との上手な
付き合い方

- フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取りつけてください。ホイールキャップをつけたままタイヤチェーンを取りつけると、ホイールキャップに傷がつくことがあります。
- アルミホイール装着車は、アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくことがあります。
- トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

駐車するときは

エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。



警告

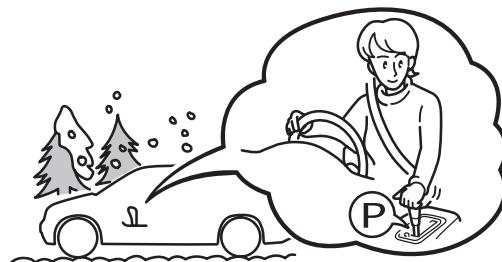
エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車はRに入れ、輪止めをします。



■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車は下り坂ではR、上り坂ではIに入れます。

●輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。



警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● ボンネット側を風下に向ける

風の当たる部分は、想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにもボンネット側ができるだけ風下に向けて駐車してください。

● ワイパーームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍りついたりします。ワイパーームは立てて駐車してください。

経済的な運転

環境にやさしく経済的な運転をするために

長時間停車するときは、エンジンを停止します。

5分間のアイドリングをやめて、ガソリン約65ccの節約。

▶ CO₂ 約420g削減（10回／月）

不要な荷物はおろして走行。

10kgの荷物をおろして50km走ると、ガソリン約15ccの節約。

▶ CO₂ 約130g削減（650km／月）

空ぶかしは禁物。

空ぶかしを1回やめて、ガソリン約6ccの節約。

▶ CO₂ 約1150g削減（300回／月）

エアコンは少し控えめに。

エアコンを6分間停止して、ガソリン約70ccの節約。

▶ CO₂ 約1340g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧は、こまめにチェック。

適正值で50km走ると50kPa {0.5kg/cm²} 減のときに比べて、ガソリン約150ccの節約。

▶ CO₂ 約1250g削減（650km／月）

発進・加速はスムーズに。

急発進を1回やめてガソリン約17cc、急加速を1回やめて約11ccの節約。

▶ CO₂ 約360g削減（各20回／月）

経済速度でロスなし走行。

一般道路で40～50km/h、高速道路では80km/hがベスト。

100km/hを80km/hにして、燃費が約10～30%向上。

- 法定速度を守り、安全運転を心がけてください。

たとえば加速

加速終了時にはアクセルを少し大きめにもどしてみましょう。

シフトアップやロックアップが確実にでき、効率が良くなります。

たとえば下り坂、減速

早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。

ガソリンエンジンでは、燃料噴射の停止により、燃費が良くなります。

平地走行でも

アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。

思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど、低燃費となります。

環境保護のために

使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする

- バッテリーは、鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務づけられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。
- タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルは、放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。
- 不凍液は、冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと、水質汚濁の原因となりますので、不凍液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスCFC12）は、大気に放出されると、オゾン層の破壊を進めます。
トヨタでは、オゾン層を破壊しない代替フロンガス（HFC134a）に全車切り替えを完了しています（93年完了）。
それでも、代替フロンガス（HFC134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充てんのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえで、ガス充てんをしてください。

MEMO

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

?

車の手入れ	284
日頃の手入れ	284
外装の手入れ	285
内装の手入れ	287
エアコンの手入れ	288
タイヤローテーション	289
ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換	290
ヒューズの点検・交換	292
外装の電球（バルブ）交換	298
日常点検	308
日常点検について	308
エンジンルームの点検	309
車のまわりの点検	317
CNG車の点検	320
運転席に座っての点検	321
走行しての点検	323
メンテナンスデータ	324
メンテナンスデータ	324

メンテナンス

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

● 洗車・ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

● 月に1度はワックス掛けを行ってください

月に1度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

● 保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。



注意

塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

- 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
 - 海岸地帯を走行したあと
 - 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死骸などが付着したとき
 - ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、科学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ほこり、泥などで激しくよがれたとき
 - 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためにヨゴれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは、水を拭き取ります。

- 車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
- 汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
- はん点が残らないように、水を拭き取ります。

自動洗車機を使うときは

- ミラー、アンテナは格納し、前側から洗車してください。
- ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることができます。

高圧洗車機を使うときは

- ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。
- 光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かかるないようにしてください。

ワックス掛けをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）に行います。



警告

エンジンルーム内に水をかけないでください。

- エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
- 洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。



注意

洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

- 下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
- 洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。
- ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどでこすったりしないでください。破損したり、劣化を早めることができます。
- 目地のある素地部※に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。

※ 塗装されていないバンパー・ドアハンドル・ドアミラーなどの樹脂部分

内装の手入れ

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などではこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。



警告

車内に水をかけないでください。

- 車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。ラジオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思ひぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。



注意

クリーナーに含まれる成分に注意してください。

- 内装の手入れをするときは、ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。
- 芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接触れさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
- リヤウインドウの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- リヤウインドウの内側を掃除するときは、熱線を引っかいしたり、損傷させないように気をつけてください。
- ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は、水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- 内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

エアコンの手入れ

● エアコンガス（冷媒）の点検

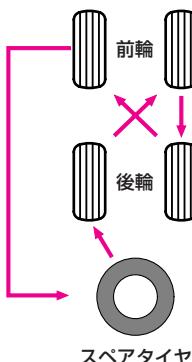
冷媒が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検・補充をしてください。

● エアコンガスの点検・補充は、トヨタ販売店で受けてください。

タイヤローテーション

タイヤの磨耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーションを行います。

- 搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。
- タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表（P.318参照）、またはメンテナンスデータ（P.330参照）でご確認ください。



タイヤローテーションをしたあとは、指定空気圧に調整してください。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。

とくに100kg以上積荷または4名乗車以上時のパンは、前後のタイヤで指定空気圧が異なるため、タイヤローテーションを行ったあとに必ず指定空気圧に調整してください。

指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

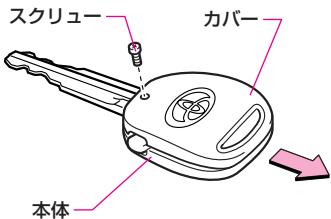
メンテナンス



日常点検として必ずタイヤを点検してください。

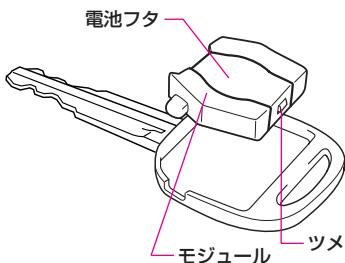
- 日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。（P.71「タイヤについての注意」参照）
- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。（P.83「その他の注意」参照）

ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換 ★

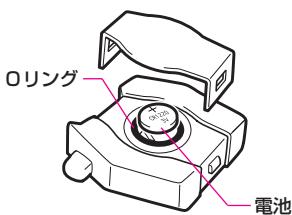


1 カバーをはずします。

市販の精密ドライバーで、スクリュー（1本）をはずし、カバーを矢印の方向に押しながら取りはずします。



2 モジュールを本体から取り出します。



3 電池フタをはずします。

2カ所のツメをはずして、電池フタを取りはずします。

4 電池を交換します。

古い電池を取り出し、新しい電池の \oplus 側を上にして挿入します。

5 電池フタをはめます。

モジュールのOリングがあるのを確認してから、電池フタをもとどおりにしっかりと取りつけます。

6 モジュールおよびカバーを取りつけます。

モジュールを本体の中にもどし、カバーを取りつけて、スクリュー（1本）でもとどおりにしっかりと締めつけます。

7 作動確認をします。

リモコンスイッチを押したとき、本体のLEDが点灯することを確認します。



警告

取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲みこまないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- 電池交換時にはスクリュー・Oリングなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
- 電池フタを曲げたりしないように注意してください。
- 電池以外の部分にふれたり、動かしたりしないでください。
- 電池の \oplus 極と \ominus 極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
- Oリングは傷つけたり、ねじって取りつけたりしないように注意してください。

メンテナンス

知識

電池について

使用電池……リチウム電池CR1220

電池はトヨタ販売店・時計店・カメラ店などでお求めください。

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が動かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。

次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。

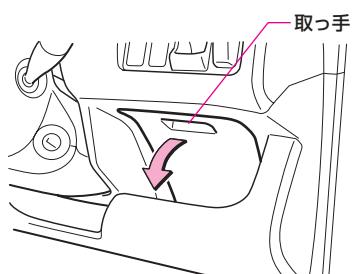
●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

● ヒューズの点検・交換のしかた

1 エンジンスイッチを“LOCK”にします。

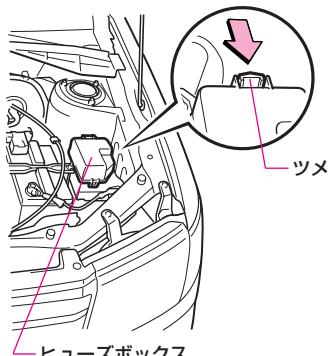
2 ヒューズボックスのカバーを開けます。

●ヒューズラベルがカバーに表示してあります。



■運転席側ヒューズボックス

取っ手を引いて、カバーを開けます。



■エンジンルーム内ヒューズボックス

カバー横のツメを押しながらカバーを持ち上げ、カバーをはずします。

3 ヒューズの点検をします。

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。

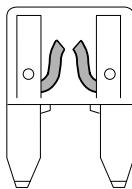
- ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

4 ヒューズを交換します。

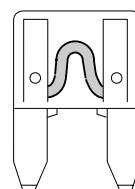
ヒューズが切れていたら、ヒューズラベルの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

- ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。
- 以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - 取り替えても再びヒューズが切れるとき。
 - 取り替えても電気系統の装置が働かないとき。

切れた状態



切れていない状態

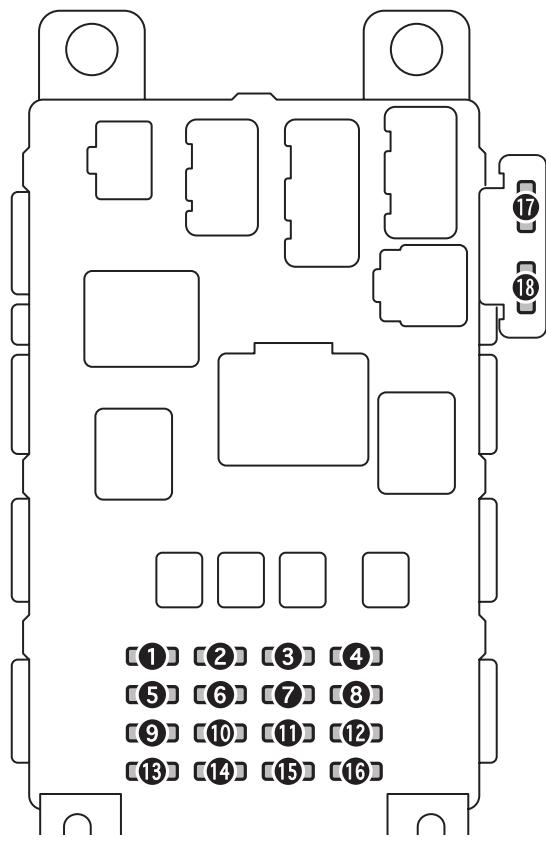


警告

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

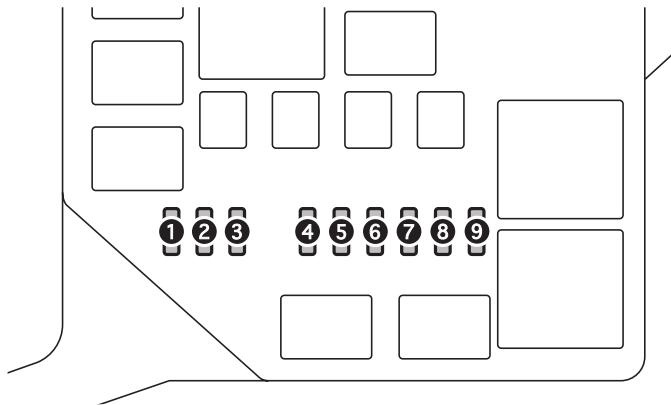
●ヒューズの受け持つ装置

■運転席側ヒューズボックス



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	GAUGE	10A	メーター
②	DEF	20A	リヤウインドウデフォッガー
③	D/L	25A	ドアロック
④	TAIL	7.5A	尾灯
⑤	—	—	—
⑥	WIPER	20A	ワイパー&ウォッシャー
⑦	ECU-B	7.5A	ABS
⑧	—	—	—
⑨	ACC	15A	電動ミラー、オーディオ
⑩	ECU-IG	7.5A	ABS、メーター
⑪	—	—	—
⑫	HAZ	10A	非常点滅灯
⑬	A. C	7.5A	エアコン
⑭	—	—	—
⑮	INV	15A	アクセサリーソケット
⑯	STOP	10A	制動灯
⑰	I/UP	7.5A	エンジンコンピューター
⑱	—	—	—

■エンジンルーム内ヒューズボックス



ガソリン車

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	BA (未使用)	—	—
②	H-L P RH	10A	ヘッドライト (右側)
③	H-L P LH	10A	ヘッドライト (左側)
④	—	—	—
⑤	ST	30A	スターター
⑥	AM2	15A	ABS
⑦	HORN	15A	ホーン
⑧	EFI	15A	エンジンコンピューター
⑨	DOME	15A	室内灯

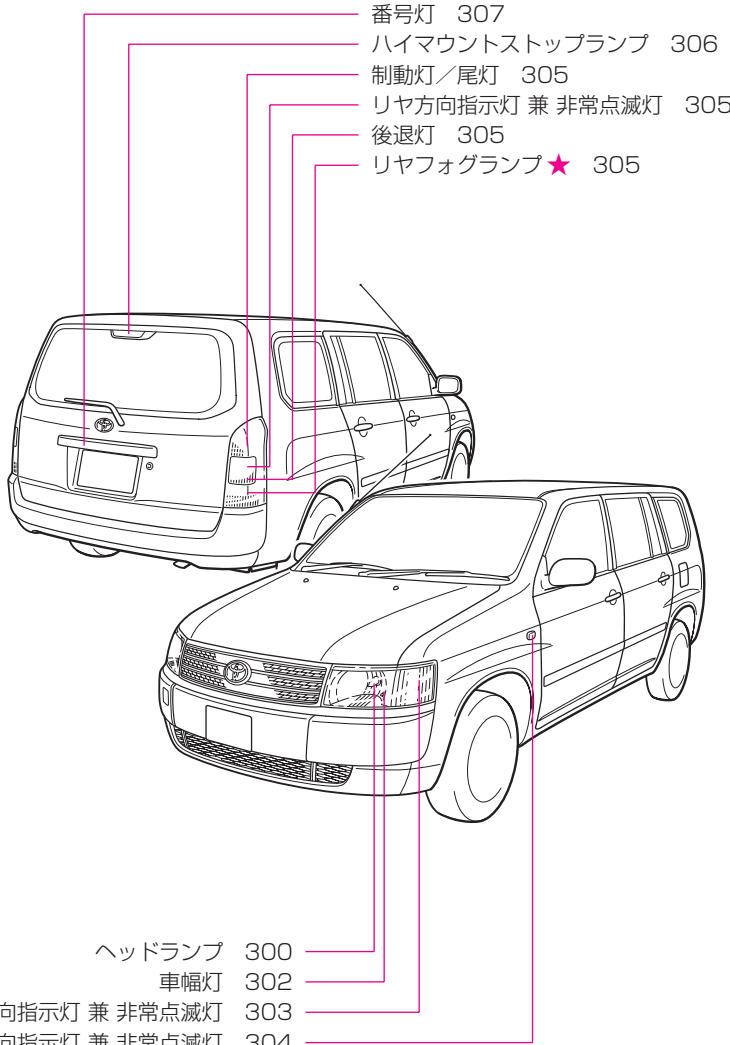
CNG車

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	B A (未使用)	—	—
②	H-L P R H	10A	ヘッドライト (右側)
③	H-L P L H	10A	ヘッドライト (左側)
④	I N J	15A	エンジンコンピューター
⑤	S T	30A	スターター
⑥	A M2	15A	A B S
⑦	H O R N	15A	ホーン
⑧	E F I	15A	エンジンコンピューター
⑨	D O M E	15A	室内灯

外装の電球（バルブ）交換

この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。

●電球の交換については、該当ページをお読みください。




警告

電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。


注意

電球は十分注意して取り扱ってください。

- ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。
- 必ず同じワット数の電球を使用してください。(P.325参照)
- 電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどをなくさないように注意して作業してください。

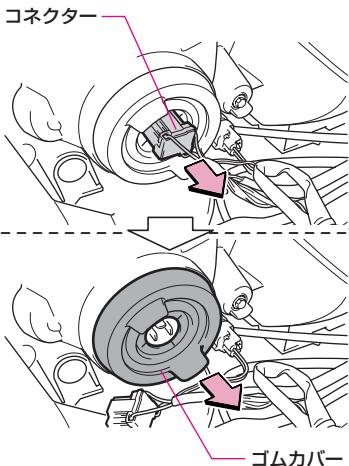

知識
ランプの曇りについて

ヘッドライトなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球の交換について

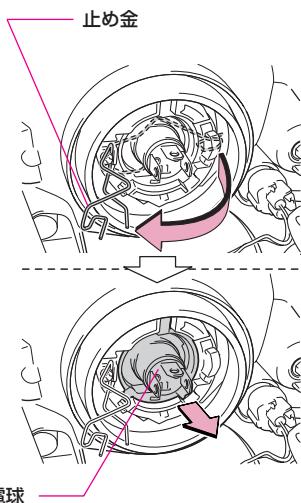
電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘッドライト



■取りはずしかた

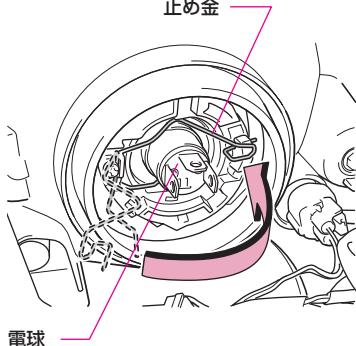
- 1 ボンネットを開け、コネクターとゴムカバーを取りはずします。



- 2 止め金をはずし、電球を取りはずします。

※ 図は運転席側で説明しています。

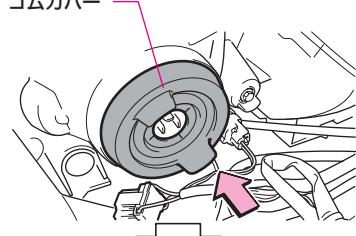
止め金



■取りつけかた

1 電球を取りつけ、止め金をかけます。

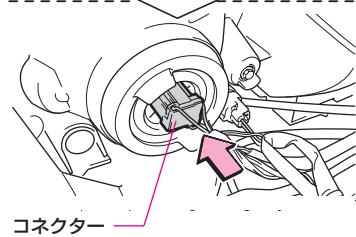
ゴムカバー



2 ゴムカバーをはめ込みます。

- ゴムカバー外周をしっかりとはめ込みます。
- ゴムカバー内周（電球周り）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込みます。

コネクター



3 コネクターを差し込みます。

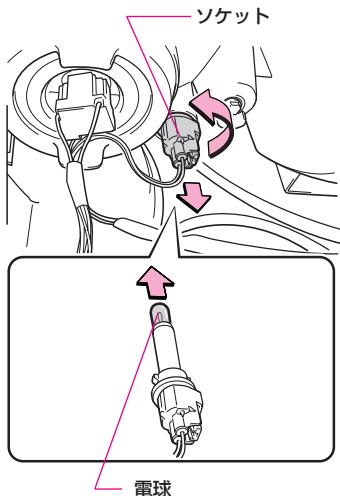


注意

ゴムカバーが確実にはめ込まれていることを確認してください。ゴムカバーがしっかりとはめ込まれていないとヘッドライトへの水入りの原因となります。

※ 図は運転席側で説明しています。

車幅灯



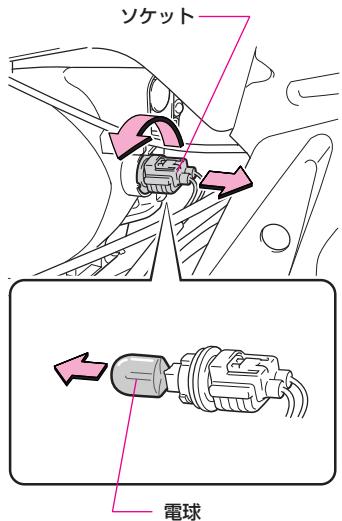
■取りはずしかた

ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

● フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯



■取りはずしかた

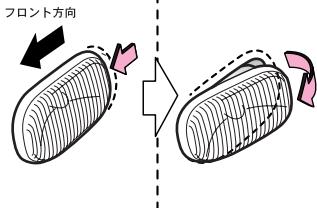
ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

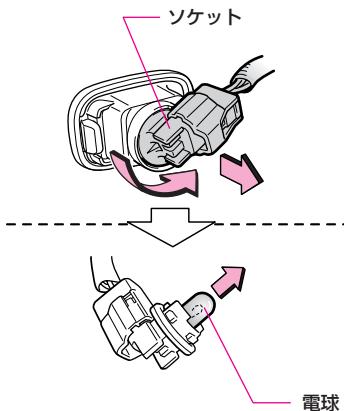
サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯



■取りはずしかた

1 ランプ本体を取りはずします。

ランプ本体を車両前方にスライドさせたまま、ランプ後部を手前に引いて取りはずします。



2 ソケットを矢印の方向にまわして電球を抜き取ります。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

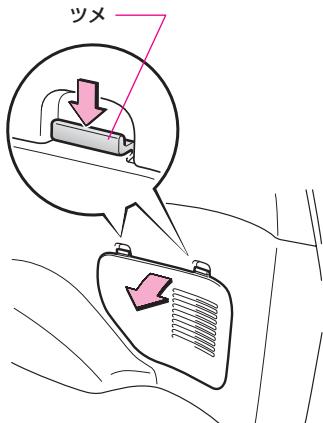
メンテナンス



本体からソケットをはずすと、ソケットが車両内部に落ちやすくなります。落ちないように注意して作業してください。

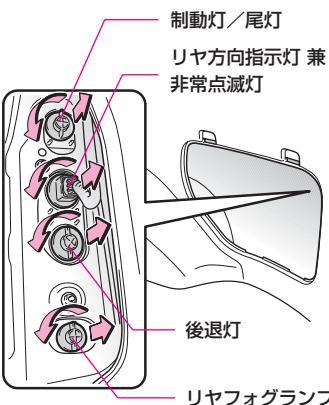
※ 図は助手席側で説明しています。

● リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯／尾灯、 後退灯、リヤフォグランプ★



■取りはずしかた

- 1 バックドアを開け、フタを取りはずします。
ツメを押しながらフタをとりはずします。



- 2 交換したい電球を取りはずします。
ソケットを矢印の方向にまわして電球を取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

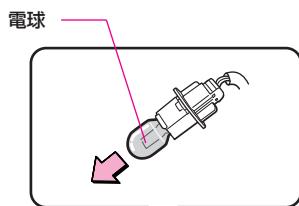
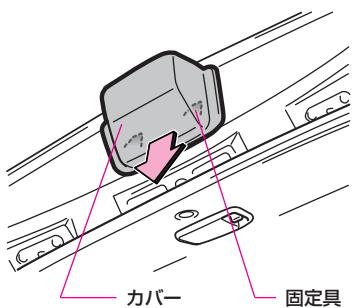
※ 図は運転席側で説明しています。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

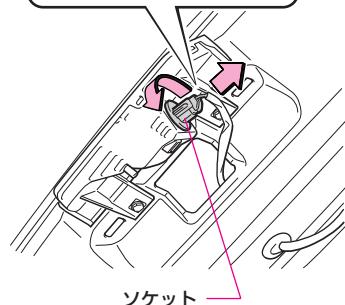
●ハイマウントストップランプ

■取りはずしかた

- 1 バックドアを開け、カバーをはずします。
カバー裏に固定具（2個）があります。



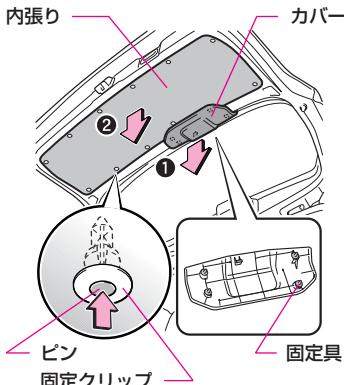
- 2 ソケットを矢印の方向にまわして電球を抜き取ります。



■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

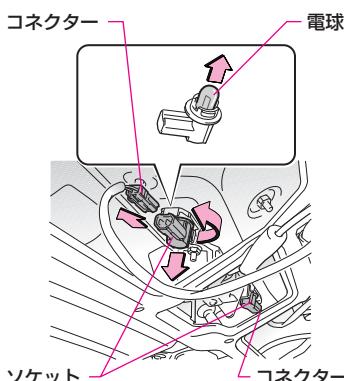
番号灯



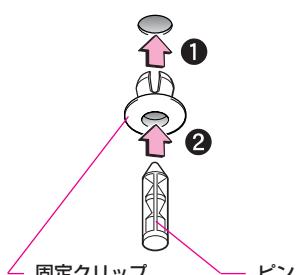
■取りはずしかた

1 バックドアを開け、カバーと内張りをはずします。

- カバー裏に固定具（4個）があります。
- ピンを押し込んで、固定クリップ（11個）をはずします。



2 ソケットを矢印の方向にまわして電球を抜き取ります。
先にコネクターをはずします。



■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

固定クリップを取りつけるには、固定クリップを差し込み、ピンをはめ込みます。



固定クリップのピンを必要以上に強く押し込まないでください。ピンが固定クリップからはずれ、抜けなくなるおそれがあります。

日常点検

日常点検について

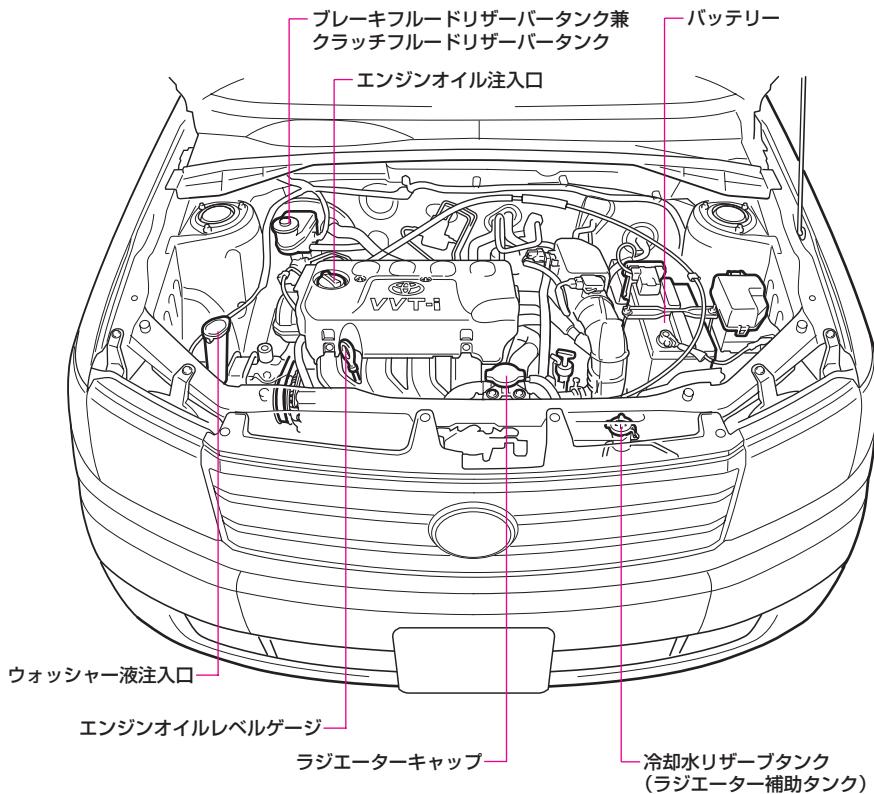
日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時・給油時などを目安に実施してください。

ここでは、点検内容を簡単に説明します。

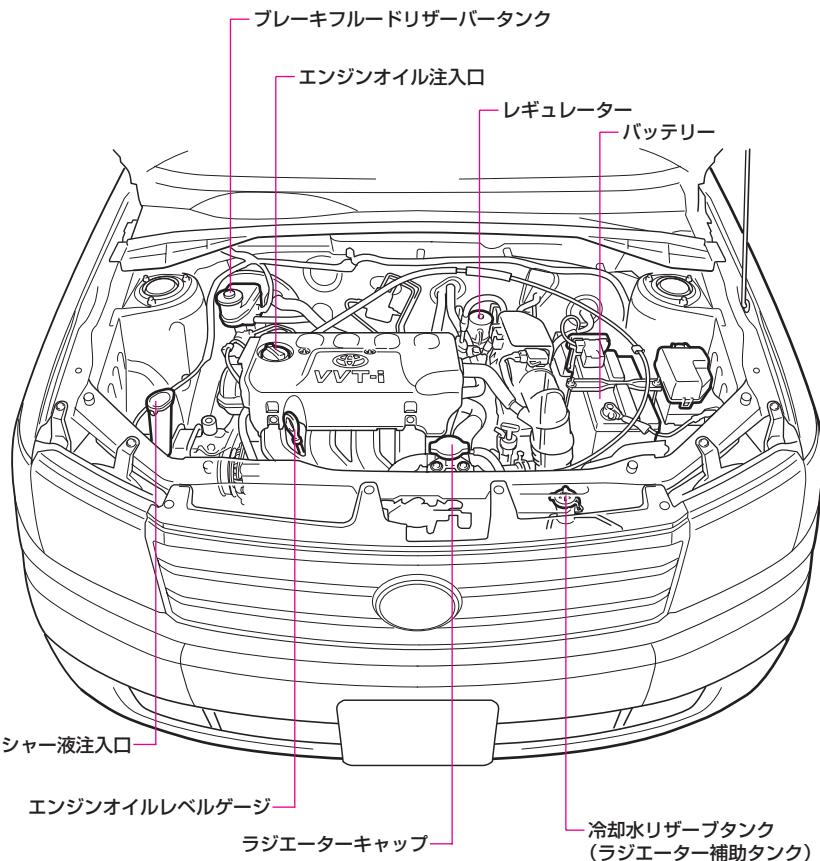
- 基準値については、P.324の「メンテナンスデータ」をお読みください。
- 点検方法および実施時の注意事項は、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

エンジンルームの点検

1NZ-FE・2NZ-FEエンジン搭載車（ガソリン車）



1NZ-FNEエンジン搭載車(CNG車)

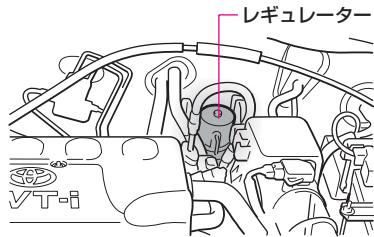


警告

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルームに置き忘れないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

注意

CNG車は、エンジン回転中、またはエンジン停止直後、レギュレーターに直接手などで触れないでください。レギュレーターが高温になっているため、やけどをするおそれがあります。



● ブレーキの液量

ブレーキフルードの量がリザーバータンクのMAXとMINの間にあるかを点検します。



ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



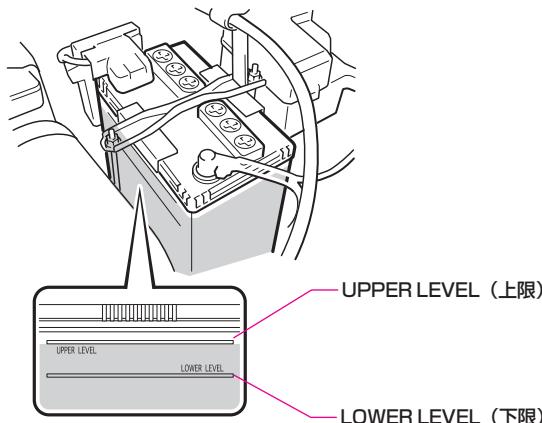
知識

ブレーキフルードリザーバータンクについて

マニュアル車では、ブレーキフルードリザーバータンクがクラッチフルードリザーバータンクと共に用になっています。

● バッテリーの液量

バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。

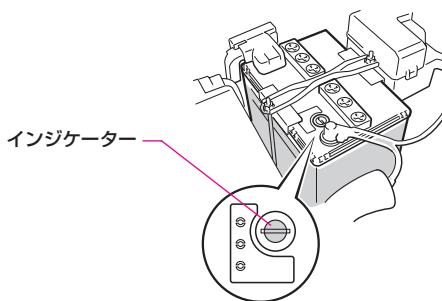


知識

インジケーター付バッテリーについて★

CNG車

インジケーター付バッテリーは、インジケーターに表示される色によって、バッテリーの状態を確認できます。くわしくはバッテリー上面についているラベルをご覧ください。



メンテナンス

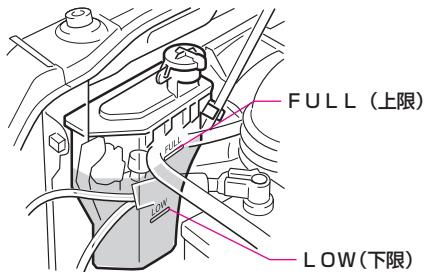


注意

バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

冷却水の量

冷却水の量がリザーブタンク（補助タンク）のFULLとLOWの間にありますかを点検します。

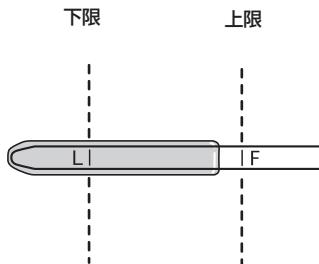


冷却水の交換はトヨタ販売店におまかせください。

- 冷却水の交換はトヨタ販売店におまかせください。
- エンジン回転中、またはエンジン停止直後には、ラジエーター・リザーブタンク（補助タンク）に直接手などで触れないでください。高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- 冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。また、水のみで使用していると、寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ずスーパーロングライフルクーラント（不凍液）を適切な濃度でご使用ください。

エンジンオイルの量

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。



エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかない重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

- エンジンを止めてください。
- エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンオイルの温度が低いときに点検・交換してください。
- エンジンが止まっていても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。



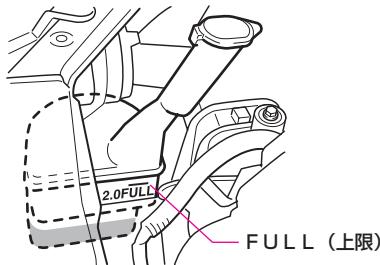
エンジンオイルは、定期的に点検・交換してください。

- 定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼きつきなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。
- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑・冷却などをする働きがあります。通常の運転をしても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。
- エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように、布などを当てて点検してください。万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

● ウィンドウウォッシャーの液量

ウォッシャータンク側面から、液面を確認します。

- 液面が見えなくなったら、ウォッシャー液を補給してください。



■ ウォッシャー液を補給するには



1 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

- FULLの位置をこえないように、補給してください。

警告

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

知識

リヤワイパーのウォッシャー液の補給について

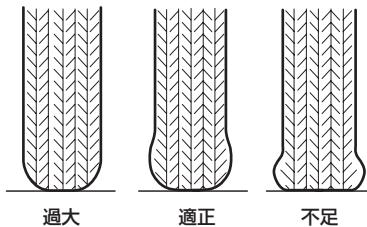
リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、P.71の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

● タイヤの空気圧

タイヤが冷えている（走行前）状態でタイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）を見て、空気圧が適正であるかを点検します。



- 月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。



警告

指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象^{*}によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

* 高速で走行している時に、タイヤが波うつ現象。

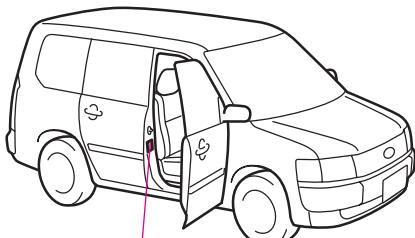


知識

指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（P.330）でご確認ください。

- スペアタイヤも点検してください。
- 指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になります。
- 指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。



「タイヤ空気圧」の表

● タイヤのき裂・損傷

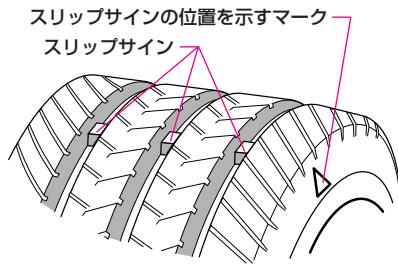
タイヤの側面や接地部全周に著しい傷やき裂がないかを点検します。また、釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。



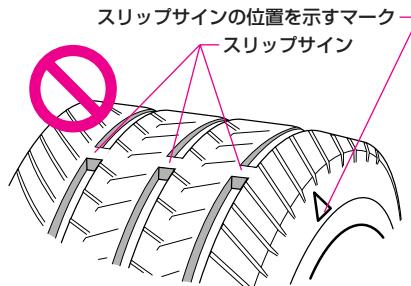
タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じことがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

● タイヤの溝の深さ、異常摩耗



〈例：スリップサインが出ていない状態〉*



〈例：スリップサインが出ている状態〉*

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現われていないかを点検します。また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

* 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。



摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さがないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロブレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。
* 水のたまつた道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

● 灯火装置・方向指示器の汚れ・損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損・ヒビ割れなどがないかを点検します。



ランプの曇りについて

ヘッドライト・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

CNG車の点検

● 吸排気弁のすき間の点検・整備について

吸排気弁のすき間の点検・整備をしてください。

点検・整備時期：12カ月ごと

吸排気弁のすき間点検・整備についてはトヨタ販売店にご相談ください。

● CNGガス容器の再点検について

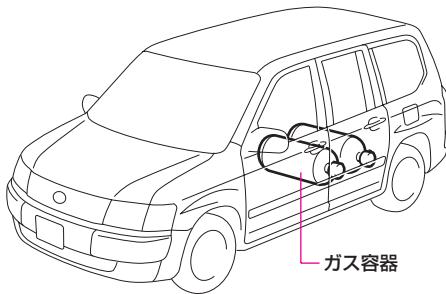
CNG車は定期的な燃料装置の点検の他に、下記に定められているガス容器再検査と交換が法律で義務づけられています。

●ガス容器再検査：2年ごと
(初回時のみ3年)

●交換：ガス容器製造日から15年ごと

ガス容器再検査に合格しないとガスを充てんすることができません。

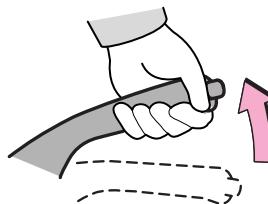
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



運転席に座っての点検

● パーキングブレーキの引きしろ

パーキングブレーキが止まるまでゆっくりと引き、“カチカチ”音が基準値の範囲で止まるかを点検します。

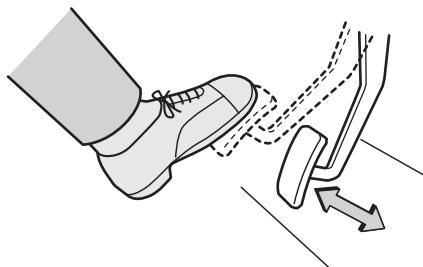


● エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合は良いかを点検します。また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

● ブレーキペダルの踏みしろ

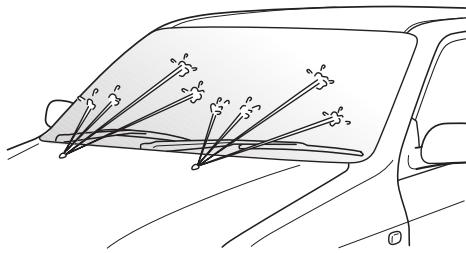
エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。



メンテナンス

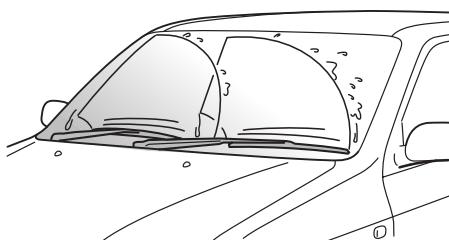
● ウィンドウウォッシャーの噴射状態

エンジンを始動し、ウィンドウウォッシャーを作動させ、噴射状態を点検します。



● ワイパーの払拭状態

ウィンドウウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。



● 灯火装置・方向指示器の作用

各灯火装置・方向指示器を作動させ、ランプが点灯・点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

● ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。



警告

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなつて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあつたり、止まつたりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

● 前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があつた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ

■点検基準値

項目	メンテナンスデータ	
ブレーキペダル	遊び [mm] (負圧なしの状態)	1~6
	踏み込んだときの 床板とのすき間 [mm] (踏力500N {50kg f}) (エンジンONの状態)	50以上
クラッチペダル	遊び [mm]	5~15
	クラッチが切れたときの 床板とのすき間 [mm] *	25以上
パーキングブレーキ	引きしろ [ノッチ] (操作力200N {20kg f})	6~9
Vリブドベルト	オルタネーターベルト	11~13
	P/Sベルト	

*クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

■バルブのワット数

項目		メンテナンスデータ
電球	W(ワット)数	
ヘッドライト (ロービーム)	55W	
ヘッドライト (ハイビーム)	60W	
車幅灯	5W	
フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯	21W	
サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯	5W	
番号灯	5W	
制動灯／尾灯	21／5W	
リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯	21W	
後退灯	16W	
リヤフォグランプ★	21W	
ハイマウントストップランプ	21W	
室内灯	8W	

■ウォッシャータンク容量

項目		メンテナンスデータ
ウォッシャータンク	容量 [L] (参考値)	
		2.0

■燃料の量と種類

項目		容量 (参考値)	指定銘柄
燃料	2NZ-FE	タンク容量 [L]	50
	1NZ-FE		無鉛 レギュラーガソリン
	1NZ-FNE	タンク容量 [L]	88
		ガス充てん量 [Nm³]	17.6
		最高充てん圧 [MPa]	20
			(ガス事業法適合 圧縮天然ガス)

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■冷却水、油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

項目			容量 [L] (参考値)	銘柄
冷却水	2NZ-FE	M/T	4.5	トヨタ純正 スーパー・ロングライフ クーラント ●凍結保証温度 濃度30% -12℃ 濃度50% -35℃
		A/T	4.4	
	1NZ-FE	M/T	4.4	
		A/T	4.3	
	1NZ-FNE		4.3	
	2NZ-FE		5.6	
オートマチック トランスアクスル フルード (含むディファレンシャル)	1NZ-FE	FF車	6.8	トヨタ純正 オートフルードタイプ T-IV
		4WD車	6.9	
	1NZ-FNE		6.8	
トランスファー オイル	1NZ-FE	4WD車	0.9	トヨタ純正 ギヤオイルスーパー (API GL-5, SAE 75W-90)

項目	容量 [L] (参考値)	銘柄
マニュアルトランクスアクスルオイル (含むディファレンシャル)	2NZ-FE	1.9
	1NZ-FE	1.9
リヤデファレンシャルオイル (4WD)	1.7	トヨタ純正ハイポイド ギヤオイルSX (API GL-5, SAE 85W-90)
パワーステアリングフルード	0.7	トヨタ純正パワー ステアリングフルード
クラッチフルード	—	トヨタ純正 ブレーキフルード 2500H
ブレーキフルード	—	

項 目	容量 [L] (参考値)		銘 柄
	オイルのみ 交換時 充てん量	オイルとオイ ルフィルター 交換時 充てん量	
エンジン オイル	2NZ-FE	3.4	トヨタ純正モーター油SM 0W-20※ (API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 0W-20) トヨタ純正モーター油SM 5W-30 (API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 5W-30) トヨタ純正モーター油SM 10W-30 (API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 10W-30)
	1NZ-FE		トヨタ純正モーター油SL 5W-20 (API SL,EC SAE 5W-20) トヨタ純正モーター油SL 10W-30 (API SL,EC SAE 10W-30)
	1NZ-FNE	3.4	トヨタ純正モーター油SM 0W-20※ (API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 0W-20) トヨタ純正モーター油SL 5W-20 (API SL,EC SAE 5W-20)

※0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■推奨するエンジンオイル

API規格SM/EC、SL/ECか、ILSAC規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサック サーティファイケーション）マークがついています。



APIマーク

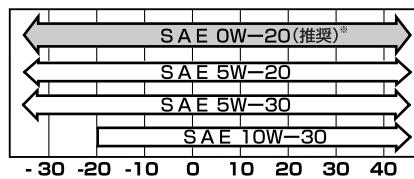


ILSAC CERTIFICATIONマーク

- 下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

ガソリン車

外気温 (°C)

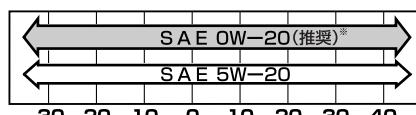


外気温 (°C)

※0W-20は、最も省燃費性に優れるオイルです。

CNG車

外気温 (°C)



外気温 (°C)

※0W-20は、最も省燃費性に優れるオイルです。

■タイヤ、ホイールデータ

タイヤサイズ	項目	ホイールサイズ			
		リムサイズ		P.C.D.	オフセット量
		スチールホイール	アルミホイール		
バン	165R13-6PRLT				
ワゴン	165/80R13 83S	13×5J		100mm ×4(穴)	39mm
	175/65R14 82S		14×5½J J		45mm

タイヤサイズ	項目	タイヤが冷えているときの タイヤ空気圧 [kPa {kg/cm ² }]			
		前輪		後輪	
		※1	※2	※1	※2
バン	165R13-6PRLT	220 {2.2}	220 {2.2}	280 {2.8}	
			240 {2.4} *3	220 {2.2}	300 {3.0} *3
ワゴン	165/80R13 83S	210 {2.1}			
	175/65R14 82S	220 {2.2}			

※1…空荷時

※2…100kg以上積荷（または4名乗車以上）

※3…1.5Lガソリン車でFF車のオートマチック車

■車両仕様

名称		型式	エンジン	駆動方式	グレード
プロボックス	ワゴン	NCP58G	1NZ-FE (1.5L ガソリン)	FF (前輪駆動)	F
		NCP59G		4WD (4輪駆動)	F
	バン	NCP50V	2NZ-FE (1.3L ガソリン)	FF (前輪駆動)	DX
		NCP51V	1NZ-FE (1.5L ガソリン)		GL
		NCP52V	1NZ-FNE (1.5L CNG)		DX
		NCP55V	1NZ-FE (1.5L ガソリン)		GL
					—
					DX
					GL

MEMO

メンテナンス

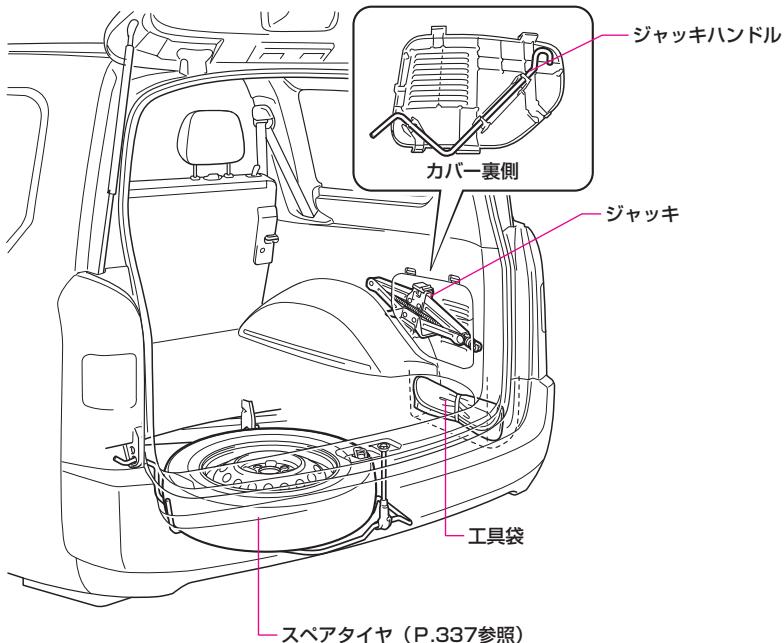
8

万一のとき

工具・スペアタイヤ・発炎筒	334
ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所	334
ジャッキ・工具・スペアタイヤの取り出し方	336
発炎筒の使い方	339
故障したときは	342
路上で故障したときは	342
動けなくなったときは	343
パンクしたときは	344
タイヤの交換	344
バッテリーがあがったときは	351
バッテリーあがりとは？	351
オーバーヒートしたときは	354
オーバーヒートとは？	354
けん引について	358
けん引のしかた	358
ガスもれに気づいたときは	362
次の処置を行ってください	362
事故が起きたときは	363
あわてずに次の処置を行ってください	363
車両を緊急停止するには	365
緊急停止のしかた	365

工具・スペアタイヤ・発炎筒

ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所

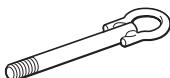


工具袋・ジャッキ・ジャッキハンドルは、ラゲージルーム右側に、スペアタイヤはラゲージルーム床下に格納されています。

ジャッキ・工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようあらかじめ確認しておきましょう。

●工具袋には次の工具が入っています。

●けん引フック



●ホイールナットレンチ





警告

工具やジャッキを使用したあとは、確実に格納してください。

- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

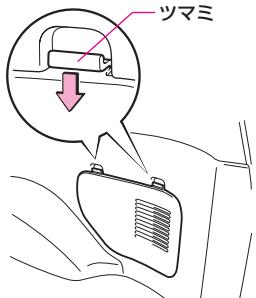


注意

車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。

ジャッキ・工具・スペアタイヤの取り出し方

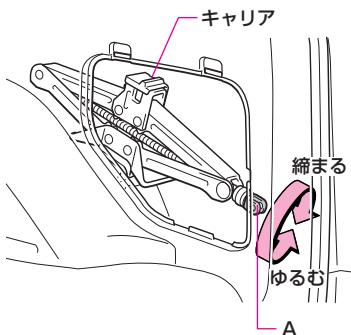
● ジャッキ・工具の取り出し方



1 右側カバーを取りはずします。

ラゲージルーム右側の、カバーのツマミを押しながら取りはずします。

●カバー裏側にジャッキハンドル、裏側スペースに工具袋が収納されています。



2 ジャッキを取り出します。

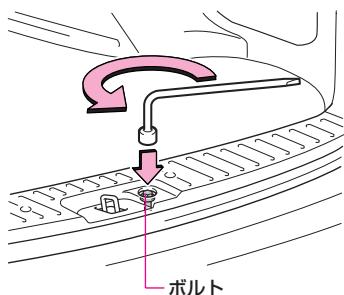
ジャッキのAの部分をまわしてゆるめ、ジャッキを取り出します。
格納するときは、ジャッキがキャリアに固定するようにAの部分を締めます。



工具袋の収納スペースには、工具袋以外のものを収納しないでください。

- 工具袋の収納スペースには、換気用の弁が取りつけられています。次の理由から工具袋以外のものを収納しないでください。
 - 荷物が弁をふさぎ、換気性能が悪化し、ドアの閉りが悪くなるおそれがあります。
 - 荷物で弁が押し開かれたままの状態になり、車内に排気ガスや水が進入するおそれがあります。
- 工具・工具袋は必ず下記の点に注意して収納してください。工具が転がり、車体を傷つけるなどのおそれがあります。
 - 工具は、必ず工具袋に入れて収納する。
 - 工具袋は、収納スペースの最深部に横向きにして収納する。

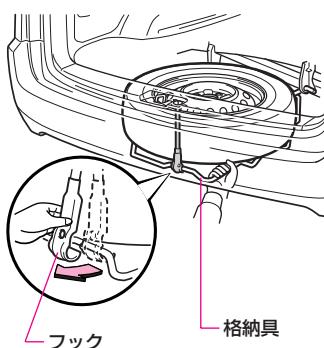
● スペアタイヤの取り出し方



■ 取り出すときは

1 ラゲージルーム後部床上のボルトをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、スペアタイヤ格納具をフックから取りはずせるぐらいまでゆるめます。



2 格納具を取りはずします。

格納具を少し持ち上げて、フックを手前に引いてはずし、格納具を足の上などに落とさないように注意して、地面におろします。

3 スペアタイヤを取り出します。

■格納するときは

1 タイヤをスペアタイヤ格納具に載せます。

2 格納具をフックにかけます。

3 床上のボルトを締めつけます。

- タイヤが確実に固定されていることを確認します。
- 格納具がフックに確実に固定されるように、床上ボルトは十分締めつけてください。



警告

格納具からタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないように注意してください。足などを挟みけがをするおそれがあり危険です。

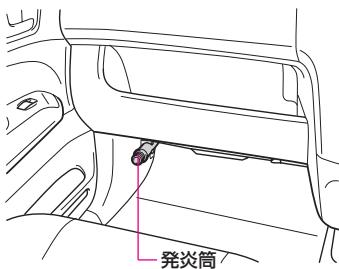


注意

必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.330で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。

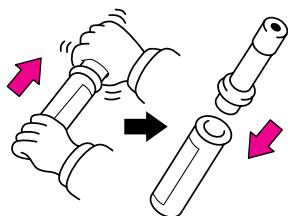
発炎筒の使い方

● 格納場所



助手席足元に備えつけてあります。

● 発炎筒の使い方



- 1 発炎筒を組み立てます。
本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



- 2 着火します。
キャップの頭部のすり薬でこすると、着火します。



警告

発炎筒は正しく取り扱ってください。

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - 発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - 発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- CNG車**
- 事故が起きたときや、ガスもれに気づいたときは発炎筒を絶対に使用しないでください。もれたガスに引火して車両火災になるおそれがあり危険です。



注意

発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。



知識

発炎筒について

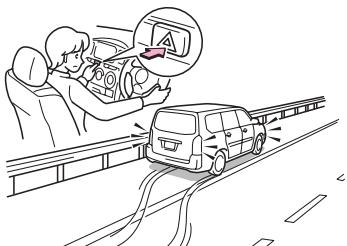
- 発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
- 発炎筒には有効期間があります。本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

MEMO

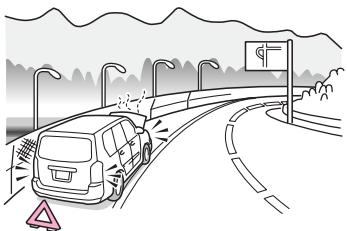
万一のとき

故障したときは

路上で故障したときは



非常点滅灯（P.214の「非常点滅灯スイッチの使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



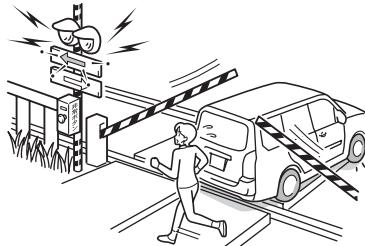
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務づけられています。）



緊急を要するときは発炎筒で合図します。
P.339「発炎筒の使い方」参照。

動けなくなったときは

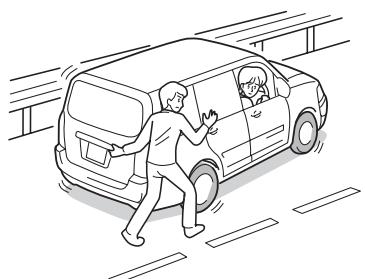
● 踏切で動けなくなったときは



シフトレバーを❶にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは、発炎筒を使用してください。

●エンジンスイッチを“START”で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

● 道路で動けなくなったときは



シフトレバーを❶にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

●エンジンスイッチを“START”で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

●困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、P.71の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

● タイヤ交換するまえに

1 平らな場所に移動します。

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 エンジンを停止します。

オートマチック車はシフトレバーをPにし、エンジンを停止します。
マニュアル車はエンジンを停止し、シフトレバーをRに入れます。

4 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 ジャッキ・工具を取り出します。

P.334～336参照。

6 輪止めを用意します。

ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。

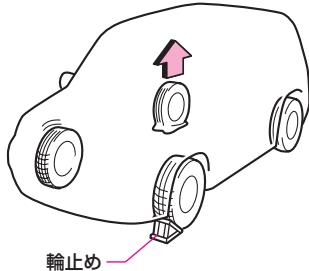
輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。

なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

7 スペアタイヤを用意します。

P.337参照。

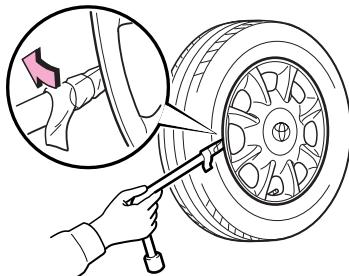
● タイヤ交換のしかた



1 輪止めをします。

ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

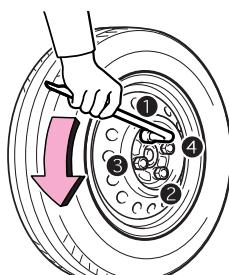
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。(図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています。)



2 ホイールキャップをはずします。

フルキャップ装着車は、ホイールナットレンチの先をホイールとキャップの間に差し込み、タイヤ側にこじるとはれます。(2~3力所、場所をかえて繰り返すと楽にはさせます。)

傷つき防止のため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いてください。

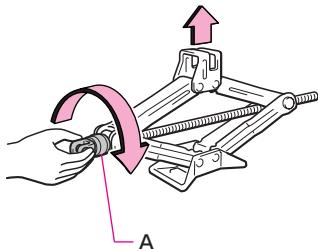


3 ナットをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

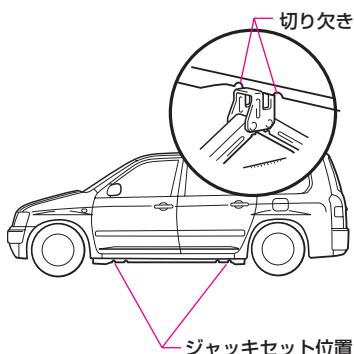
4 ジャッキを置きます。

地面の平らな固くて安定したところにジャッキを置きます。



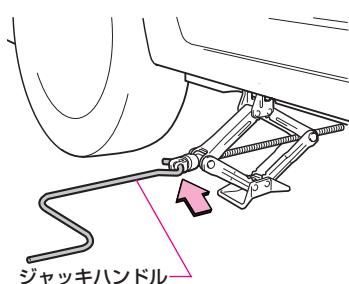
5 ジャッキを上げます。

ジャッキのAの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。



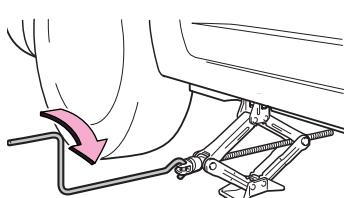
6 ジャッキセット位置（切り欠きの間）にジャッキをかけます。

取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にジャッキをかけます。
ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。



7 ジャッキハンドルを取りつけます。

ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。



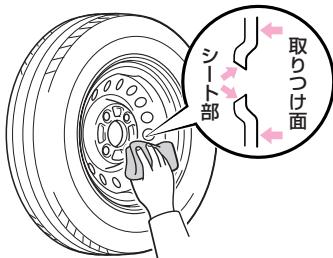
8 ジャッキアップします。

ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

9 ナットを取りはずします。

手でナットを左にまわして、取りはずします。

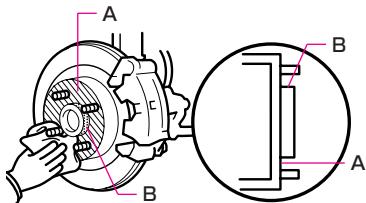
10 タイヤを取りはずします。



11 交換するタイヤを取り付けます。

- タイヤを取りつけるときは、ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面の汚れを拭き取ってから取りつけてください。

- 図のA・B面の汚れを拭き取ります。



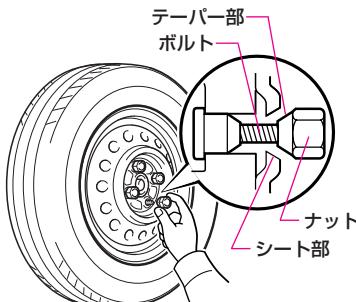
12 ナットを仮締めします。

タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

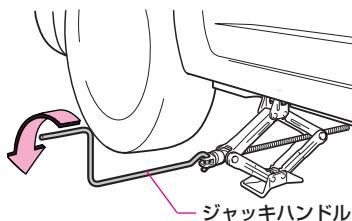
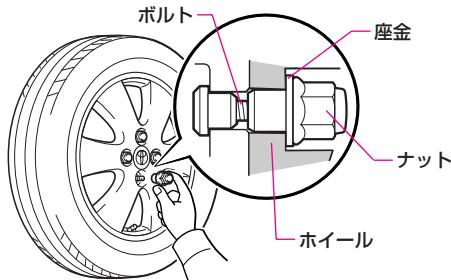
ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部（アルミホイールの場合、座金の裏側）の汚れ、異物を取り除いてください。

■スチールホイールからスチールホイールにかえるとき

ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。

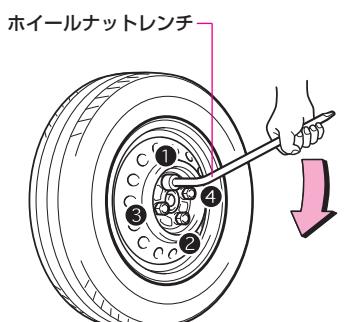


■アルミホイールからアルミホイールにかえるとき
ナットの座金がホイールに当たるまで仮締めします。



13 車体をおろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体をおろします。

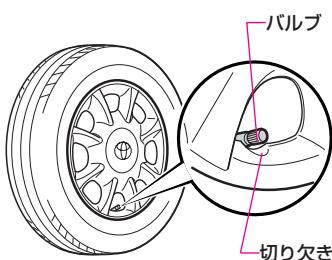


14 ナットを締めつけます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2~3度にわたり十分締めつけます。

●締めつけトルク：

103N・m {1050kgf・cm}



15 ホイールキャップを取り付けます。

●フルキャップ装着車では、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取りつけます。

16 工具・ジャッキ・タイヤを片づけます。

17 タイヤの空気圧を点検してください。 P.330参照。



警告

パンクしたまま走行しないでください。

- パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイール・サスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。
 - ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。
 - 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
 - ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
 - ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
 - 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
 - ジャッキアップした車体をおろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
 - ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
- 締めつけトルク：103N・m {1050kgf・cm}



警告

タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。

- タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。
- ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部やディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めづけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- アルミホイール装着車のナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。



注意

ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

- ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれていがをするおそれがあります。
- ホイールキャップは、直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。
- フルキャップ装着車のホイールキャップをはずすときは、ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ディスクホイール・ホイールキャップが損傷するおそれがあります。
- ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
- ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
- 傷・変形があるホイール取りつけナット・ディスクホイールなどは使用しないでください。
- タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは？



次のような状態が、バッテリーあがりです。

- スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッドライトがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。

救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

1 ブースターケーブルをつなぎます。

バッテリーの \oplus 端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

- ①自車のバッテリーの \oplus 端子
- ②救援車のバッテリーの \oplus 端子
- ③救援車のバッテリーの \ominus 端子
- ④次ページの図で指示している箇所（アースを取る。）

2 バッテリーを充電します。

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

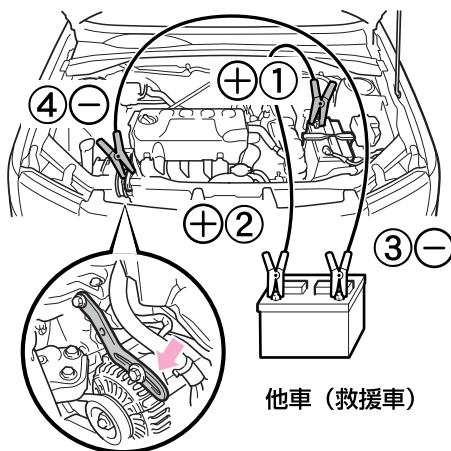
3 自車のエンジンをかけます。

4 ブースターケーブルをはずします。

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

【アースポイント】

自車（バッテリーあがり車）



● バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを停止したままランプをつけたり、オーディオ・エアコンなどを使わないようにしてください。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要的電装品の電源を切ってください。



警告

火気をバッテリーに近づけないでください。

- 必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないとバッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ④の接続は自車バッテリーの④端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
 - ブースターケーブルを接続するとき、④と④端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
 - 火気をバッテリーに近づけないでください。
- 充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
- ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締めつけてください。確実に締めつけないと、走行中にクランプがはずれて、ショートするなどして車両火災につながるおそれがあり危険です。



注意

救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

- 他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーであることを確認してから行ってください。
- バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは？



次のような状態が、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯（P.200）が点滅したり、エンジンの出力が低下する。
- ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置のしかた

1 車を止めます。

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合は、ファンを停止します。

2 ボンネットの確認をします。

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出でていない場合

ボンネットを開けて、そのままエンジンをかけておきます。

■ボンネットから蒸気が出でている場合

エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開けエンジンをかけます。

3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときはエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡してください。

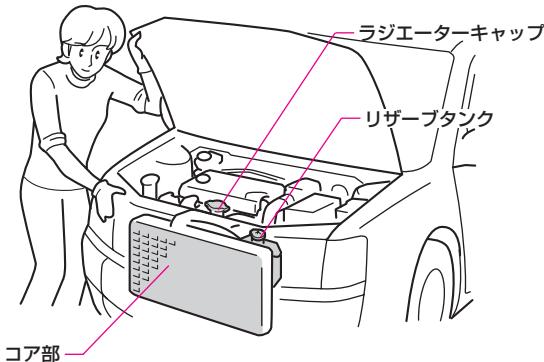


4 エンジンを停止します。

高水温警告灯が消灯したら、エンジンを停止します。

5 冷却水量などを確認します。

エンジンが冷えてからラジエーターキャップをはずし、ラジエーターとリザーブタンク（補助タンク）の冷却水量の確認およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。



6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンク（補助タンク）に冷却水を補給します。

- 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 移動途中で再び高水温警告灯が点灯したときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にしてください。ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナスノート」をお読みください。



警告

やけどなどしないように十分気をつけてください。

- ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどにより、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出でない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
- ラジエーターやリザーブタンク（補助タンク）が熱いときはラジエーターキャップ・エア抜きバルブを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなどにより、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップ・バルブを開けるときは、ラジエーターやリザーブタンク（補助タンク）が十分に冷えてから、布きれなどでキャップ・バルブを包みゆっくりと開けてください。
- エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

冷却水は、エンジンが熱いときに入れないとください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引のしかた

このけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。

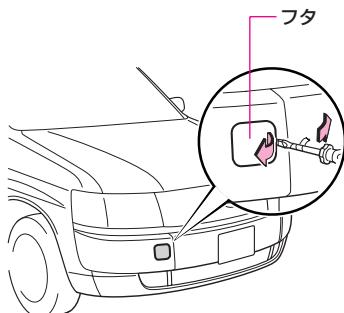
けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店、またはJ A Fなどに依頼してください。とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。

●エンジンがまわっているのに車が動かない。

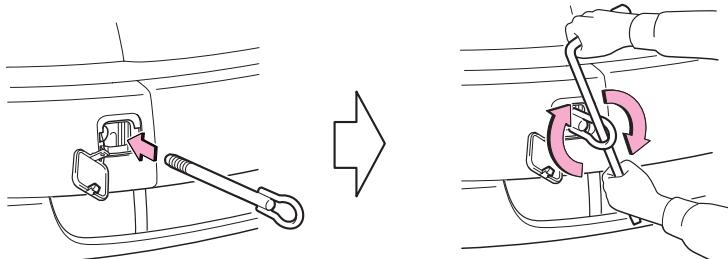
●異常な音がする。

1 けん引フック、ホイールナットレンチを取り出します。(P.334~336参照)

2 フタとバンパーのすき間に入る程度の薄刃の \ominus ドライバー先端に、バンパー傷つき防止のために薄手のテープを巻いて、フタをはずします。

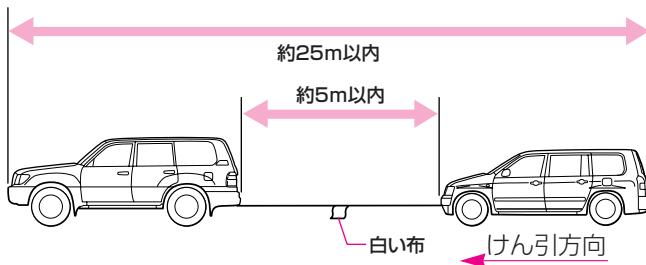


3 けん引フックをホイールナットレンチを用いて確実に取りつけます。



4 ロープをかけます。

ボディに傷をつけないようにして、ロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ずつけてください。



5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にします。

6 発進します。

シフトレバーを⑩にして、パーキングブレーキを解除します。

7 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。



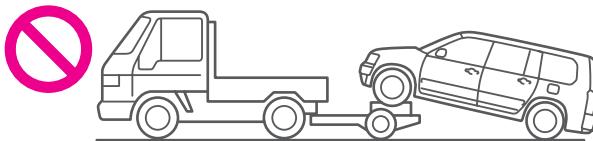
けん引される車は慎重に運転してください。

- けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかからっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンキーを抜いたり、エンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、“LOCK”だとキーが抜けるおそれがあります。
- けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害をあたえるおそれがあり危険です。



長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。

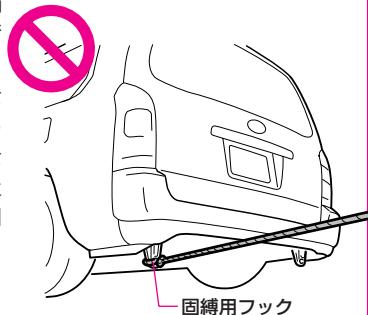
- 長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
- 4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼きつきを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出しあるおそれがあります。また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。



- オートマチック車の場合、けん引速度・約30km/h以下、けん引距離・約80km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより、4輪とも持ち上げて運搬してください。
 - スタック脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
 - ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。
 - スタック^{*}したときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やJAFなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
- ※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

! 注意

固縛用フックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対使用しないでください。けん引に使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。この車で他車をけん引することはできません。またフロントのけん引フックを、固縛用として使用しないでください。

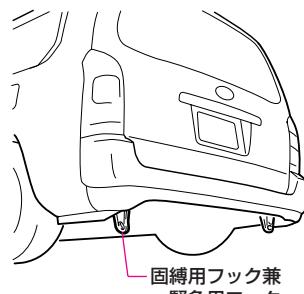


知識

寒冷地仕様車の固縛用フック（緊急用フック）について

寒冷地仕様車のリヤの固縛用フックは、緊急用フックとしても使用できます。緊急用フックとは、雪の吹きだまりなどでスタックして、走行できなくなったときに、緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するためのものです。

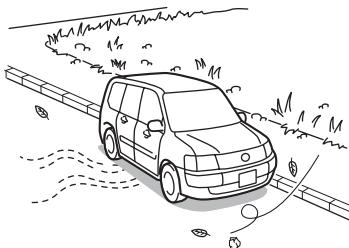
この車で他車をけん引することはできません。



ガスもれに気づいたときは

次の処置を行ってください

CNG車



■安全で風通しのよい場所に移動します。

ガスの臭い、その他の異常に気づいたときは、ただちに安全で風通しの良い場所に停車し、エンジンを止めてください。



■火気が近づかないように対処し、トヨタ販売店に連絡します。

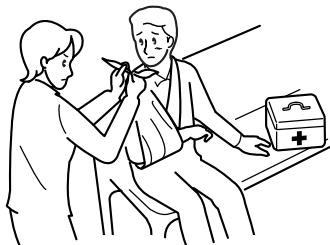
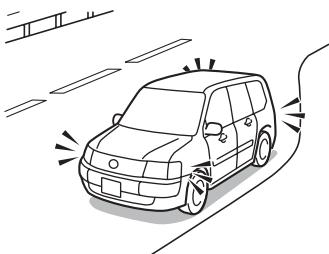
異常な箇所が発見できないときや、燃料タンクからガスがもれているときなどは、付近の人に救援を求めて監視人をつけるか、火気厳禁を表示して、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

■発炎筒は使用しないでください。

発炎筒は、もれたガスに引火するおそれがありますので、絶対に使用しないでください。車両火災になるおそれがあり危険です。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください



1 続発事故を防止します。

ほかの交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。

2 負傷者がいる場合は、応急手当を行います。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 警察への届け出をします。

4 相手方の確認とメモ（氏名・住所・電話番号）を取ります。

5 ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。

● CNG車で事故が起きたときは 次の処置も行ってください

CNG車



■すみやかにエンジンを停止し、ガスもれがないか点検します。

ガスもれの有無は、ガスの臭い・ガスのもれる音がする・燃料計（圧力計）の低下が異常に速い・CNG警告灯が点滅しているなどの症状で確認できます。



■火気が近づかないように対処し、トヨタ販売店に連絡します。

異常な箇所が発見できないときや、燃料タンクからガスがもれているときなどは、付近の人に救援を求めて監視人をつけるか、火気厳禁を表示して、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

■発炎筒は使用しないでください。

発炎筒は、もれたガスに引火するおそれがありますので、絶対に使用しないでください。車両火災になるおそれがあり危険です。

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常よりも強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーをNに入れます。

■シフトレバーがNに入った場合

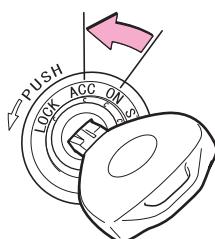
3 減速後、車を安全な道路脇に停めます。

4 エンジンを停止します。

■シフトレバーがNに入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

4 エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止します。



5 車を安全な道路脇に停めます。



走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

症状から調べたいときは、**色つき文字**の項目をお読みください。

あ行

アクセサリーソケット	241
ジャスタブルシートベルトアンカー	152
圧縮天然ガス (CNG) 車	
エンジンがかからないときは	165
エンジンルームの点検	310
ガスもれに気づいたときは	362
CNG車について	87
事故が起きたときは (CNG車)	364
燃料計 (圧力計)	184
燃料残量警告灯／CNG警告灯	201
燃料補給のしかた	127
アンチロックブレーキシステム (A B S)	258
アンテナ	231
E L R 機構付シートベルト	256
E C T (Super E C T)	264
イグニッションスイッチ	161
E B D 付A B S & ブレーキアシスト	258
E B D 付A B S & ブレーキアシスト についての注意	61
A B S & ブレーキアシスト警告灯	194
イラスト目次	8
インナーミラー	157
インパネテーブル	236
ウインドウウォッシャー	
液の補給	316
タンクの容量	325
冬の前の準備・点検	269
噴射のしかた	211
ウインドウデフォッガー (曇り取り)	
スイッチの使い方	213
ウインドウロックスイッチ	122
ウォーニングランプ (警告灯)	192
動けなくなったときは	343
運転席S R S エアバッグ	246
運転席シートベルト非着用警告灯	202
運転席ワイドフリーラック	240
エアコン	
使い方	218
手入れ	288

エアコンガス (冷媒) の点検	288
S R S エアバッグ	246
S R S エアバッグ警告灯	195
S R S エアバッグについての注意	56
SA E 粘度 (エンジンオイル)	329
L L C (冷却水)	
タンク容量・濃度	326
冬の前の準備・点検	269
エンジンオイル	
オイル量	328
注入口・レベルゲージ位置	309, 310
冬の前の準備・点検	269
エンジン警告灯	196
エンジン始動の手順	162
エンジンスイッチ	161
エンジンのかけ方	161
エンジンルーム	
エンジンルームから 煙 (水蒸気) が出ている	354
点検	309
ポンネットオープナー	132
エンストで始動できなくなったときは	343
オイル類	
(メンテナンスデータ)	325~329
オーディオの取り扱い	226
オートマチック車	
運転のしかた	174
オートマチック車についての注意	62
オートマチックトランスアクスルフルード	
フルード量	326
オーバーヒート	
オーバーヒートしたときの注意	80
オーバーヒートしたときは	354
オープナー	
フューエルリッドオープナー	126
ポンネットオープナー	132
お子さまを乗せるときの注意	40
お出かけ前の注意	15
オドメーター (積算距離計)	185

症状から調べたいときは、**色つき文字**の項目をお読みください。

か行	
カードホルダー	233
外装の手入れ	285
買い物フック	238
ガソリン（燃料）	
使用ガソリン／タンク容量	325
カップホルダー	238
間欠時間調整式ワイパー	209
間欠ワイパー	209
環境保護のために	280
寒冷時の取り扱い	269
寒冷地用ワイパープレード	270
キー	109
キーがまわせない	161
キー抜き忘れ防止チャイム	113
“キーー”と金属音がタイヤから聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）	34
キーレスエントリー	
（ワイヤレスドアロック）	124
基準値（メンテナンスデータ）	324
キックダウン	62
ギヤ（シフト）ポジション表示	190
緊急停止のしかた	365
空気圧（タイヤ）	330
区間距離計（トリップメーター）	185
曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）	213
クラクション（ホーン）	215
クリープ現象	62
車のまわりの点検	317
グレード名称	331
警音器（ホーン）	215
計器（メーター）	182
警告灯が点灯・点滅したときは	192
経済的な運転	278
けん引について	358
コインホルダー	239
工具	334
光軸上下調整	207
後退灯	
バルブの交換	305
W（ワット）数	325
故障したときは	342
子供専用シートについての注意	46

症状から調べたいときは、**色つき文字**の項目をお読みください。

さ行

サービスデータ	
(メンテナンスデータ)	324
サンバイザー	233
CNG車	
エンジンがかからないときは	165
エンジンルームの点検	310
ガスもれに気づいたときは	362
CNG車について	87
事故が起きたときは (CNG車)	364
燃料計 (圧力計)	184
燃料残量警告灯／CNG警告灯	201
燃料補給のしかた	127
シート	134
シートについての注意	43
フロントシート	136
リヤシート	140
ヘッドレストの調整	138, 139
シートベルト	148
シートベルトの働き	256
シートベルトについての注意	49
シートベルト非着用警告灯	202, 203
着用のしかた	151, 154
シガレットライター	235
事故が起きたときは	363
室内装備品の使い方	233
室内灯 (ルームランプ)	233
W (ワット) 数	325
シフトポジション表示	190
シフトレバー	
オートマチック車の使い方	168
■から動かせない	171
マニュアル車の使い方	172
シフトロックシステム	171
ジャッキ	
格納位置	334
ジャッキアップ	
ジャッキアップについての注意	78
ポイント (セット位置)	346
ジャッキハンドル	334

車幅灯

バルブの交換	302
ライトスイッチ	204
W (ワット) 数	325
車両型式	331
車両を緊急停止するには	365
充電警告灯	198
収納スペース	239
助手席SRSエアバッグ	246
助手席シートベルト非着用警告灯	203
助手席ワイドフリーラック	240
スイッチの使い方	204
Super ECT	
Super ECTとは	264
登降坂変速制御システム	265
フレックスロックアップシステム	264
ストップランプ (制動灯)	
バルブの交換	305
W (ワット) 数	325
スノータイヤ (冬用タイヤ)	270
スピードメーター	183
スペアタイヤ	337
スマールランプ (車幅灯)	
バルブの交換	302
ライトスイッチ	204
W (ワット) 数	325
制動灯 (ストップランプ)	
バルブの交換	305
W (ワット) 数	325
積算距離計 (オドメーター)	185
洗車	285
前照灯 (ヘッドライト)	
バルブの交換	300
ライトスイッチ	204
W (ワット) 数	325
センターボックス	236
走行について	
走行しての点検	323
走行するときの注意	23
走行中、異常に気づいたら	32
走行できなくなったときは	
(けん引について)	358

症状から調べたいときは、**色つき文字**の項目をお読みください。

速度計（スピードメーター） 183

た行

タイヤ

空気圧 330

スペアタイヤ 337

タイヤチェーン 274

タイヤについての注意 71

タイヤの点検 289、317

タイヤ／ホイールサイズ 330

タイヤローテーション

（タイヤ位置交換） 289

冬用タイヤ 270

タイヤを交換するときは 344

正しい運転姿勢（シート） 134

正しい着用（シートベルト） 148

チェーン（タイヤチェーン） 274

チャイルドプロテクターの使い方 112

駐車灯（非常点滅灯）

スイッチ 214

バルブの交換 303～305

W（ワット）数 325

駐車のしかた 179

駐車ブレーキ（パーキングブレーキ） 180

点検基準値 324

駐停車するときの注意 35

チルトステアリングレバー

（ハンドル上下調整） 156

ディファレンシャルオイル

オイル量 326

手入れ（車の手入れ） 284

テールランプ（尾灯）

バルブの交換 305

ライトスイッチ 204

W（ワット）数 325

デッキサイドポケット 237

デュアルSRSエアバッグ 246

電球（バルブ）の交換 298

電球（バルブ）のW（ワット）数 325

点検（日常点検） 308

電源、音量・音質調整（ラジオ） 227

点検基準値（メンテナンスデータ） 324

点検整備実施のお願い 14

点検・手入れ時の注意 69

ドア

開閉 108

ドアを開けたら“ピーピー、ピーピー”

と音が鳴り続けた 113

ドアガラス

開閉 120

ドアミラー 158

ドアロック 110

ドームランプ 233

W（ワット）数 325

登降坂変速制御システム 265

搭載工具 334

時計 234

トランスアクスルフルード

フルード量 326

トリップメーター（区間距離計） 185

症状から調べたいときは、**色つき文字**の項目をお読みください。

な行	は行
内外気切り替え（エアコン） 222	パーキングブレーキ 180
内装の手入れ 287	点検基準値 324
日常点検 308	排気ガスに対する注意 37
燃料	灰皿 235
タンク容量 325	ハイビーム（ヘッドライト）
燃料計 183	操作方法 205
燃料計（圧力計） 184	バルブの交換 300
燃料残量警告灯 200、201	ヘッドライト上向き表示灯 190
燃料補給口（フューエルリッド） 126	W（ワット）数 325
燃料補給時の注意 20	ハイマウントストップランプ
燃料補給のしかた（CNG車） 127	バルブの交換 306
	W（ワット）数 325
	ハザードランプ（非常点滅灯）
	スイッチ 214
	バルブの交換 303～305
	W（ワット）数 325
	挟み込み防止機構 120
	発炎筒の使い方 339
	バックアップランプ（後退灯）
	バルブの交換 305
	W（ワット）数 325
バックドア	バックドア
	開閉 114
バッテリー	バッテリー
	バッテリーがあがったときは 351
	バッテリーについての注意 76
	冬の前の準備・点検 269
	パッドウェアインジケーター（ブレーキ
	パッドウェアインジケーター） 34
	バルブ（電球）の交換 298
	バルブ（電球）のW（ワット）数 325
	パワーウィンドウ
	スイッチ 120
	パワーウィンドウが動かない 122
	パワーステアリングフルード
	フルード量 327

症状から調べたいときは、**色つき文字**の項目をお読みください。

パンクしたときは	344	フューエルキャップの開閉	126
番号灯		フューエルメーター（燃料計）	183, 184
バルブの交換	307	フューエルリッド（燃料補給口）	126
W（ワット）数	325	冬の前の準備・点検	269
半ドア警告灯	201	冬用タイヤ	270
ハンドル		プリテンショナー機構	256
位置の調整	156	プリテンショナー警告灯	195
ハンドルが重くなった	33	ブレーキアシスト	258
ヒーター	218	ブレーキ警告灯	197
“ピーピーピー”と長い音の繰り返し 〈リバース（後退）ブザー〉	171	ブレーキパッドウェインジケーター	34
“ピーピー、ピーピー”と短い音の繰り返し 〈キー抜き忘れ防止チャイム〉	113	ブレーキフルード	
非常点滅灯		タンク位置	309, 310
スイッチ	214	ブレーキペダル	
バルブの交換	303～305	点検基準値	324
W（ワット）数	325	ブレーキランプ（制動灯）	
尾灯		バルブの交換	305
バルブの交換	305	W（ワット）数	325
ライトスイッチ	204	ブレーキを踏むと“キーキー”と 音がする	34
W（ワット）数	325	フレックスロックアップシステム	
ヒューズの受け持つ装置			264
運転席側ヒューズボックス	294	フロアコンソール	238
エンジンルーム内ヒューズボックス	296	フロアマット	244
ヒューズの点検・交換	292	フロントシート	136
表示灯（メーター）	188	フロントドア	
日よけ（サンバイザー）	233	開閉	108
Vフレックスフルタイム4WD	262	ヘッドライト	
4WDについての注意	66	上向き表示灯	190
Vリブドベルト		バルブの交換	300
点検基準値	324	ライトスイッチ	204
フォースリミッター機構	256	W（ワット）数	325
フォグランプ		ヘッドライト	
バルブの交換	305		138
リヤフォグランプスイッチ	208	ベンホルダー	239
W（ワット）数	325		
フック（けん引）	358		

症状から調べたいときは、**色つき文字**の項目をお読みください。

ホイールサイズ	330
ホイールナットレンチ	334
ホイール（タイヤ）の交換	344
方向指示灯	
バルブの交換	303～305
方向指示表示灯	190
方向指示レバー	206
W（ワット）数	325
ホーン	215
ポンネット	132

ポンネットから煙（水蒸気）

が出ている	354
-------	-----

ま行

万一の事故のときの注意	81
ミラーの調整	
インナーミラー	157
ドアミラー	158
メーター	182
メーター照度調整ボタン	186
メンテナンスデータ	324

や行

油圧警告灯	199
4WD	
（Vフレックスフルタイム4WD）	262
4WD車についての注意	66

症状から調べたいときは、**色つき文字**の項目をお読みください。

ら行

ライセンスプレートランプ (番号灯)	
バルブの交換	307
ライトスイッチ	204
W (ワット) 数	325
ライトスイッチ	204
ラゲージルームランプ	233
W (ワット) 数	325
ラジエーター	
オーバーヒートしたときは	354
タンク・キャップ位置	309、310
冷却水濃度・容量	326
ラジオの取り扱い	226
リバース (後退) ブザー	171
リモコン (ワイヤレスドアロック)	124
電池交換	290
リヤウインドウデフォッガー	213
リヤシート	140
リヤディファレンシャルオイル	
オイル量	327
リヤドア	
開閉	108
リヤドアが車内から開けられない	112
リヤフォグランプ	208
バルブの交換	305
W (ワット) 数	325
ルームミラー (インナーミラー)	157
ルームランプ (室内灯)	233
W (ワット) 数	325
冷却水	
オーバーヒートしたときは	354
濃度・容量	326
冬の前の準備・点検	269
リザーバータンク位置	309、310
ロービーム (ヘッドライト)	
バルブの交換	300
W (ワット) 数	325
路上で故障したときは	342
ロックレバー	111

わ行

ワイドフリーラック	240
ワイパー＆ウォッシャー	209
ワイヤレスドアロック	124
リモコンの電池交換	290
ワックス	285
W (ワット) 数	325
1DINポケット	237

警告灯さくいん



A B S &
ブレーキアシスト
警告灯 P.194



高水温警告灯
(赤色) P.200



S R S エアバッグ／
プリテンショナー
警告灯 P.195



燃料残量警告灯 P.200



エンジン警告灯 P.196



燃料残量警告灯／
C N G 警告灯 P.201



ブレーキ警告灯 P.197



半ドア警告灯 P.201



充電警告灯 P.198



運転席シート
ベルト非着用
警告灯 P.202



油圧警告灯 P.199



助手席シート
ベルト非着用
警告灯 P.203

MEMO

MEMO



お問い合わせ、ご相談は
下記へお願ひいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オーブン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。
●印刷 IB-2010年5月25日

●発行 2010年6月1日 初版

M 52A12
01999-52A12